

2017年度

青山学院大学
FD活動報告書



青山学院大学全学FD委員会

青山学院教育方針

青山学院の教育は
キリスト教信仰にもとづく教育をめざし、
神の前に真実に生き
真理を謙虚に追求し
愛と奉仕の精神をもって
すべての人と社会とに対する責任を
進んで果たす人間の形成を目的とする。

青山学院 スクール・モットー

地の塩、世の光

The Salt of the Earth, The Light of the World

(聖書 マタイによる福音書 第5章13～16節より)

青山学院大学の理念

青山学院大学は、「青山学院教育方針」に立脚した、
神と人にとりて社会に貢献する
「地の塩、世の光」としての教育研究共同体である。
本学は、地球規模の視野にもとづく正しい認識をもって
自ら問題を発見し解決する知恵と力を持つ人材を育成する。
それは、人類への奉仕をめざす自由で幅広い学問研究を通してなされる。
本学すべての教員、職員、学生は、
相互の人格を尊重し、建学以来の伝統を重んじつつ、
おのおのの立場において、
時代の要請に応えうる大学の創出に努める。

2017年度 青山学院大学 FD活動報告書 目次

1. はじめに	1
2. 本年度活動一覧	2
3. 新任教職員研修会	4
4. 授業改善のための学生アンケート	22
5. 学生 FD スタッフの活動	29
6. 教育改善支援制度	44
7. 学生意識調査	72
8. FD 講演会	75
9. 科目ナンバリング	79
10. その他の FD 活動	123
11. 諸規則	126
12. FD 推進委員会及び全学 FD 委員会 委員一覧	128

1. はじめに

全学 FD 委員会委員長
副学長 田中 正郎

FD (Faculty Development) 活動は、「授業の内容及び方法の改善を図るための組織的な取り組み」といわれます。その内容は多岐にわたり、現状ではより幅広い活動へと展開してきました。本学の FD 活動は、2003 年度から全学的な授業改善のための学生アンケートがはじまり、2005 年度から FD プロジェクトチームが活動を開始しました。そして、2008 年 10 月から FD 推進委員会、2009 年 4 月から全学 FD 委員会が活動を開始しました。全学 FD 委員会の守備範囲は FD にとどまらず SD (Staff Development) まで広がってきました。

2013 年 4 月には、組織の強化をはかるため教育支援課が発足し、FD 活動の推進を支える体制が整えられました。2016 年度には、SD 研修会の企画運営を政策・企画課と連携できるようになり、内容が広がりました。このようにして、本学の FD 活動は個々の教員の自発的な授業改善から始まり、次第に組織的な授業改善や教育支援活動へと展開されてきました。

組織的な FD 活動の一例として、2009 年度に発足した「教育改善・教育プログラム支援制度」があります。本学で行われる教育の質的向上をめざす取り組みや新たな教育プログラムの開発を支援することによって教育の改善・改革を進めることを目的とするものです。2016 年度に「教育改善支援制度」と名称を改め、その精神が現在に引き継がれています。教員個人だけではなく、教職協働や学部横断的なグループ単位で、さまざまな取り組みが行われています。もちろん、この制度によらない個々の教員による教育改善も活発に行われておりその蓄積は、潜在的にたいへん大きなものがあります。しかし、これらの豊富な取り組みは、組織全体が共有する財産となっていないのが現状です。

情報は個人に固着しており継承することが難しいという現状があります。これらの豊富な取り組みの経験を情報システムの活用で可視化するだけでなく、組織として磨き、組織として活用する仕組みが求められています。学生達の夢や希望を大切にして、教員と職員が協働しながら、より豊かな、質の高い教育の実現をめざしてゆきたいと思います。

2. 本年度活動一覧

○ 2017年度 月別活動一覧

	委員会開催	新任 教職員 研修会	教育改善支援制度	学生意識調査	授業改善のための 学生アンケート
4月	4月26日 ①FD推進委員会 ①全学FD委員会	4月3日 第1回開催	(2016年度外部評価委員会全 体講評の発表) 3月10日 公募開始 4月21日 公募締切	(3月28日)～4月5日 学生意識調査(1・2年生)・ キャリアアプローチ(3年生) 調査実施	4月1日 (2016年度後期結果 公開)
5月	5月17日 ②FD推進委員会		外部評価委員事前審査 5月8日 第1回外部評価委員全体会(審 査・配分額決定) 5月22日 採択プログラム決定 各プログラム活動開始	5月10日(青山)24日(相模 原) 1～3年生対象フォローアップ 講座	
6月	6月14日 ③FD推進委員会 (②全学FD委員会 →FD講演会)				
7月	7月12日 ④FD推進委員会			7月5日～26日 結果報告会(各学部) 6月29日 事務職員対象結果報告会	7月3日～25日 前期アンケート実施
8月					
9月	9月20日 ⑤FD推進委員会 ③全学FD委員会	9月11日 第2回開催		9月14日～30日 4年生調査(9月卒業生) 9月15日 結果報告会(大学執行部)	9月14日 前期結果公開
10月	10月25日 ⑥FD推進委員会 ④全学FD委員会				
11月	11月22日 ⑦FD推進委員会				
12月	12月20日 ⑧FD推進委員会 ⑤全学FD委員会			12月1日 4年生調査(全4年生)開始 (～3月24日)	12月18日 後期アンケート実施 (～1月23日)
1月	1月24日 ⑨FD推進委員会				
2月	2月28日 ⑩FD推進委員会 ⑥全学FD委員会		2月28日 プログラム活動期間終了 活動報告書・決算報告書提出		
3月			外部評価委員事前審査 3月9日 第2回外部評価委員全体会(最 終審査・全体講評作成)	3月24日 4年生調査終了	(4月2日) 後期結果公開

	FDフォーラム FD講演会	学内研修会	SD講演会・研修 会	学生FDスタッフの活動	全国私立大学 FD連携フォーラム	関東圏FD連 絡会
4月		4月6日 教室設備説明会				
5月	5月31日 FDフォーラム 第1回開催					
6月	6月14日 FD講演会 第1回開催	6月28日 第7回プログラム 実施	6月22日、27日 SD研修会 (全学FD委員会 共催)		6月3日 総会出席	6月30日 連絡会出席
7月		7月12日 第8回プログラム 実施		Happyくらす作品コンクール 7月18日募集開始 (～9月30日)		
8月						
9月				8月31日、9月1日 学生FDサミット2017夏 参加 9月30日 Happyくらす作品コンクール 募集締切		
10月				10月30日 Happyくらす作品コンクール審 査		
11月				11月22日 Happyくらす作品コンクール授 賞式 ・受賞者による座談会		11月7日 連絡会出席
12月						
1月					1月12日 会員校ミーティング	
2月						
3月				3月8日・9日 学生FDサミット2018春 参加		3月2日 連絡会出席

3. 新任教職員研修会

本学では、大学に新規採用された教員と学院全体で採用された事務職員を対象とした「新任教職員研修会」を年2回開催している。

第1回は本学就任直後の4月初旬に開催され、本学における教育研究活動の概要からFD活動の紹介、各種手続に関する説明を行い、本学での教育研究活動が円滑に開始できることを目的としている。当日は、専任教員41名、専任職員34名が参加した。

第2回は9月中旬～下旬に開催され、前期の授業経験を踏まえ、教育方法の改善に資する契機となる研修を行うべく、外部から講師をお招きし、より実践的な内容の研修会を実施している。2017年度は、2012～2016年度に引き続き、杉原真晃先生に講師をお引き受けいただいた。当日は、専任教員26名、専任職員29名が参加した。またこの中には、9月から就任の新任教員6名も含まれる。

○ 2017 年度第 1 回 大学新任教職員研修会次第

日時 4 月 3 日 (月) 9 : 30 ~ 11 : 30

場所 第 4 会議室 (青山キャンパス 6 号館 1 階)

司会 全学 FD 委員会委員長 田中 正郎教授

プログラム

1. 聖書朗読・祈祷 大学宗教部長 塩谷 直也教授

「いつも喜んでいなさい。絶えず祈りなさい。どんなことにも感謝しなさい。これこそ、キリスト・イエスにおいて、神があなたがたに望んでおられることです。」(テサロニケの信徒への手紙 一 第 5 章 16~18 節)
“Rejoice always, pray continually, give thanks in all circumstances; for this is God’s will for you in Christ Jesus.” (1 Thessalonians 5:16-18)

(2017 年度学院主題聖句)
2. 開会挨拶 学長 三木 義一教授
3. 本学におけるキリスト教教育の土台～礼拝について 大学宗教部長 塩谷 直也教授
4. 青山スタンダードについて 青山スタンダード教育機構副機構長 西澤 宗英教授
5. 本学の FD 活動について 全学 FD 委員会副委員長 杉谷 祐美子教授
6. 本学の教育支援体制について
 - (1) 教育研究システムについて 情報メディアセンター所長 宋 少秋教授
 - (2) 事務組織について 大学事務局長 菅野 治男
 - (3) 学事暦、授業、成績評価等について 学務部教務課 課長 乃美 浩一
 - (4) 研究制度及び研究費等について 研究推進部 部長 山口 和彦
 - (5) 施設設備利用について 庶務部施設課 課長 菊地 大介
7. 閉会挨拶 副学長 田中 正郎教授

以上

青山学院大学のFD活動



青山学院大学全学FD委員会

1. 基本方針

◇FDとは？

Faculty Development＝教員の職能開発
「授業の内容及び方法の改善を図るための組織的な取り組み」

◇教育力の向上は大学の責務

◇青山学院大学のFD活動

単なる授業改善にとどまらず、さまざまな教育支援を組織的に展開

2

本学のFD活動が重視している点

- ◇大学を構成する教員、職員、学生、社会の4者が協力して、組織的に教育の改善を行う
- ◇学生にとって、また教職員にとって「個々が安心して教育目標に向かって取り組むことのできる環境作り」を実現する
- ◇FD、SD相互のバランスをとりながら、教職員が協力して教育力の向上に努める
※ SD (Staff Development) = 職員の職能開発

⇒ 教員、職員が一体となった教育改善へ

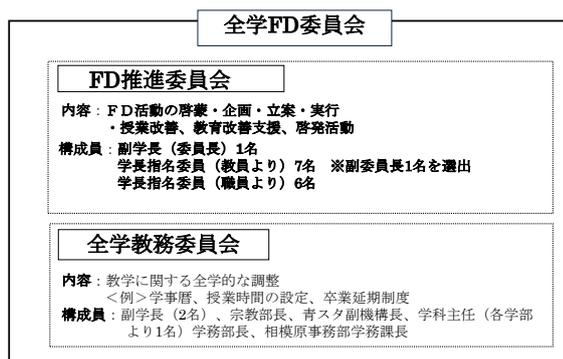
3

2. FD組織の発足

- 2003年度 全学的な授業評価アンケート実施
- 2005年度 FDプロジェクトチーム発足
- 2008年4月 大学設置基準改正 第25条の3によるFDの組織的活動の義務化
(専門職大学院は2003年度、大学院は2007年度、学部は2008年度より義務化)
- 2008年10月 FD推進委員会設置
- 2009年3月 全学FD委員会設置
- 2009年3月 青山学院大学FD規則制定

4

本学のFD組織



5

FD推進委員会の役割

- 学長のもとに、少人数で機動的な組織を設置する
- 教職員の構想力によって企画立案を進める
- FD活動の啓蒙
- 全学のFD活動を活性化する起動力に
⇒ 全学FD委員会の構成員

6

3. 主なFD活動の紹介

教育改善支援制度による採択テーマ

教育の質を高めるためのプロジェクトを学内公募し、採択されたものに補助金供与

2009年度

- ・シラバスと講義録の統合情報に関する高度活用システムの構築
- ・「科学・技術に関する意識データベース」の構築
- ・各種資格(司書・社会教育主事)教育プログラムの評価モデルの開発
- ・ティーチング&ラーニング・ポートフォリオに基づく総合的教育支援
- ・大学生に対するリーガルリスク教育

2016年度

- ・学生意識調査の有効活用に向けて
- ・留学生のための日本文学・日本文化の独自テキストの製作
- ・全身で覚えるフランス語
- ・ラーニングコモンズやグローバル化に向けた教職員共同のPDプログラム構築と評価

7

全学的な学生意識調査

- ・ 調査の目的
 - 大学はカリキュラムや学生支援のあるべき姿を検討
 - 学生は学生生活の目標設定、学びと進路のつながりを意識
- ・ 学年進行に伴って卒業時調査を含めた経年比較が可能
 - 1年 新入生の現状把握
 - 2年 学生の満足度・成長感把握
 - 3年 学生の満足度・成長感把握、就職への動機づけ
 - 4年 学生が身につけた力・モチベーションの変化の把握、満足度・成長感把握
- ・ 学生個人へのフィードバック
 - 個人結果報告書の返却、フォローアップ講座
- ・ 結果 「学生の意識調査からみる青山学院大学の学生像」
「この4年間の軌跡」(⇒大学HP)

8

FDハンドブックの制作

青山学院大学 FDハンドブック



本学の教育に関する各種情報、授業改善アイデア、「授業改善のための学生アンケート」の活用等をまとめたFDハンドブック

青山学院大学 FD活動マスコット
【FDEago(エフディーゴ)】

9

FDハンドブックの目次

目次	
第1部 青山学院大学の教育に関する基本情報	…2
授業時間	…2
青山スタンダード科目	…3
学生数(学部・研究科別)	…4
教員数	…5
第2部 授業改善のためのアイデア	…9
1 「授業改善のための学生アンケート」概要、活用、留意事項一覧	…9
2 「授業改善のための学生アンケート」実施状況(2015年度)、留意点アンケート	…9
3 授業の心構え	…10
4 授業のデザイン	…11
5 シラバスの構築	…12
6 最終的選択・作成	…14
7 最初の授業	…15
8 授業の改善方法	…16
9 授業の継続と更新	…18
10 授業のアイデア1・2・3	…20
第3部 青山学院大学の教育に関する制度及び設備・サービス	…30
1 成績評価	…30
2 試験	…31
3 休講・補講	…32
4 留学制度	…32
5 教育設備(講義室・演習室)	…34
6 学内ネットワーキング	…38
7 授業支援システム(LMS)	…38
8 Aquaviva-Forum	…37
備考文庫	…44

10

FD講演会

教職員及び学生を対象に、全学的にFD活動の浸透をはかる

2016年は・・・

「大学のグローバル化と教育改革：日米の大学での勤務経験と国際プログラム立ち上げからの一考察」(2016年6月)

講師：鄭 幸子先生(岡山大学全学教育・学生支援機構 准教授)

- ・ディスカッション時のファシリテーターの重要性、役割
- ・学生参加型の授業をするには(参加者とグループワークをとおしてアクティブラーニング実践)
- ・日米大学間の教育費・授業料の比較
- ・岡山大学グローバル・ディスカバリープログラムについて



11

教員のための英語研修プログラム

- ・ 教員が英語での指導や講義、プレゼンテーションを行うため、必要な英語表現、スキル、手法を実践的に学ぶプログラム
- ・ 第5回 「発音とGlobal Englishes」(2016年10月)
- ・ 第6回 「アカデミック・ライティング(導入)」(2016年11月)



12

授業アンケートのWEB入力



2016年度より、WEBアンケート調査方式にて実施

- ・ アンケート所要時間の短縮(授業時間内のアンケート実施)
- ・ アンケート実施方法の統一 等

- 「授業改善のための学生アンケート」
アンケート項目例(FDハンドブックP.7)
- ・ 受講理由(Q1)
 - ・ 予習・復習時間(Q4)
 - ・ 授業の難易度(Q6)
 - ・ 説明の分かりやすさ(Q8)
 - ・ 授業の到達目標の達成状況(Q14)

アンケート平均回答率

2015年度	前期73.8%	後期68.4%
2016年度	前期29.3%	後期28.1%

* WEBアンケート調査の実施手順はFDハンドブックP.9を参照

「私を成長させてくれた授業」をテーマとした「Happyくらす作品コンクール」



- ・ 授業を通して得た発見や感動、体験、成長などのよい思い出を表現した作品を学生から募集
- ・ 2016年度審査結果 優秀賞1作品、佳作2作品、学生FDスタッフ特別賞1作品

～優秀賞作品～

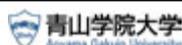
「私を成長させてくれた授業」

法学部法学科 2年

「…全一五回の授業が終わり、先生は最後に私達一人一人の名前を呼び、それぞれに一枚の紙を手渡して下さいました。その紙一面に貼り付けられていたのは、今までの自分の出席カードの数々だった。裏面には当時の自分の考えや疑問がたくさん書き連ねられており、「あの時はこんなことを思っていたな」と振り返りながら、この授業を通して得た視点や考え方、自らの成長に気がつくことができた。大人数の講義にも関わらず、私達一人一人をきちんと“人”として扱って下さる先生の思いを感じることができたからこそ、私も自分自身をじっくりと見つめ直し向き合うことができた。…」(⇒大学HP)

14

学生FD活動「しゃべり場」



- ・ 学生FDスタッフ
 - 学生の視点から大学の授業や教育のあり方を考える学生団体
 - FD推進委員会への報告、全学FD委員会との交流、関東圏学生FD連絡会や全国学生FDサミットでの活動

学生FDスタッフキックオフミーティング (2016年5月)

学生FDスタッフ、FD推進委員との意見交換(写真は2015年度)



15

4. 今後のFD活動に向けて 近年の大学政策にみるFD



◇「全学的な改革サイクルの確立のため、ワークショップを中心に「プログラムとしての学士課程教育」という基本的な認識の共有や教育方法に関する技術の向上に資する充実したFDを実施する。そのために、専門家(ファカルティ・ディベロッパー)の養成や確保、活用を図る。」

◇「…単に授業内容・方法の改善のための研修に限らず、広く教育の改善、更には研究活動、社会貢献、管理運営に関わる教員団の職能開発の活動全般を指すものとしてFDの語を用いる場合もある。」

中央教育審議会「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて～生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ～(答申)」2012年8月28日

専門性を高め、授業を越えて幅広く展開

16

◇「各大学における教学システムの確立に不可欠なファカルティ・ディベロップメント(FD)の専門家、…の養成、確保、活用のために、拠点形成や大学間の連携の在り方等に関する調査研究を行う。なお、これと並行して、体系的なFDの受講と大学設置基準第14条(教授の資格)に定める「大学における教育を担当するにふさわしい教育上の能力」の関係の整理について検討を行う。」

中央教育審議会「第2期教育振興基本計画について(答申)」2013年4月25日

専門性と体系的、教員の教育力の検討

◇補助事業等の要件として、「学長を中心とした事業実施体制の整備、全教職員へのFD・SDの徹底等を求めるなど、既に様々な先行的な取組が行われている。」

中央教育審議会大学分科会「大学のガバナンス改革の推進について(審議まとめ)」2014年2月12日

全学的な取組に

17

◇「大学は、当該大学の教育研究活動等の適切かつ効果的な運営を図るため、その職員に必要な知識及び技能を習得させ、並びにその能力及び資質を向上させるための研修(第25条の3に規定するものを除く。)の機会を設けることその他必要な取組を行うものとする。」

「大学設置基準等の一部を改正する省令」2016年3月31日公布

「大学設置基準第42条の3」2017年4月1日より施行

教員を含めてのSDの義務化

◇「大学の事務職員の職務の現状を踏まえたものに見直すとともに、教職協働を推進し、大学総体として機能強化を図るべきことを、法令上明確に示していく必要があるのではないか。」

中央教育審議会大学分科会第133回配布資料「大学の事務職員等の在り方について

(取組の方向性案)」2017年1月25日

「事務に従事」することの見直しと教員と職員との連携体制

18

本学の姿勢



- ◇「FDの実施自体を目的とするのではなく、FD活動を通じて「学生に修得させる能力を明確にして体系的な教育課程を提供するとともに、学修の成果を厳格に評価する」ことをめざしています。」(大学HP)
- ◇「個々の教員による教育改善の蓄積は、潜在的にたいへん大きなものがあります。しかし、これらの豊富な教育資源は、目に見えないままであり、個人に固着しており継承することが難しいという現状があります。これらの豊富な資源を可視化するとともに、情報システムを活用することで、組織全体が共有する財産とすることが求められています。学生達の夢や希望を大切に、教員と職員が協働しながら、より豊かな、質の高い教育の実現をめざしてゆきたいと思えます。」
(青山学院大学全学FD委員会『2015年度青山学院大学FD活動報告書』)

※学内・外の研修会やセミナー等に関する案内、FD活動に関する情報等は、大学HPやポータルにて発信 (<http://www.aoyama.ac.jp/outline/effort/fd/>)
本年9月にワークショップ形式の第2回大学新任教職員研修会を予定¹⁹

参考) これまでのFD活動 2009年度の主要な活動



- ・ 授業アンケートの見直し
- ・ 「教育改善・教育プログラム支援」制度の発足
- ・ 次年度の新任教職員研修会プログラムの検討
- ・ 各学部におけるFD活動の事例紹介
- ・ 他大学との連携、交流
- ・ 全国私立大学FD連携フォーラムへ加盟
- ・ 関東圏FD連絡会への参加

20

2010年度の主要な活動



- ・ 新任教職員研修会の開催
- ・ 「教育改善・教育プログラム支援」制度の実施
- ・ 全学的な学生意識調査の実施
- ・ 授業シラバスの学外公開開始
- ・ 授業アンケートの集計結果の学外公開
- ・ 「FD letter」の発刊
- ・ 「実践的FDプログラム」上映会の開催
- ・ 他大学との連携、交流

21

2011年度の主要な活動



- ・ 新任教職員研修会の開催
- ・ 「教育改善・教育プログラム支援」制度の実施
- ・ 全学的な学生意識調査の実施
- ・ 授業アンケートの集計結果の学外公開
- ・ 授業改善アンケートのための教員アンケートの実施と分析
- ・ 「FD letter」の発刊
- ・ 学生FD活動「しゃべり場」の後援
- ・ 他大学との連携、交流
- ・ シラバスのWEB公開

22

2012年度の主要な活動



- ・ 新任教職員研修会の開催
- ・ 「教育改善・教育プログラム支援」制度の実施
- ・ 全学的な学生意識調査の実施と集計結果の外部公開
- ・ 授業アンケートの集計結果の学外公開
- ・ FDキャラクター FDEago の投入
- ・ FD Tip の紹介
- ・ FD Board の設置
- ・ 「心に残る授業」をテーマとした「Happyくらす作品コンクール」の実施
- ・ 学生FD活動「しゃべり場」の後援
- ・ 他大学との連携、交流

23

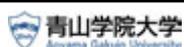
2013年度の主要な活動



- ・ 新任教職員研修会の開催
- ・ 「教育改善・教育プログラム支援」制度の実施
- ・ 全学的な学生意識調査の実施と集計結果の外部公開をテーマとしたFDフォーラムの開催
- ・ 授業アンケートの集計結果の学外公開
- ・ 「心に残る授業」をテーマとした「Happyくらす作品コンクール」の実施と受賞者との座談会開催
- ・ 学生FDスタッフと教職員の交流会実施
- ・ 学生FD活動「しゃべり場」の後援
- ・ 他大学との連携、交流、包括協定締結
- ・ FDハンドブックの制作

24

2014年度の主要な活動



- 新任教職員研修会の開催
- 「教育改善・教育プログラム支援」制度の実施
- 授業アンケートの集計結果の学外公開
- 「心に残る授業」をテーマとした「Happyくらす作品コンクール」の実施と受賞者との座談会開催
- 学生FDスタッフと教職員の交流会実施
- 学生FD活動「しゃべり場」の後援
- 他大学との連携、交流、セミナーへの参加
- FDハンドブックの改訂
- 学外の講師による「FD講演会」開催
- 教員のための英語研修プログラム開催

25

2015年度の主要な活動



- 新任教職員研修会の開催
- 「教育改善支援制度」の実施(前年度より名称変更)
- 授業アンケートの集計結果の学外公開(試験的に一部WEB入力を実施)
- 「私を成長させてくれた授業」をテーマとした「Happyくらす作品コンクール」の実施と受賞者との座談会開催
- 学生FD活動「しゃべり場」の後援
- 他大学との連携、交流、セミナーへの参加
- 学外の講師による「FD講演会」開催
- 教員のための英語研修プログラム開催

26

2016年度の主要な活動



- 新任教職員研修会の開催、FD・SD研修会の実施
- 「教育改善支援制度」の実施
- 授業アンケートの集計結果の学外公開
- 授業アンケートのWEB入力を実施
- 「私を成長させてくれた授業」をテーマとした「Happyくらす作品コンクール」の実施と受賞者との座談会開催
- 学生FD活動の後援
- 他大学との連携、交流、セミナーへの参加
- 学外の講師による「FD講演会」開催
- 教員のための英語研修プログラム開催
- FDハンドブックの改訂

27

○ 2017年度 第2回大学新任教職員研修会次第

日 時 9月11日(月) 10:00~12:00

場 所 大会議室(青山キャンパス 総合研究所ビル12階)

司 会 学務部教育支援課 竹田 治世

開会祈祷 大学宗教主任 大宮 謙准教授

開会挨拶 全学FD委員会委員長

副学長 田中 正郎教授

プログラム

講師: 杉原 真晃 先生

聖心女子大学 文学部教育学科 准教授

- (1) 入学前から卒業後までを視野に入れた大学教育改革
- (2) ワークショップ: 青山学院大学の教育改革の提案

閉会挨拶 全学FD委員会副委員長

教育人間科学部 杉谷 祐美子教授

以上

本日の目標

- ・青山学院大学の教育・学生支援の取組に関するアイデアを出す。

本日の内容

- ・大学教育改革の最近の動向（別資料参照）を参照し、大学教育全体の動向を認識する。
別資料：『高大接続システム改革会議「最終報告」参考資料』（一部）【資料 1】
『今後の各高等教育機関の役割・機能の強化に関する論点整理』（一部）【資料 2】
- ・大学教育改革の動向をふまえ、青山学院大学における教育・学生支援の取組に関するアイデアを創出する。その際は、次のことに配慮する。
 - ・研修に参加する多様な学部・学科、部局に所属するメンバーの特長を活かし、学部・学科や部局を横断した、そして、教員と事務職員が連携した（教職協働）、取組（教養教育、学習支援、キャリア支援、課外活動支援等）を考案する。
 - ・多様な学部・学科、部局のメンバーから構成されるチームを組み、メンバーで相談しながら、アイデアを創出する。
 - ・各自が青山学院大学で勤務し経験したこと・感じたこと・考えたことを大切にアイデアを練る。
 - ・次の資料も準備しているので、ご参照されたい。
 - ・青山学院大学 2017 年度 学生意識調査（一部）【資料 3】
 - ・上記の参考資料以外にも、各チームで自由に必要情報を収集することも推奨。
- ・教育・学生支援の取組に関するアイデアは、主に、次の項目から構成する。
 - (1) チーム名、チームメンバー
 - (2) タイトル
 - (3) 目的
 - (4) 具体的な取組内容
 - (5) 取組スケジュール（期間は最短 1 年、最長 3 年。自由に設定）
 - (6) 目的が達成されたかどうかを評価する方法

資料2

高大接続システム改革会議「最終報告」参考資料 (一部)

(2) 大学教育改革に関する資料

高大接続改革：「三つのポリシー」に基づく大学教育改革の実現に向けて

≪学校教育法施行規則の改正≫

全ての大学等において、以下の三つの方針を一貫性あるものとして策定し、公表するものとする。

- ①卒業認定・学位授与の方針、②教育課程編成・実施の方針、③入学者受入れの方針

(平成29年4月1日施行)

大学教育の充実に向けた PDCAサイクルの確立

- ・生涯学び続け、主体的に考える力を持ち、未来を切り拓いていく人材を育成する大学教育の実現
- ・大学教育の「入口」から「出口」までを一貫したものとして構築し、高等学校や産業界をはじめ広く社会に発信

大学教育の 質的転換

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

学生が身に付けるべき資質・能力の明確化
<PDCAサイクルの起点>

各大学の教育理念を踏まえ、
一貫性あるものとして策定

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

体系的で組織的な教育活動の展開のための教育課程編成、
教育内容・方法、学修成果の評価方法の明確化

入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

入学者に求める学力の明確化、
具体的な入学者選抜方法の明示

≪三つのポリシーの策定及び運用に関するガイドライン≫

各大学の建学の精神や強み・特色等を踏まえた自主的・自律的な三つのポリシーの策定と運用の参考指針

(主な内容)

- ・三つのポリシーの策定単位は、学位プログラム(授与される学位の専攻分野ごとの入学から卒業までの課程)を基本に、各大学が適切に判断。
- ・各大学において、
 - ①卒業までに学生が身に付けるべき資質・能力を示すディプロマ・ポリシーと、それを達成するための教育課程の編成・実施の在り方を示すカリキュラム・ポリシー、②これら二つのポリシーを踏まえて学生を受け入れるためのアドミッション・ポリシーを、それぞれ策定。
- ・三つのポリシーに基づく大学教育の諸活動を実施するとともに、その結果の自己点検・評価とそれを踏まえた改善に取り組み、大学教育の内部質保証システムを確立。
- ・三つのポリシーとそれに基づく教育の実績等を分かりやすく積極的に情報公開することで、高校の進路指導を改善するとともに、産業界からの理解を得て連携を強化。

各専攻分野を通じて培う学士力 ～学士課程共通の学習成果に関する参考指針～ (「学士課程教育の構築に向けて」(平成20年12月24日中央教育審議会答申)より)

学士課程の各専攻分野を通じて培う力。教養を身に付けた市民として行動できる能力。
～学士課程共通の「学習成果」に関する参考指針～

1. 知識・理解

専攻する特定の学問分野における基本的な知識を体系的に理解するとともに、その知識体系の意味と自己の存在を歴史・社会・自然と関連付けて理解する。

- (1) 多文化・異文化に関する知識の理解
- (2) 人類の文化、社会と自然に関する知識の理解

2. 汎用的技能

知的活動でも職業生活や社会生活でも必要な技能

- (1) コミュニケーション・スキル
日本語と特定の外国語を用いて、読み、書き、聞き、話すことができる。
- (2) 数量的スキル
自然や社会的現象について、シンボルを活用して分析し、理解し、表現することができる。
- (3) 情報リテラシー
情報通信技術(ICT)を用いて、多様な情報を収集・分析して適正に判断し、モラルに則って効果的に活用することができる。
- (4) 論理的思考力
情報や知識を複眼的、論理的に分析し、表現できる。
- (5) 問題解決力
問題を発見し、解決に必要な情報を収集・分析・整理し、その問題を確実に解決できる。

3. 態度・志向性

- (1) 自己管理力
自らを律して行動できる。
- (2) チームワーク、リーダーシップ
他者と協調・協働して行動できる。また、他者に方向性を示し、目標の実現のために動員できる。
- (3) 倫理観
自己の良心と社会の規範やルールに従って行動できる。
- (4) 市民としての社会的責任
社会の一員としての意識を持ち、義務と権利を適正に行使しつつ、社会の発展のために積極的に関与できる。
- (5) 生涯学習力
卒業後も自律・自立して学習できる。

4. 統合的な学習経験と創造的思考力

これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題にそれらを適用し、その課題を解決する能力

61

これからの目指すべき社会像と求められる能力

(「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて」(平成24年8月28日中央教育審議会答申)より)

これからの目指すべき社会像と求められる能力

○我が国の目指すべき社会像

優れた知識やアイデアの積極的活用によって発展するとともに、人が人を支える安定的な成長を持続的に果たす成熟社会
⇒ 「知識を基盤とした自立、協働、創造モデル」

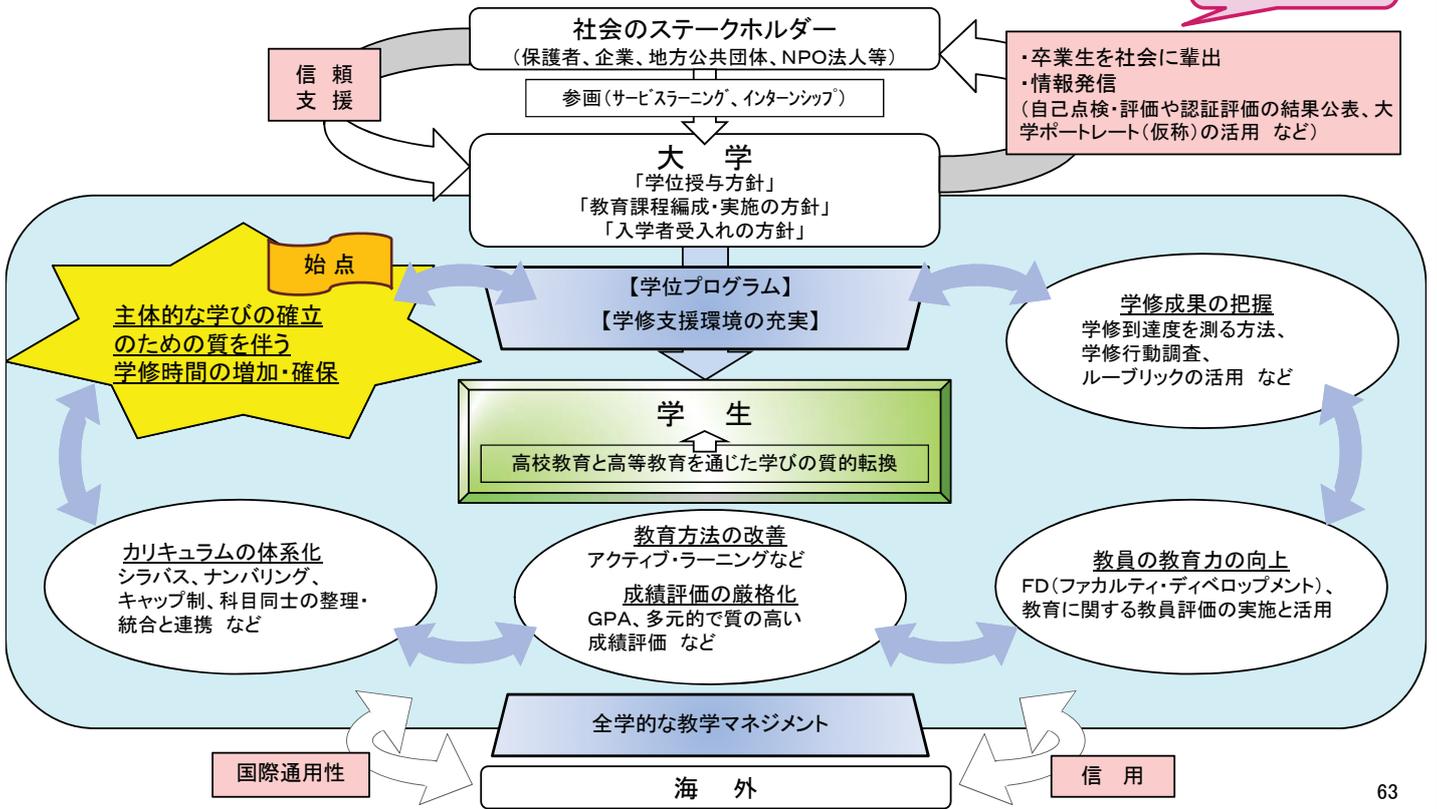
○成熟社会において求められる能力(学士力)

- ・ 知識や技能を活用して複雑な事柄を問題として理解し、答えのない問題に解を見出していくための批判的、合理的な思考力をはじめとする認知的能力
- ・ 人間としての自らの責務を果たし、他者に配慮しながらチームワークやリーダーシップを発揮して社会的責任を担い、倫理的、社会的能力
- ・ 総合的かつ持続的な学修経験に基づく創造力と構想力
- ・ 想定外の困難に際して的確な判断ができるための基盤となる教養、知識、経験
⇒ 予測困難な時代において高等教育段階で培うことが求められる「学士力」

62

学士課程教育の質的転換への好循環の確立

このような好循環
が回ることが重要



今後の各高等教育機関の役割・機能の強化に関する 論点整理

1. 本論点整理の位置付け

2. 高等教育機関の役割・機能に係るこれまでの政策の動向

3. 高等教育を取り巻く状況の変化と今後特に重視すべき考え方の方向

4. 各高等教育機関の役割・機能の強化に関し、早急に取り組むべき論点

(1) 各高等教育機関における役割・機能の強化

- ・大学（学士課程）
- ・大学院
- ・短期大学
- ・高等専門学校
- ・専門学校

(2) 各高等教育機関における職業教育の強化と「実践的な職業教育を行う新たな高等教育機関」

5. 今後の高等教育改革全体の課題として中期的視点、長期的視点からより詳細に検討すべき論点

(1) 将来像答申（平成17年）以降の施策の検証

- ・大学等の機能別分化
- ・高等教育の質の保証

(2) 中期的視点、長期的視点からの論点

i) 変化への対応や価値の創造等を実現するための学生の学びの質の向上

- ・学生本位の視点に立った教育の実現に向けた検討
- ・学位等の国際的な通用性の確保
- ・社会人の学びへの貢献の強化
- ・教員・学生の流動性の向上
- ・教育の質向上と効果的な運営のための高等教育機関間の連携強化

ii) 学生の学びの質を向上させるための基盤整備

- ・我が国における高等教育全体の規模、地域における高等教育機会の確保等の在り方等
- ・設置認可の在り方等に関する検討
- ・高等教育機関のガバナンスの強化

iii) 高等教育の改革を支える支援方策

- ・教育研究を支える基盤的経費、競争的資金の確保、配分等

1. 本論点整理の位置付け

- 社会経済の変化等も踏まえた今後の各高等教育機関の役割・機能の在り方や、それらの役割・機能の強化のための方策を中心に、今後の高等教育改革に係る基本的な論点を整理する。本論点整理を踏まえ、次期中央教育審議会大学分科会において、より具体的な検討が進められることを期待する。
- 本分科会においては、「今後の各高等教育機関の役割・機能の強化に関する作業チーム」を中心に、以下の三つの視点を踏まえて、論点を整理した。
 - ・平成 28 年 5 月に答申された「実践的な職業教育を行う新たな高等教育機関の制度化」を見据えた高等教育機関の役割・機能の在り方に関する考察（短期的視点）
 - ・第 3 期教育振興基本計画（平成 30 年度～34 年度）の策定に向け、高等教育に関して検討を進める必要がある事項の整理（中期的視点）
 - ・平成 32 年頃までを念頭において提言されている「我が国の高等教育の将来像（答申）」（平成 17 年 1 月）に代わる高等教育の新たな将来構想の策定に向け、検討することが必要な事項の整理（長期的視点）

2. 高等教育機関の役割・機能に係るこれまでの政策の動向

- 平成 17 年に策定された「我が国の高等教育の将来像（答申）」（以下「将来像答申」という。）では、高等教育機関の役割・機能について以下のような方針を提示した。
 - ・新時代の高等教育は、全体として多様化して学習者の様々な需要に的確に対応するため、学校種（大学・短期大学、高等専門学校、専門学校）ごとの役割・機能を踏まえた教育・研究の展開と相互の接続や連携の促進を図るとともに、特に大学は、①－⑦（※）等の各種の機能を併有するものであり、自らの選択により、緩やかに機能別分化していくべき
 - ※①世界的研究・教育拠点
 - ②高度専門職業人養成
 - ③幅広い職業人養成
 - ④総合的教養教育
 - ⑤特定の専門的分野（芸術、体育等）の教育・研究
 - ⑥地域の生涯学習機会の拠点
 - ⑦社会貢献機能（地域貢献、産学官連携、国際交流等）
- 国の財政支援等においても、「国立大学法人運営費交付金の三つの重点支援の枠組み」や「スーパーグローバル大学創成支援事業」の創設、「地（知）の拠点大

学による地方創生推進事業（COC+）」など、各機関の個性・特色を明確化する方向での取組が行われるとともに、制度面に関しても、学長のリーダーシップの下で、それぞれの個性や強みを生かして戦略的に大学をマネジメントできるガバナンス体制の構築を促進するための制度改正が平成 26 年に行われている。

3. 高等教育を取り巻く状況の変化と今後特に重視すべき考え方の方向

○（将来像答申後の変化）

「将来像答申」後の社会経済の変化として、高等教育の在り方に大きく関わるものとしては、例えば、以下のものが挙げられる。

- ・人口の減少（18歳人口や生産年齢人口の減少、地方における急激な人口減少など）
- ・大学等への進学率、学生数の変化、進学機会の格差
- ・経済社会のグローバル化の進展
- ・技術革新による産業構造の変化（AI、IoT、ビッグデータ、セキュリティ分野の急速な進展などの影響（第4次産業革命）を含む。）
- ・就業構造の変化（専門性、創造性の高い高付加価値型の職業への需要増、メンバーシップ型雇用からジョブ型雇用のシフト、雇用の流動化など）
- ・経済的格差の拡大、貧困問題の顕在化
- ・地方創生の必要性の高まり
- ・世界的な学術研究の進展

○（高等教育政策の在り方の検討の必要性）

こうした中で、高等教育においては、知識・技能を学んで修得する能力だけでなく、学んだ知識・技能を実践・応用する力、さらには、自ら問題の発見・解決に取り組み、多様な他者と協働しながら、新たなモノやサービスを生み出し社会に新たな価値を創造する力を育成することが強く求められる。各高等教育機関は、こうした能力を備え、変化の激しい時代の中で、より良い地域づくり、国づくり、グローバルな社会づくりを担う人材の育成とイノベーションの創出に全力で取り組む必要がある。そのためには、これからの時代における高等教育の使命の再定義も含め、人口減少時代における高等教育政策の在り方について総合的に検討することが必要である。

○（各機関の機能強化の基本的方向性）

このことを前提に、今後の高等教育機関の機能強化の基本的方向性としては、将来像答申で示されている機能別分化の考え方を踏まえながら、特に次の二つの方向での充実を図ることが必要と考えられる。各機関には、この二つの方向を念

頭に置きつつ、学校種としての役割・機能を踏まえ、またそれぞれの個性や強みを生かしながら、取組を進め、発展していくことが期待される。

- ①新たな価値創出の基盤となる創造的な教育研究の高度化
- ②社会の変化、地域や産業界の多様な要請を踏まえた実践的な教育の充実

○ 各機関が取組を進めるに当たっては、特に以下のような点に留意することが重要と考えられる。

- ・進学率の上昇、中等教育との接続の改善
- ・第4次産業革命や Society5.0 における成長分野の人材育成や、日本型雇用慣行の変化、働き方改革の議論を踏まえた社会人の学びに対する貢献の強化
- ・イノベーションの創出拠点としての研究機能の向上、産学連携の抜本的強化
- ・各高等教育機関の強みを生かした機関間の連携強化等による地域に必要な高等教育機会の確保
- ・各機関の戦略的経営に向けた教員、職員それぞれの資質・能力の向上と教職協働の強化、事務組織の機能強化

4. 各高等教育機関の役割・機能の強化に関し、早急に取り組むべき論点

(1) 各高等教育機関における役割・機能の強化

○ 上記を踏まえて、各学校種別にその現状と課題、基本となる役割・機能と今後早急に取り組むべき論点を整理すると以下のとおりである。

(大学（学士課程）)

○ 大学の学士課程については、少子化が進む中においても、いわゆる 18 歳時進学率の上昇により、学生数が増加している。量的拡大が進み、進学率が 50%を超えるユニバーサル段階を迎え、各大学の特色、強みの一層の明確化を進めていくことが必要となっている。その際、18 歳時以外の学生のより積極的な受入れにも取り組むことにより、生涯を通じた人材育成の場としての大学の機能を高めることが求められる。

○ 多様な学生が入学してくる中で、学士課程教育の質の確保が課題となっており、各大学においては、「卒業認定・学位授与の方針」、「教育課程編成・実施の方針」、「入学者受入れの方針」を実質的なものとするとともに、それに基づく体系的・組織的な教育の充実を図ることが必要である。その際、今後の変化の激しい時代にあっても共通基盤として必要な力を明確化し、育成することにも留意する必要がある。

○ 教育・研究両面でのグローバル化への対応、成長分野における人材育成など産業界からの実践的な職業教育の要請への対応、大学が所在する地域への貢献なども大きな課題となっており、こうした課題への対応の中で自らの特色、強みを発揮しようとする取組や、複数大学の連携によりこうした課題へ対応しようとする取組も出てきている。

○ さらに、教育・研究の発展の基盤として、大学という組織のガバナンスの確立や財政的基盤の確保も重要である。平成 26 年には、学校教育法等が改正され、副学長・教授会等の職や組織の規定の見直し、国立大学法人の学長選考の透明化などの制度改革が行われたところであり、こうした改正の趣旨に沿った学長のリーダーシップに基づく大学運営の高度化に向けた各大学の取組が求められている。

○ このような現状の課題を踏まえ、大学における機能強化の方向性として、以下のような観点が重要である。

- ・ 多様化した学生に対応するための、各大学の持つ特色、強化すべき機能の明確化による一層の機能別分化
- ・ 進学率の上昇が続く中、学生を学士として責任を持って社会に送り出すための、大学教育の質的転換の実現と高等学校教育との接続を重視した大学入学者選抜への転換
- ・ e-ラーニングの一層の活用。グローバル化に対応した教育の強化、学位や単位の国際通用性を確保するための教育の質保証
- ・ 未来の産業創造・社会変革に対応した人材を育成するための、第 4 次産業革命や Society5.0 の下での成長分野（AI、IoT、ビッグデータ、セキュリティ分野など）に対応する理工系人材等の質的充実・量的確保や、社会人の学び直しを含めた産業界と連携した高度で実践的な教育の充実

○ こうした機能強化を支えるため、以下のような事項について早急に検討を進める必要がある。

・ 三つの方針を踏まえた教育課程の改善、指導方法の改善

平成 29 年 4 月から各大学での策定・公表が義務付けられる三つの方針を踏まえ、大学の教育理念にふさわしい入学者を受け入れるための大学入学者選抜の在り方をより適切なものに改善すること、単なる授業改善にとどまらず、卒業後の出口も十分に意識しながら、大学として体系的で組織的な教育活動を展開

すること、問題の発見・解決に向けた学生の能動的・主体的な学修を促す取組を充実すること、学修成果の可視化やPDCAサイクルによるカリキュラムマネジメントの確立等に取り組むことなどが必要。

・ 学生の学修時間の把握、大学での学修成果の可視化、及びそれらに関する情報発信

大学教育を通じて「学生が何を身に付けたか」という観点を一層重視するとともに、どのような評価の基準や方法に基づき、個々の学生の学修成果の把握・評価を行い、大学として卒業を認定・学位を授与したかについて、社会に対して説明責任を果たせるようにするため、学修成果の具体的な把握・評価方法（ルーブリック、学修行動調査等）への取組や、より効果的な公示方法等の開発・実践、学修ポートフォリオの活動など個々の学生による学修履歴の記録、振り返り、学修デザインの支援などの取組を促進することが必要。あわせて、こうした教育に係る取組を教員の業績評価においても重視することが重要。

・ 組織的な教育体制の確立

学生の教育に関わる全ての教員が三つの方針を理解し、連携して質の高い教育に取り組むことができるよう、ファカルティ・ディベロップメントの充実や教員の教育実績の評価の在り方等の改善を図ることが必要。また、産学連携を組織的に推進し、大学における研究の進展や大学発のイノベーションの創出に寄与するようリサーチ・アドミニストレーター等をはじめとする専門的職員の位置づけについても検討が必要。

(大学院)

- 大学院は、研究者の養成、高度専門職業人の養成及び市民の高度な学習需要への対応、という三つの機能を担っている。専門職学位課程については、学び直しの場として社会人の受入れも進んでおり、近年、やや進学者数が増加傾向にあるが、人口100万人当たりの修士号取得者、博士号取得者の人数が主要国で大幅に増加しているのに対し、我が国では、修士号取得者の人数はほとんど増加しておらず、博士号取得者の人数は減っている。
- 我が国の研究活動の状況を見ると、多くの分野において、論文数や論文の引用状況から見た日本の地位が相対的に低下傾向にあり、学術研究の国際競争の中で、日本の存在感が薄れ、新たに台頭する国々の間で埋没する事態が顕在化しつつある。また、個々の研究者に目を向けると、様々な制約の下、研究時間が減少する中で、短期的な成果を挙げることを急いだり、すぐに役立つかどうか過度にとらわれたりする反面、長期的な展望を持った未踏の領域への大胆な挑戦が少なく

4. 授業改善のための学生アンケート

本学では、2003年度より、授業内容・方法に関する学生へのアンケート調査「授業改善のための学生アンケート」（以下、本アンケートと略）を全学的に実施している。

2016年度より、本アンケートの実施方法を、従来の「マークシート調査方式」から「WEBアンケート調査方式」に変更した。

○ アンケート概要

【実施目的】

「大学が、学生により良い授業を提供し、授業改善を図るための手段」として、学生によるアンケートを実施する。

【実施概要】

本アンケートは、全学部・研究科（専門職大学院を除く）において、共通の設問・回答項目を用いて実施している。

前期は前期開講科目、後期は通年科目及び後期開講科目の内、受講者数が5名以上の科目を本アンケートの対象としている。ただし、演習科目及び実験・実習科目、集中科目を除く他、研究科の開講科目は各研究科が指定した科目としている。

本アンケートは、「WEB アンケート調査方式」にて実施している。ただし、授業担当者が特に希望する場合は、マークシート調査方式に替えることができる。

学生は所定の期間中の任意の機会にアンケートへの回答を行う。アンケートは無記名の回答であり、全学共通の17問の選択式回答及び1問の自由記述式回答と、学部・学科及び授業担当者が独自に作成し追加することが可能な13問の選択式回答及び1問の自由記述式回答から成る。

本アンケートの結果は、当該科目の成績評価への影響がない時期に各授業担当者へ報告される他、一定の集計を経て全教職員及び学生に開示される。その際、学部・研究科によっては科目単位での結果開示を行っている。

【その他】

本アンケートの集計結果の一部は、本学 WEB サイト(<http://www.aoyama.ac.jp/>)に掲載している。

○ アンケート項目

授業改善のための学生アンケート Student Survey to Improve Classroom Instruction

青山学院大学 Aoyama Gakuin University

このアンケート調査は、青山学院大学が授業改善を目的とし、科目担当者が授業をより充実させるために実施するものです。結果の担当教員への返却は、成績提出後に行われます。したがって、皆さんの成績評価には一切影響ありません。また、アンケートの参加は皆さんの自由意思によるものです。

The purpose of this survey is to help instructors improve the quality of their classroom instruction. The instructor will not see the results of the survey until after grade reports are handed in, and therefore responses to the survey items cannot influence your grades. Participation in the survey is voluntary.

A. 授業への取り組みに関する質問 Questions about your attitude toward this course:

1. あなたがこの授業を履修した理由は何ですか。(複数回答可)

What is your reason for taking this course? (multiple responses allowed)

- | | |
|------------------|------------------------------------|
| 5) 授業内容に興味があったから | I was interested in the content; |
| 4) 教員に魅力があったから | I was attracted to the instructor; |
| 3) 空き時間があったから | I had this period open; |
| 2) 単位がとりやすいから | it looked easy; |
| 1) 必須科目だから | it was a required course; |

2. あなたはこの授業にどの程度出席しましたか。

How often did you attend classes?

- | | |
|----------------|----------------------------------|
| 5) ほとんど出席した | almost every class; |
| 4) 3分の2程度出席した | about two thirds of the classes; |
| 3) 半分程度出席した | about half the classes; |
| 2) 3分の1程度出席した | about one third of the classes; |
| 1) ほとんど出席しなかった | I rarely attended. |

3. あなたは授業内容を理解するため積極的に取り組んだと思いますか。

I made an effort to understand the subject matter.

- | | |
|--------------|-------------------------------|
| 5) 強くそう思う | I strongly agree; |
| 4) そう思う | I agree; |
| 3) どちらともいえない | I neither agree nor disagree; |
| 2) そう思わない | I disagree; |
| 1) 全くそう思わない | I strongly disagree. |

4. 1回の授業につき、あなたは予習・復習を平均してどのくらいしましたか。

On average, how much time did you spend for preparation and review?

- | | |
|------------|---|
| 5) 3時間以上 | more than three hours; |
| 4) 2時間 | about two hours; |
| 3) 1時間 | about one hour; |
| 2) 30分以下 | less than 30 minutes; |
| 1) 全くしていない | I never prepared for class or reviewed after class. |

5. この授業は「講義内容」(シラバス)を基本にして授業が行われましたか。

The instructor lectured according to his/her course syllabus.

- | | |
|--------------|-------------------------------|
| 5) 強くそう思う | I strongly agree; |
| 4) そう思う | I agree; |
| 3) どちらともいえない | I neither agree nor disagree; |
| 2) そう思わない | I disagree; |
| 1) 全くそう思わない | I strongly disagree. |

6.この授業の難易度はどうでしたか。

How difficult was this course?

- | | |
|-----------|-----------------------|
| 5) とても難しい | very difficult; |
| 4) やや難しい | relatively difficult; |
| 3) 適切 | appropriate; |
| 2) やや易しい | relatively easy; |
| 1) とても易しい | very easy. |

7. この授業の進行速度は適切でしたか。

What is your impression of the pace of instruction?

- | | |
|-----------|-----------------|
| 5) 速すぎた | too rapid; |
| 4) やや速かった | a little rapid; |
| 3) 適切 | appropriate; |
| 2) やや遅かった | a little slow; |
| 1) 遅すぎた | too slow. |

8. 教員の説明の仕方は分かりやすいものでしたか。

The instruction given in this class was easy to understand.

- | | |
|--------------|-------------------------------|
| 5) 強くそう思う | I strongly agree; |
| 4) そう思う | I agree; |
| 3) どちらともいえない | I neither agree nor disagree; |
| 2) そう思わない | I disagree; |
| 1) 全くそう思わない | I strongly disagree. |

9. 教科書や配布資料は授業内容を理解するうえで効果的でしたか。

The textbooks or handouts were effective in understanding the subject matter.

- | | |
|---------------------------|---|
| 5) 強くそう思う | I strongly agree; |
| 4) そう思う | I agree; |
| 3) どちらともいえない | I neither agree nor disagree; |
| 2) そう思わない | I disagree; |
| 1) 全くそう思わない | I strongly disagree; |
| 0) この授業では教科書・配布資料を使用しなかった | The instructor did not use textbooks or handouts. |

10. 黒板やプロジェクター等の使い方は効果的でしたか。

The instructor used teaching aids (blackboard, overhead projector, etc.)

- | | |
|------------------------------|---|
| 5) 強くそう思う | I strongly agree; |
| 4) そう思う | I agree; |
| 3) どちらともいえない | I neither agree nor disagree; |
| 2) そう思わない | I disagree; |
| 1) 全くそう思わない | I strongly disagree; |
| 0) この授業では黒板・プロジェクター等を使用しなかった | The instructor did not use any teaching aids. |

11. この授業に対する担当教員の熱意が感じられましたか。

I felt the instructor's enthusiasm toward this course.

- | | |
|--------------|-------------------------------|
| 5) 強くそう思う | I strongly agree; |
| 4) そう思う | I agree; |
| 3) どちらともいえない | I neither agree nor disagree; |
| 2) そう思わない | I disagree; |
| 1) 全くそう思わない | I strongly disagree. |

12. 授業時間内外における質問への対応は適切でしたか。

The instructor responded appropriately to my questions in and outside class.

- | | |
|--------------|-------------------------------|
| 5) 強くそう思う | I strongly agree; |
| 4) そう思う | I agree; |
| 3) どちらともいえない | I neither agree nor disagree; |
| 2) そう思わない | I disagree; |
| 1) 全くそう思わない | I strongly disagree. |

13. 補佐教員(助手、TA)のサポートは適切でしたか。

I thought the support of assistants (lecture assistants or teaching assistants) was appropriate.

- | | |
|---------------------|---|
| 5) 強くそう思う | I strongly agree; |
| 4) そう思う | I agree; |
| 3) どちらともいえない | I neither agree nor disagree; |
| 2) そう思わない | I disagree; |
| 1) 全くそう思わない | I strongly disagree; |
| 0) この授業には補佐教員がいなかった | There were no assistants in this class. |

C. 授業の成果に関する質問

Questions about the outcome of this course:

14. あなたは、この授業の開講時に示された到達目標を十分に達成したと思いますか。

I think that I have achieved the course objectives.

- | | |
|--------------|-------------------------------|
| 5) 強くそう思う | I strongly agree; |
| 4) そう思う | I agree; |
| 3) どちらともいえない | I neither agree nor disagree; |
| 2) そう思わない | I disagree; |
| 1) 全くそう思わない | I strongly disagree. |

15. この授業の内容は興味深いものでしたか。

I found this course interesting.

- | | |
|--------------|-------------------------------|
| 5) 強くそう思う | I strongly agree; |
| 4) そう思う | I agree; |
| 3) どちらともいえない | I neither agree nor disagree; |
| 2) そう思わない | I disagree; |
| 1) 全くそう思わない | I strongly disagree. |

16. この授業の総合評価を5段階で評価してください。

Give an overall evaluation of the class.

- | | |
|--------------|------------|
| 5) とてもよい | very good; |
| 4) よい | good; |
| 3) どちらともいえない | average; |
| 2) 悪い | bad; |
| 1) とても悪い | very bad. |

17. この授業を履修して、自分のためになったことは何ですか。(複数回答可)

What did you gain from this class? (multiple responses allowed)

- | | |
|---------------------|--|
| 5) 新しい知識・技能が身に付いた | I gained new knowledge and skills; |
| 4) 新しいものの見方が身に付いた | I gained a new perspective; |
| 3) 関連分野をさらに学びたくなった | My desire to study related fields grew stronger; |
| 2) 問題発見・解決能力が付いた | I acquired the ability to discover problems and to solve them; |
| 1) 人間形成に役立った | The class helped build my character; |
| 0) コミュニケーション能力が向上した | My communication skills improved. |

自由記述回答 Written comments:

18. この授業の良かった点、改善すべき点等について書いてください。

What aspects of this class do you think were good / should be improved?

D. 担当教員による個別質問 (希望教員のみ)

Additional questions from the instructor:

19~31. 選択回答

32. 自由記述回答 Question from the instructor requiring written comment

○ 実施状況 (2017年度)

学部・研究科等		前期						後期						
		学部			研究科			学部			研究科			
		対象 科目数	回収 科目数	実施率	対象 科目数	回収 科目数	実施率	対象 科目数	回収 科目数	実施率	対象 科目数	回収 科目数	実施率	
青山キャンパス	青山スタンダード	(専任)	114	107	93.9%	-	-	-	98	90	91.8%	-	-	-
		(兼任)	383	354	92.4%	-	-	-	364	316	86.8%	-	-	-
	文学	(専任)	107	99	92.5%	12	8	66.7%	137	123	89.8%	12	5	41.7%
		(兼任)	254	243	95.7%	3	3	100.0%	292	247	84.6%	2	1	50.0%
	教育人間科学 (研究科は心理のみ)	(専任)	28	27	96.4%	3	3	100.0%	35	28	80.0%	3	3	100.0%
		(兼任)	25	19	76.0%	1	1	100.0%	80	70	87.5%	0	0	0.0%
	経済学	(専任)	86	81	94.2%	2	2	100.0%	88	70	79.5%	1	0	0.0%
		(兼任)	28	28	100.0%	0	0	0.0%	111	79	71.2%	0	0	0.0%
	法学	(専任)	66	62	93.9%	1	0	0.0%	52	42	80.8%	1	1	100.0%
		(兼任)	26	25	96.2%	0	0	0.0%	27	21	77.8%	0	0	0.0%
	経営学	(専任)	78	74	94.9%	8	4	50.0%	86	66	76.7%	7	4	57.1%
		(兼任)	129	107	82.9%	7	2	28.6%	129	90	69.8%	2	2	100.0%
	国際政治経済学	(専任)	97	79	81.4%	12	11	91.7%	83	56	67.5%	10	6	60.0%
		(兼任)	152	108	71.1%	5	4	80.0%	147	100	68.0%	4	4	100.0%
	総合文化政策学	(専任)	38	33	86.8%	5	3	60.0%	37	34	91.9%	0	0	0.0%
		(兼任)	34	26	76.5%	0	0	0.0%	41	37	90.2%	3	3	100.0%
社会情報学	(専任)	-	-	-	2	1	50.0%	-	-	-	0	0	0.0%	
	(兼任)	-	-	-	1	1	100.0%	-	-	-	0	0	0.0%	
教職課程科目	(専任)	0	0	0.0%	-	-	-	0	0	0.0%	-	-	-	
	(兼任)	0	0	0.0%	-	-	-	0	0	0.0%	-	-	-	
計	(専任)	614	562	91.5%	45	32	71.1%	616	509	82.6%	34	19	55.9%	
	(兼任)	1,031	910	88.3%	17	11	64.7%	1,191	960	80.6%	11	10	90.9%	
相模原キャンパス	青山スタンダード	(専任)	34	33	97.1%	-	-	-	31	30	96.8%	-	-	-
		(兼任)	110	104	94.5%	-	-	-	94	87	92.6%	-	-	-
	理工学	(専任)	154	149	96.8%	43	23	53.5%	162	157	96.9%	20	8	40.0%
		(兼任)	98	92	93.9%	8	6	75.0%	89	83	93.3%	11	9	81.8%
	社会情報学	(専任)	74	69	93.2%	2	2	100.0%	69	63	91.3%	2	2	100.0%
		(兼任)	36	36	100.0%	0	0	0.0%	32	30	93.8%	0	0	0.0%
	地球社会共生学	(専任)	60	48	80.0%	-	-	-	44	38	86.4%	-	-	-
		(兼任)	31	25	80.6%	-	-	-	25	17	68.0%	-	-	-
	教職課程科目	(専任)	0	0	0.0%	-	-	-	0	0	0.0%	-	-	-
		(兼任)	0	0	0.0%	-	-	-	0	0	0.0%	-	-	-
計	(専任)	322	299	92.9%	45	25	55.6%	306	288	94.1%	22	10	45.5%	
	(兼任)	275	257	93.5%	8	6	75.0%	240	217	90.4%	11	9	81.8%	
合計		2,242	2,028	90.5%	115	74	64.3%	2,353	1,974	83.9%	78	48	61.5%	
(マークシート)	(専任)	896	828	92.4%	89	56	62.9%	885	763	86.2%	53	26	49.1%	
	(兼任)	1,287	1,149	89.3%	23	15	65.2%	1,414	1,161	82.1%	18	15	83.3%	
(WEBアンケート)	(専任)	40	33	82.5%	1	1	100.0%	37	34	91.9%	3	3	100.0%	
	(兼任)	19	18	94.7%	2	2	100.0%	17	16	94.1%	4	4	100.0%	

- * 前期は前期開講科目、後期は通年科目および後期開講科目を対象とした。
- * 演習科目及び実験・実習科目を除く。ただし、各学部等の判断により実施する場合もある。
- * 実施率は小数点第2位以下を四捨五入した

5. 学生 FD スタッフの活動

学生 FD スタッフ活動とは、学生が大学における授業改善のために行う諸活動を指す。本学では 2011 年度より FD 推進委員会の直下組織として学生 FD スタッフの位置づけが確立され、学生の視点による教育の質の改善に取り組んでいる。本学の授業を「学生が本当に求める授業」にするため、さまざまな活動や企画を通して、学生視点で授業や教育のあり方を追求している。

具体的な活動としては、Happy くらす作品コンクール、全学的なしゃべり場、学生 FD スタッフと教職員との交流会を学内で開催している。

Happy くらす作品コンクールは、FD 活動推進マスコットキャラクターとして「FDEago」（エフディーゴ）を作成し、2012・2013 年度の 2 年間の期間限定で実施した「FDEago プロジェクト」の企画のひとつとして立ち上がり、2014 年度以降も実施が続き、2017 年度からは学生 FD スタッフ主催で継続している。

しゃべり場や交流会では、学生・教員・職員の 3 者が集い、大学の授業改善について意見を交わすことで、学生にとって、また教職員にとって「個々が安心して教育目標に向かって取り組むことのできる環境作り」の実現を目指している。

学外においても、全国規模で開催される学生 FD サミットにも例年参加し、他大学での学生 FD スタッフ活動や教育改善への取組から学びを得て、その知識と経験を本学の FD 活動に活かしている。

○ 2017年度学生FDスタッフ活動一覧

【学内におけるFD活動】

名称	内容
Happyくらす作品コンクール	「青学に入学して良かったと感じること」をテーマに作品を募集し、6作品の応募があった。学生FDスタッフによる選考の結果、優秀賞2作品、佳作3作品が選ばれ、アイビーホールフィリアにて授賞式と受賞者座談会が行われた。

【学外イベントへの参加】

名称	開催日	場所	対象	テーマ	備考
学生FDサミット2017夏	2017年8月31日 (木)、9月1日 (金)	金沢星稜 大学	学生、 教職員	みんなで考える理想の授 業 ～温故知新！学生FD の今昔から～	教員1名 学生スタッフ2名 参加
学生FDサミット2018春	2018年3月8日 (木)、9日(金)	法政大学	学生、 教職員	みんなで創る学生FDサ ミット	学生スタッフ1名 参加

2017年7月18日

青山学院大学

Happy くらす 作品コンクール 2017

募集要項

青山学院大学
FD 推進委員会
学生FD スタッフ

学生のみなさんが青山学院大学（青学）でたくさんのことを学び、学生たちの成長を見て教職員も喜びを感じられるような、みんながハッピーになれる学びの場を作っていきたいという思いは、青学に集う全ての人が願っていることだと思います。そんな思いから、青学での学びの思い出を学生のみなさんに作品の形で表現していただき、他の学生たちや教職員と広くその思いを共有したいと考え、この企画を実施します。是非、みなさんの声を聞かせてください。

1. テーマ

「青学に入学して良かったと感じること」

青学での学びは、日々の授業や課外活動だけでなく、夏期・春期休暇期間中の短期研修や留学、新入生キャンプやインターンシップ等、様々な場で行われます。そのたくさんの学びの中で感じた自身の成長や発見、感動など、「青学に入学して良かった」と思った経験を作品にして応募してください。

2. 応募資格

青山学院大学の学部生・大学院生

3. 作品ジャンル

次の3つのいずれかから選んでください。

散文：エッセイなど、文章で表現する作品。A4 サイズ用紙 1 枚程度。

韻文：詩、俳句、短歌、川柳など、短い韻文で表現された作品。

漫画：漫画（四コマ漫画、ストーリー漫画など）（最大 A4 サイズ用紙 10 枚相当。ただし、提出原稿の用紙サイズは自由）。

※ 応募作品は未発表のものに限らせていただきます。また、応募作品は他者の権利（著作権、肖像権等）を侵害しないように十分な配慮をしてください。

4. 応募方法

青山学院大学FD推進委員会 (agufd@aoyamagakuin.jp)宛てにメールにて作品をお送りください。
その際、メール本文に「学生番号」「所属学部・学科」「学年」「氏名」を必ず記載してください。
紙媒体での提出を希望する場合は、以下の問い合わせ先に提出してください(窓口時間のみ)。
※ 応募作品数に制限はありません。一人で複数の題材による応募も可能です。

5. 入選作品

- ① 入選作品の著作権は青山学院に帰属します。
- ② 11～12月に授賞式及び座談会を行う予定です。入選者の方々にはご出席いただきますよう、お願いします。
- ③ 入選作品及び授賞式・座談会当日の記録(写真を含む)等は、青山学院大学ウェブサイト(<http://www.aoyama.ac.jp/>)への掲載等、青山学院の広報活動等において活用させていただきます。

6. 提出期限

2017年9月30日(土) 必着

7. 選考

選考は青山学院大学学生FDスタッフによって行われます。テーマに沿った「青学での学びのよい思い出」を伝える、優れた作品になっているかを主な選考基準とします。

応募作品の中から、ジャンルの区別なく優れたものを選考し、入選作品として下記の賞を授与します。

最優秀賞	副賞 5千円分の図書カード
優秀賞	副賞 3千円分の図書カード
佳作	副賞 1千円分の購買会チケット

選考結果は2017年10月30日(月)頃に青山学院大学ウェブサイト(<http://www.aoyama.ac.jp/>)で発表するとともに、入選者個人にメールにて通知します。

8. お問い合わせ

- 青山キャンパス 学務部教育支援課
電話 03-3409-4165
- 相模原キャンパス 事務部学務課 教育支援担当
電話 042-759-6003
- メール agufd@aoyamagakuin.jp

以上

2017年度

Happyくらす作品コンクール 入賞作品集

いずれも力作揃いで審査に苦慮しましたが、優秀賞2作品、佳作3作品が選ばれました。

今年度テーマ：「青学に入学して良かったと感じること」

日々の授業や課外活動ばかりでなく、夏期・春期休暇期間中の短期研修やインターンシップ等、たくさんの学びの中で、感じた自身の成長や発見、感動など「青学に入学して良かった」と思った経験を作品にして応募してもらいました！

授賞式次第

司会進行 学務部教育支援課 竹田 治世

1. 開会挨拶

青山キャンパス総務・財務担当副学長
全学FD委員会委員長 田中 正郎

2. 各賞授与

優秀賞
優秀賞
佳作
佳作
佳作

文学部史学科2年 大谷 万由子さん
国際政治経済学部国際経済学科3年 柳沼 大輝さん
文学部比較芸術学科4年 川野 彩果さん
国際マネジメント研究科1年 藪内 美穂子さん
国際政治経済学部国際経済学科2年 前田 瑞貴さん

3. 座談会

Happyくらす作品コンクールとは

学生のみなさんが青山学院大学でたくさんのことを学び、学生たちの成長を見て教職員も喜びを感じられるような、みんながハッピーになれる学びの場を作っていきたいという思い。それは青山学院大学に集う全ての人の願いだと思います。

そこで、青山学院大学での授業の思い出など学生のみなさんに作品の形で表現してもらい、他の学生たちや教職員と広くその思い出を共有できる場として、実施しているのがこのHappyくらす作品コンクールです。2017年度より学生FDスタッフが選考を行っています。

コンクール実施概要

応募テーマは次の3つのジャンルのいずれかから選択。

散文： エッセーなど、文章で表現する作品。A4サイズ用紙1枚程度。

韻文： 詩、俳句、短歌、川柳など、短い韻文で表現された作品。

漫画： 漫画（四コマ漫画、ストーリー漫画など）（最大A4サイズ用紙10枚程度）

応募作品の中から、ジャンルの区別なく優れたものを選考し、入選作品として下記の賞を授与します。

副賞として最優秀賞には5千円分、優秀賞には3千円分の図書カードを、佳作には1千円分の購買会チケットを進呈します。



私の世界を広げた青山学院大学

青山学院大学文学部史学科に入学して早1年半、私は日本史コースの2年生です。勉強が忙しく、大変な面はありますが、充実した毎日を送ることができています。青山学院大学で、自分の専門分野を深めると同時に、青山スタンダードのおかげで様々な分野の知識を身に着け、視野を広げることの面白さを知り、多くの友人、先輩方、先生方との交流により、豊かな人間関係を作ることができたからだと思います。

私は入学してすぐに史学会広報部に入部しました。2年生になった今では広報誌の編集長を務めさせてもらっています。この団体では様々な体験をしました。

博物館・美術館の見学、史学科が主催する史学会大会、オープンキャンパスなどのイベントのお手伝い、史学科の情報を発信する広報誌の発行がこの団体の主な活動内容です。イベントのお手伝いでは、先生方、大学院生の先輩方、来て下さった多くの方々と接することで、知識を得るだけでなくコミュニケーション能力が高められたと思います。特にオープンキャンパスのお手伝いでは、青山学院大学を受験しようと考えている高校生やその保護者の方々に、受験勉強、学生生活や青山学院大学のいいところなど自分の経験を話す機会が多いです。受験生の保護者の方から、「本当に説明が分かりやすくて、参考になった！」というお言葉を頂いた時のうれしさは忘れられません。また史学会広報部に入ったことで、私は最高の仲間を得ることができました。史学会広報部は毎週火曜日の昼休みに史学科研究室で活動しているのですが、仲間と集まり語り合うこの時間が楽しくて仕方ありません。

充実しているのは、勉強の面でも同じです。私は日本古代史を研究したいと考えているのですが、この専門分野を勉強すると同時に、語学力を高めることも大事であると考えて、英語と第二外国語の中国語の勉強にも力を入れています。今、英検1級、中検2級合格を目指して頑張っています。また、青山スタンダードの科目では、自分の専門以外の幅広い分野の知識に触れることができました。青山スタンダードの科目では学部学科が様々な人たちとの出会いがあります。科目によってはグループワークを行い発表するというものもあり、その科目を取っていなかったら全く接点がなかった人とも人間関係を築くことができました。青山学院大学が開いている英会話講座にも参加し、そこでも幅広い友人ができました。青山学院大学での勉強では、レポートやテストなど大変なこともありますが、2年生になった今、幅広い知識と人間関係を得ることができ、私の世界は広がりました。

今後、大学院に進むこと、博物館学芸員になること、文部科学省、文化庁などに勤めること、語学を生かして商社に勤めること等、将来の進路を思い描いています。まだどうするか答えは出ていませんが、日々目の前にあることに全力投球し、考えていこうと思います。

学生FDスタッフによる講評（優秀賞）

専門分野の勉強はもちろん、青山スタンダードや英会話講座など専門外の勉強もできる青学の学習プログラムの豊富さがよく分かる。加えて学業以外の課外活動にも積極的に参加し団体の運営や人々との交流を通じた経験など、青学生の学びの多様さもよく表現されていて今回のテーマにふさわしい作品だと思う。



「サーバント」としてのわたし

「世界中の苦しんでいる人たちにわたしたちができることは何でしょうか。その答えは彼らと友達になることです。」わたしは初めてこの言葉を聞いた時に強い衝撃を受けました。なぜなら、この答えは当時のわたしにとってすごく斬新でシンプルすぎるものでした。わたしは2年生の時にサービス・ラーニングの授業を受講しました。そこで担当の先生が教えてくださったのが「友達になる」という新たな支援のかたちでした。

今までのわたしは苦しんでいる人がいたら手を差し伸べてあげたい、わたしがその人のために支えになってあげたいといつも心に感じて生きてきました。けれどもその思いの根源はいつも「あげたい」や「ために」といったようなその人よりも上に立っている高慢な自分の利己心からでした。そして自分はどうしたらその人のために何かをしてあげられるのか、そのためにはどのようなスキルが必要なのかと常に難しいことばかりを考えていました。わたしの困っている人に何かをしてあげたいという思いには何か大切なものが欠けていました。その大切な何かを青山学院での大学生活が埋めてくれました、それは「仕える」という姿勢です。

わたしは2年生の春にサービス・ラーニングの実習で宗教センター主催のフィリピン訪問プログラムに参加しました。そのプログラムではフィリピンの児童養護施設の子どもたちとの交流がメインの活動内容でした。その交流の中で絶えず感じさせられたのが「ともに生かされる」という感覚でした。支援に行っているはずのわたしたちがその何倍もの喜びを現地の子どもたちの笑顔やスタッフさんの優しさからもらい受けていました。「ために」ではなく「ともに」の助け合いのかたちに気付かされました。そして「友達になる」ということの本当の意味を知りました。それは相手のすべてを受け入れて、ありのままのその人を愛するということです。けれどもこの相手への愛はしっかりとした土台の上に築かれなければやがて崩れて落ちてしまいます。その揺るがない岩こそが「仕える」という姿勢だと気付かされました。誰かと友達になるためにはその相手を理解する必要があります。そしてその相手を理解するためにはその人より下に立つ必要があります。わたしはその「サーバント」としての姿勢をサービス・ラーニングの学びだけでなく、キャンパスの様々な活動の中で日々感じさせられています。毎日の大学礼拝の説教で語られる聖書の御言葉であったり、ボランティアセンターの主催するボランティア活動であったり、わたしはその活動一つ一つの中に青山学院が掲げる「サーバントリーダー」の在り方をいつも感じ学ばされています。

わたしが青山学院に入学してよかったと感じることは「サーバント」として仕える自分の新しい在り方を発見することができたことです。わたしは誰かに認めてもらいたい、努力したぶんだけ報われたいという思いからではなく、純粹に誰かの力になりたい、素直に誰かのことを笑顔にしたいという喜びから行動を起こせる今の自分のことが大好きです。そんな自分に会わせてくれたのが青山学院でした。これからも喜ぶ人と共に喜び、泣く人と共に泣くことのできるそんな素敵なわたしで在りたいと強く感じています。

学生FDスタッフによる講評（優秀賞）

サービスラーニングの授業やミッションスクールとしての教育が青学生の社会貢献性を育み、サーバントリーダーとして実際にボランティア活動などを行い、学業以外でも学びを得ている青学生の学びの広さをよく表している良いエッセイだと思う。



アマゾンの秘境に放り出される。

「ここにはスタートもゴールもありません。自分で決めてください。期日までにゴールまでたどり着いて、レポートを提出してください」

突然の宣告に、わけもわからず辺りを見回す。鬱蒼とした木々、溢れんばかりの大自然。右も左もわからない。ちょっと待ってくれ。私が知っている「勉強」とはまるで違うぞ。

学校の図書館の棚にかじりつけば、膨大な量の書籍に眩暈を起こす。インターネットで調べれば溢れんばかりの情報量に頭がパンクしそうになる。

これが大学の「勉強」なのだ。私は思い知らされた。

高校までの勉強とは、知識を頭に叩き込むこと、一つのゴールに向かって走るマラソンのようなものだった。だから知らぬ間に思い込んでいたのだ、マラソンのようにスタートとゴールが決められて、その距離を走ることが「勉強」なのだ。

しかし、大学生になった私は、大学での「勉強」はそれまでのものとはまるで違うことを知った。やばい。全然、どっちに向いて動いて良いかさえわからない。

「助けてください、先生！もうわけがわかりません！」

アマゾンの茂みの中に一人取り残された私は、懇願した。すると案外あっさりと返事が返ってくる。

「難しいならこれを使いなさい」

方位磁石と地図である。これで自分の位置を大体把握し、ゴールを設定しろというのである。助けになる道具が手元に現れたことで、数段やりやすくなった。

これが大学の「勉強」だった。

突然アマゾンの秘境にぽーんと放り出される。地図と方位磁石が手渡され、自由にゴールを設定して制限時間内にそこまでたどり着け、と。たどり着いたらその過程をレポートにまとめて提出せよ、と。

なんと面白い...！

今までのルーチンワークとは全く違う。まるでゲームの世界である。

氾濫する雑多な情報に溺れながら、求める情報と資料を目指して書物を渡り歩き図書館を旅する。行き詰って助けを求めて声を上げれば、天の声よろしく先生の助言が降ってくる。そしてその助言を参考に探索と思索の旅を続けるのである。

「大学生は遊んで暮らせる」なんて耳にするが、あながち間違いではないのだろう。設定するゴールを自分の目の前にすれば、ゲームはすぐにクリアできる。しかしそれでは勿体ない。折角のゲームをおごなりにしてしまうのは。

青学に入って良かった。

「勉強」がこんなに心沸き立つ、楽しいものだと思えることが出来たのだから。

「勉強」の楽しさを知る。これはきっと、一生の財産になるにちがいない。

学生FDスタッフによる講評（佳作）

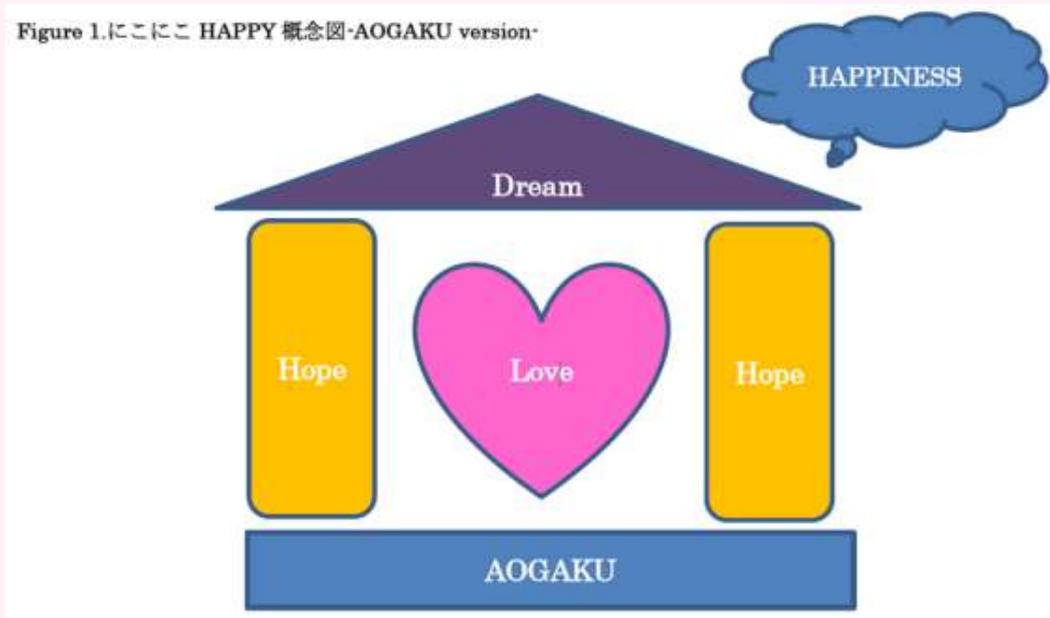
大学における「学び」を「アマゾンに放り出された様だ」という比喩を使って表現しているところに表現の豊かさを感じる。もう少し青学という要素があれば尚良かったが、大学の学びに困惑しながらもそこに愉しさや喜びを見出す生き生きとした学生像が良く描写されている良い作品だと思う。



青学に入学して良かったと感じること

- 私は、2017年4月に青学の国際マネジメント研究科 (MBA FLEX1年)に入学し、現在、MBA取得に向けて学んでいます。
- 入学して良かったと感じることは、語りつくせない程、沢山あります。
- 中でも一番良かったことは、「**にこにこHAPPY**」な気分になる時間が増えたことです。
- 「にこにこHAPPY」とは、私の娘(双子)が小学校に上がる前に、発案した言葉で、AOGAKU versionとして、最近我が家で2次ムーヴを巻き起こしています (Figure 1.)。

Figure 1.にこにこ HAPPY 概念図-AOGAKU version-



-青学での学びのススメ-

以下、青学に入学して半年学んだ感想です。青学で学ぶことは『大変おススメ』です。

- MBAコースと会社との両立は課題で、時間の使い方には多くの工夫をしています。
- MBAコースで学ぶことで、会社の業務が効果的に進められ(①会社の仕事を俯瞰できるようになり、②業務の本質が捉えられ、③会議への貢献・プレゼンが容易になる、など)、効率も上がり、確実にビジネスのスキルが向上している！と実感できています。
- 夢を叶えるために、青学で学ぶことが楽しく、本当にHAPPYです。
- 特に、職業を持っている社会人の方にとって、おススメだと思います。
- この機会に私の家族の感想を聞いてみましたので、この文末にて、ご紹介します。

「ママは頑張っている。ママと一緒に勉強できる時間が増えた」(MISATO)

「ママの知能が高まって、塾の家庭学習でも頼りにできる」(MIYU)

「多くの人との交流の機会が増えて良い影響があると思う」(PAPA)

以上

学生FDスタッフによる講評 (佳作)

子育てをしながらもMBA取得に向け大学で学業に励んでいる姿勢は、学生として見習うべきものがあると感じた。青学のどういう点が良いのかをより具体的に示していれば尚良かったが、図を用いて表現している点でオリジナリティがあり、学ぶことが「happy」だということも今回のテーマに合っていて良い作品だと思う。



とりわけ青学に入学したいと思ったことは無かった。自分には地方の国公立大学が似合っていると勝手に思い込んでいた。高校の時は医学部を志望していたが、二浪して漸く、それほど頭の良くないことを自覚した。尤も、年収が高いという理由で医者を目指した馬鹿な自分が受かるはず無いのだが。

慌ててセンター利用で入学できる大学を探し、結果受かったのは青学だけだった。

そんな経緯で入学したからにはしたいことをすべきだと思った。というよりも、過去を振り返らないために今を充実させたかった。青学に入って良かったと思える学生生活を送りたかった。だから、新歓のとき、落語研究会のブースに真っすぐ向かった。幸い二浪を経験し目が死んでいたのも、チラシを一枚も渡されず、最短距離で向かうことができた。

浪人時代の唯一の楽しみが寝る前に落語を聞くことだった。中でも、宗珉の滝という噺が好きだった。刀剣装飾の職人である二代目横谷宗珉が名人になるまでの経緯を描いた噺である。元々腕の良かった宗珉のもとに、殿様から大きな仕事が舞い込む。しかし、慢心していた宗珉は酒を飲みながら仕事をしてしまい、しくじってしまう。再び大きな仕事が与えられるが、またも酒を飲んでしくじる。さらにもう一度仕事が与えられ、恩人の主人に改心するよう諭された宗珉、初めて断酒、断食をして三度目の仕事に取り組む。結果、殿様に認められる作品を作り上げ、その後宗珉は名人への歩みを進めていく。二浪して人生しくじったと感じていた当時の自分にとって、何だか希望の持てる噺で、辛い気持ちを癒してくれた。落語を好きになったきっかけがこの噺だった。落研に入ってからの日々は凄惨である。元来喋りが下手な自分はまともに落語が話せない。致命的だ。自分は高校時代も同じく、背が低いのにバレーボール部に入るという致命的なミスを犯している。元来自分の能力を見誤る癖があるようだ。落研に入部してから今までの一年半でまともにウケた試しはない。

それでも、青学落研に入って良かったと強く思う。色んな方々との出会いがあったからだ。まず出会った先輩はバイセクシャルだった。自分を見つめる目線に違和感を得て、あの方はゲイなのですかと別の先輩に聞くと、あいつはバイだよと言われて衝撃を受けた。LGBTを差別するつもりは毛頭ないからその先輩とは今年の夏合宿で二人部屋に泊まった。但し、万が一を想定して一睡もしなかった。次に出会った先輩はメンヘラだった。責任感が強く、去年の秋に会長に就任した。何があったのかは謎だが、一月後には連絡が取れなくなった。最後に出会った先輩は夢に向かって歩み始めている方だった。落語が好きで、優しい先輩だった。アドバイスをたくさんくれたし、色んな相談に乗ってくれた。その方の夢は叶うか分からないけど、一生応援したいと思った。今年の四月から、自分が青学落研の会長になった。頼りない会長であるが何とか秋までやってきた。この秋、青学落研に八代続く伝統ある高座名を襲名する。上手くやっていけるかはわからない。不安しかないけれど、断酒、断食をして、宗珉のような人生を送れたらこれ以上の喜びはない。さすがに断食はしないけど。

学生FDスタッフによる講評（佳作）

ユーモアのある文章で作者の人生経験が赤裸々に綴られていて、読んでいて引き込まれる文章だ。もう少しテーマに沿った内容なら尚良かったかもしれないが、課外活動にも真剣に取り組んでいる姿や様々な人々との交流が、青学生の活発さや人間性的な多様さをよく表している良いエッセイだと思う。

学生 FD サミット 2017 夏 活動報告書

作成日：2017 年 9 月 3 日

『学生 FD サミット みんなで考える理想の授業 ～温故知新！学生 FD の今昔から～』

開催日：2017 年 8 月 31 日(木)～9 月 1 日(金)

会場：金沢星稜大学

主催者：星稜大学 学生 FD サミット実行委員

参加者：全国の各大学学生 FD スタッフおよび教職員総勢約 200 名

報告者：教育学科 4 年 高野暁月、須田結衣

タイムライン

1 日目(8/31)	2 日目(9/1)
12:00 受付	9:00 受付
13:00 オープニング	9:30 学生 FD サミット統一テスト
14:00 講演会 テーマ「～大学を学びながら遊ぼう～」	10:30 シャベリ場② テーマ「～シラバスを創ろう～」
15:20 シャベリ場① テーマ「～シラバスを創ろう～」	14:15 グループ発表
18:00 懇親会	15:15 クロージング

- ◆シャベリ場：各 7～8 名の 30 グループに分かれ、グループワークを通じてオリジナルの大学シラバスを作成。グループは学生、教員、職員が混在するように編成される。シラバスの大学名、大学の所在地域などすべて自由に設定することができる。2 日目にグループ発表。

◇テーマ：シラバスを創ろう

教員による一方的な講義形式の授業では、受動的な授業になってしまう。汎用的能力を高めるために、能動的に参加できる楽しい理想の授業を創造する。

◇シラバスのテーマ：「地域」、「地域連携」、「自校理解」（いずれかを含むこと）

- ◆グループ発表：7 グループごとに分かれ、各グループ 5 分の持ち時間で発表を行う。その際、作成したシラバスと模造紙を使用することが出来る。

シャベリ場では、「シラバスを創ろう」というワークで話し合いを行った。シラバスの具体的なテーマは「地域」「地域連携」「自校理解」である。3つのテーマを盛り込む必要はなく、1つのテーマに特化しても構わない。また、模造紙や色ペンなどは自由に使用できた。

私たちのグループは、初めに「自分の大学にこんな授業があったら履修したい」という考えや、「実際に履修して楽しんで取り組めた」といった授業の経験談を提案、発表し合うこ

とから議論を進めていった。その結果、受動的ではなく「自ら参加できる授業を創りたい」という思いで意見が合致し、「主体的」「積極的」といったキーワードが導き出された。このような能動的な授業が展開されるためには、グループディスカッションの場や発表の場、他者から意見を聞いて学びを深められる内容が盛り込まれている必要があると考え、それらが15回の講義の中で上手く当てはめられる授業創りを前提に置き議論を深めた。



まずはキーワードを書き出す。作業場は話し合いの席と別に設けられている。

話し合いの結果、学生が最終的にその地域のブランドを立ち上げる授業を創ることとなった。背景には、①学生と地域との連携が希薄化している問題、②大学の講義において社会人になって必要なスキルを身に付けたい、という思いがあった。

この講義が行われることで、知られていない地域のイメージを向上させることや、学生が望む授業を通して身に付けたいと考える力を培うことができるといった、学生と地域の両者にメリットを生みだせると考えた。

グループ 20

大都会大学シラバス

科目名	ブランディング探究Ⅱ			単位数	2	必修/選択	必修
副題	地域課題の解決						
授業概要	近年、学生の地域での実践が厚層化している。また大学の課題解決の取り組みも多岐にわたる。フィールドワークを通じて、そのフィールドワークを通じて、地域課題の解決に取り組む。地域課題の解決に取り組む。地域課題の解決に取り組む。						
科目の到達目標	地域課題の解決に取り組む。地域課題の解決に取り組む。地域課題の解決に取り組む。						
履修条件	特になし						
授業計画表	手前・後習	テーマ	目標				
第1回	特になし	オリエンテーション	地域の基本情報を学ぶ				
第2回	お茶会・事前準備	課題発見	地域の入り口を学ぶ				
第3回	課題を発見しておく	グループディスカッション	課題を決定し、目的意識を統一する				
第4回	ディスカッション準備	グループディスカッション	課題の振り下げを行う				
第5回	第4回の整理	フィールドワーク事前準備	フィールドワークの方法を学ぶ				
第6回	フィールドワーク準備	フィールドワーク	情報収集				
第7回	情報整理	グループディスカッション	調査結果の整理と中間発表の準備				
第8回	発表の最終確認	中間発表	情報共有と課題発見				
第9回	情報整理	課題探求①	グループディスカッションやフィールドワークを通じて解決策を検討する				
第10回	"	課題探求②	"				
第11回	事前配付資料の精読	企画書講座	企画書の作成方法を学ぶ				
第12回	企画書の作成	企画書作成	実際に企画書を作成する				
第13回	企画書の精査	発表準備	企画書に基づいてプレゼンテーションの準備を行う				
第14回	特になし	発表会①	情報共有とディベートを行う				
第15回	特になし	発表会②	"				
成績評価 (方法・割合)	中間発表 20%, 最終発表 40%, 企画書 40%						
留意事項	ブランディング探究Ⅱの受講を推奨する						

完成した発表用のシラバス 上
グループの皆さんと発表用の模造紙 下



1グループは7名ほどで形成されている。他大学、他学部の学生や職員の皆さんと2日間かけてシラバスを創り上げる。皆、大学を良くしたいという思いで参加している。

二日目の発表では、7グループごとに教室に分かれて行われた。各班の持ち時間は5分と短かった為、簡潔に行う必要があった。テーマは同じでも、それぞれのグループによって、作成されたシラバスは異なり興味深かった。興味深いグループの内容として、入学時に自身の大学における満足度調査を行ったが満足度が低かったことから、地域と関わりを持つ中で誇りに思えるようにするといった内容で、自校理解と結び付けられるような工夫が為されていると感じた。また、地方から都会へ出てくる若者の問題を取り上げ、地域の魅力、大学の発展を考えている内容に感心した。



グループ発表の様子

現在、青山学院大学のFDスタッフは3名と少ない。今回、サミットに参加し、他大学の学生と交流する中で、実際に自分たちで授業を改善するなど取り組みを進めている学生達の積極的な姿勢や学校を改善したいという強い想いを感じた。更にワーク外ではFD導入の背景や、他大学のFD活動の取り組みを知ることができた貴重な2日間となった。

本校は、まだ3名とスタッフが少ない状況ではあるが、まずは課題である「Happy くらす作品コンクール」と、活動を通して更に学生へのFD活動への周知を進めていきたい。また、他大学がFD活動のメンバー募集において、授業担当者から直接学生に声を掛けるといった取り組みを行っていることを知った。本校においてメンバーの少なさも問題であるが、今回のサミットを機に他大学と情報交換を行いながら、引き続きメンバーの募集に取り組みたい。今後も職員・先生方と連携して活動を活発化させ、学校生活及び授業の改善を図っていききたい。(高野)

2日間を通してグループワークの時間が大半を占めていた。グループは学生、教員、職員が混在していたため、シラバスを創る際にはそれぞれの視点から意見が出た。学生だけでは至らない点にまで目を向けられたため、有意義で活発なしゃべり場が展開された。シラバスを創るというテーマは、想像以上に難しく息詰まることも多々あった。しかし困難だからこそ完成したときに達成感は大きく、2日間という短い時間ではあったものの濃密な時間を過ごすことが出来た。また、日頃の大学生活では教員や職員の方々と学生とが、同じ立場でグループとして活動する機会はないため貴重な経験が出来たと感じている。

FDサミットは初参加であったが、意識の高い学生の仲間と交流することで刺激を受けた。他大学では、「ゼミ相談会」や「シラバスと学生評価の一体化」など様々な活動を行っている。本学のFDスタッフは、現在「Happy くらす作品コンクール」に取り組んでいる。今回のサミットを通して意見交換の重要性を改めて感じた。3名という少人数の中でも話し合いを行い、コンクールがより良いものになることを目指すとともに、FDスタッフの学内における役割を再認識できるよう取り組んでいきたい。(須田)

6. 教育改善支援制度

本制度は、2009年度より「教育改善・教育プログラム支援制度」という名称で開始し、2015年度より名称を「教育改善支援制度」に変更し、FDならびにSD推進の一環として始まった制度である。

この制度は、学内公募により、本学で行われる教育の質的向上をめざす取組みや新たな教育プログラムの開発を支援することにより、教育の改善・改革を進めることを目的としている。教員からの学部・学科や研究科単位での申請や、職員からの所属部・課単位での申請、あるいは青山スタンダード教育機構や各種センター、委員会での申請といった教職協働、学部横断的なグループを単位とし、採択されたプログラムに対して予算補助を行っている。

○ 実施概要

【実施の目的】

本学の教育現場において実践され、成果を得られるような「教育内容の質的改善」や「教育プログラムの導入・実施」などの取り組みが期待される。また、得られた成果は全学で共有し、発展的に活用するとともに、将来的には学外 GP などへの発展によって、本学の社会的評価が高められるような取り組みが期待される。

【採択件数】 2～4 件程度

【予算配分予定額】 総予算 500 万円（上限額）

用途について

- ※ 懇親会等での飲食代としての使用は不可
- ※ 物品購入費としての使用は、できる限り避けること
- ※ 同テーマの助成金との併用は認めない

【申請グループ・単位の考え方について】

申請の単位は、学部・学科、研究科など既存の組織に限定せず、教員や職員、学部・学科等を横断したグループでも可能である。ただし、本制度の目的を「本学で行われる教育の質的向上をめざす取り組みや新たな教育プログラムの開発」としているため、学外者は含めない。

【プログラムの採択・予算配分額の審査および実行後の評価】

大学執行部が選定した、約 3 名程度の他大学の高等教育の専門家等からなる外部評価委員が、プログラムの採択、予算配分額の審査、及び実施後の評価を執り行う。

【審査の基準】

- ・本制度の目的にふさわしい企画であること
- ・実効性をもち目標を達成する可能性があること
- ・本学の特徴を生かした企画であること
- ・予算的に妥当な計画であること 等

【採択後の義務】

- 期限内に定められた報告書を提出すること
- 成果について学内発表する機会を設けること
- ホームページ、刊行物によって成果を公表すること

【スケジュール】

- | | |
|--------------------------------|--|
| 2017 年 3 月 10 日（金） | 募集開始 |
| 2017 年 4 月 21 日（金） | 応募締切 |
| 2017 年 4 月 24 日（月）～5 月 15 日（月） | 評価委員会による審査・配分額の査定 |
| 2017 年 5 月下旬 | プログラム代表者へ採用・不採用の連絡
採用の場合は決定配分額の連絡、各プログラムの活動開始 |
| 2018 年 2 月 28 日（水） | 活動終了、各プログラムより活動報告書及び決算報告書の提出 |
| 2018 年 3 月中～下旬 | 評価委員会による活動成果の審査及び結果講評 |
| 2018 年 6 月 27 日（水） | 各プログラムの成果報告会を開催し、取り組み内容を公表 |

○ 2017年度 「教育改善支援制度」 採択事業一覧

代表者氏名	野末 俊比古(教育人間科学部教育学科)
事業計画テーマ	学内における学習資源の有機的・連動的活用による授業支援プログラムの構築ーラーニングコモンズとしての図書館等におけるメニュー型学習パッケージの教職員共同による開発ー
メンバー	佐藤 剛、西村 香、大足 恭平、丸山 広、神戸 勉、永作 綾
支援金額	1,140,000円
採択理由	昨年度の取り組みを踏まえた発展的なテーマであり、全学的な協体制をもとに進められる点で本制度の目的に合致している。また、業務を超えて教員と職員が共同で推進する授業支援プログラムの構築として良い成果が期待できる。予算は概ね妥当であるが、訪問調査について予定地が曖昧であるため、費用の妥当性についてはプロジェクトの進行の中でより精査されたい。なお、本年度中に申請された計画内容は確実に遂行されたい。
結果コメント	ラーニングコモンズの観点でこれまで継続的に議論してきた成果を基に、教育支援を踏まえた新しい図書館のあり方を分析調査しており、重要なテーマをもつ取組である。4大学の実地調査の進め方も妥当であったと評価できる。また今後に向けていくつかの重要な知見が確認できた。活動のプロセスや成果、そして今後の課題等について丁寧に記載されており、他の活動報告書のモデルとしても評価できる。ただし、今年度は先進的取組調査とモデルプログラムの枠組みづくりで終わり、予算執行も決定金額の1/3程度にとどまったことは残念である。
代表者氏名	ADAMI S.(文学部フランス文学科)
事業計画テーマ	教育プログラムPrepaFLEの改良
メンバー	DHORNE.France
支援金額	1,600,000円
採択理由	2012年からの実績のあるプログラムを改訂するという取組であり、ノウハウも存在するので、実現可能性は高いと期待できる。教材の構想にどのようにかかわるのか、担当者を明確にし、11月までに撮影や編集の詳細を詰められたい。なお、実験は年度内におこなうべきである。重要なテーマであるが、プログラムの重要性の説明に終始しており、本年度に何をどこまで達成するのか曖昧である。さらに経費の詳細も不明確である。したがって、年度末の活動・決算報告書に成果を明確に報告されたい。
結果コメント	日本人学生たちがフランスに留学する際に身につけておくべき基本的な知識や、現地での学習・生活環境などについて、6つの課(フランスに着いた時、日常生活、言語センター・大学、授業、学生の生活、レジャー活動)を設定し、課ごとに構成するビデオを作成し、納得できるレベルに達成したことは大変評価できる。今後の利活用により、留学する学生の不安の軽減、留学の充実に加え、留学する学生の増加等の効果が期待できる。なお、オンライン化に関する見積りが甘かった。今回の成果をベースとしてオンライン化を是非進めていただきたい。
代表者氏名	STRONG,G.B(文学部英米文学科)
事業計画テーマ	eラーニングシステムの評価と授業のためのデジタル・ツールボックス
メンバー	ディアス・ジョセフ、ALLEN玉井 光江、ランパッチャー・スティープ、ロバートソン、高木 亜希子
支援金額	578,000円
採択理由	本学で導入されている英語のeラーニングシステムの有効性を評価し、よりよいシステムの整備に寄与できるという点において、本制度の目的に合致した取組だと評価できる。受講者数(システムやアプリの使用人数)、使用時期、評価方法、評価の時期等が明記されていないため、いつまでに何をどこまで評価するのかが曖昧である。予算について、出張旅費の単価、アルバイトや学生アシスタントの作業時間や単価などを明記し、再提出されたい。教育支援というより研究経費である印象があるので、研究成果が得られた後に、全学的な教育支援へのフィードバックを実施し、活動・決算報告書に成果を報告されたい。
結果コメント	オンライン学習教材が実際にどの程度有用なのかを検証し、タブレットで有効活用した。今後の語学教育の発展に寄与するものと評価できる。活動報告書の体裁として、活動報告について、いつ、何をしたのかが曖昧である。また、成果についての表記形式が多少不親切である。予算は計画通りに、またバランスよく綿密に執行され、決算報告書も詳細な記述が為されており評価できる。ただし、執行費用の内訳をみると、アルバイトや出張に係る費用に多少予算計画の甘さが残った。
代表者氏名	稲積 宏誠(社会情報学部社会情報学科)
事業計画テーマ	学生意識調査の有効活用:恒常的な運用をめざして
メンバー	大林 真也
支援金額	1,232,000円
採択理由	昨年度からの継続企画であり、本制度の目的に合致していると評価できる。入学から卒業までの学生の意識調査結果をデータマイニング技術に基づいて分析し、社会調査に関わる知識や技能を実践を通して学生に習得させることは、本学の特性を活かした企画である。本学のFD活動全般への情報提供などを旨とし、全学への援用可能なモデルを作成して、それを他学部で実施されたい。その成果を公開し、活動・決算報告書に報告されたい。また、分析手順書とマニュアル作成の経費を適切に執行し、全学に配布されたい。
結果コメント	昨年度からの継続的な企画であり、学生達の分析活動によって得られた膨大なデータをもとに学生の視点から分析を試みていることは、学生主体の大学づくりの一歩として有意義なことである。学生の学びにもつながり、大学と学生双方にとってウィン・ウインの関係にもなっており、評価できる。今後、大学側の協力のもと、適正な予算執行によって、全学的な波及、活用に広がっていくことを期待したい。各部署の教職員が活用できるマニュアルの発行も是非実現されたい。その際に、マニュアルが使いやすいものになるように、ニーズに適合しているのかなど、使用とフィードバックと改善というルートを作っていくことが期待される。

2017年度教育改善支援制度

学内における学習資源の 有機的・連動的活用による 授業支援プログラムの構築

ラーニングコモンズとしての
図書館等における
メニュー型学習パッケージの
教職員共同による開発

メンバー(申請時)

野末俊比古 (教育人間科学部) ◎
佐藤 剛 (庶務部経理課) ○
西村 香 (学術情報部図書課)
大足 恭平 (情報メディアセンター)
丸山 広 (情報メディアセンター)
神戸 勉 (学務部国際交流課)
永作 綾 (学務部国際交流課)

◎代表 ○副代表

背景・動機

- 教育の質保証(単位の実質化)と
学習資源(環境)の整備
- アクティブラーニング型教室の整備、
アカデミックライティングセンターの新設、
新図書館建築計画の進展など
- 2015・16年度教育改善支援制度の成果と
他大学の動向
- 本学図書館『『情報の探索と表現』
コンテスト』(「学習メニュー」のイメージ)

目的・意義

- 本来の意味でのラーニングコモンズ
→学習資源の活用と主体性の育成
- 授業時間外学習のための“仕組み”
→授業支援プログラム
(メニュー型学習パッケージ)
- 学内資源(情報資源・空間(物的)資源・
人的資源)の有機的・連動的活用
→教職員共同の取り組みと
モデルケースの開発(2年間目安)

活動実績(1) - 国内実践例の調査

- 九州大学附属図書館新中央図書館
- 西南学院大学図書館
- 武庫川女子大学附属図書館
- 近畿大学中央図書館・アカデミック
シアター

活動実績(2) - 学内授業例の調査

- シラバスには限界
- 多様な要素が関係
- 個別の状況にも依存
→計画の一部修正(次年度への展開)

活動実績(3)
モデルプログラムの枠組みの検討
(後述)

活動成果 - 学習メニューの要点
(1) 学習空間の重要性

- アクティブラーニングやグループによる学習を含む多様なスタイルに対応
- “知識の森”に誘うしかけ
(空間(資料)からの呼びかけ)
- 学習内容の可視化と出会い
(セレンディピティ)

活動成果 - 学習メニューの要点
(2) 授業支援の強化

- 「学修」のための「学習」
- 館内における授業実施・成果発表
(武庫川女子)
- 授業に対応した講座や教材の開発
(九大)
- 産学連携の支援(近大)

活動成果 - 学習メニューの要点
(3) 学生との協働と学び合い

- 学生グループの活動・・・「Cuter」(九大)、
司書課程履修者(武庫川女子)
- 教員・職員の連携 → 教職員と学生の
協働 → 学生同士の学び合い(ピア
ラーニング)

活動成果 - 学習メニューに向けた課題

- 学内各部署との連携・協力の推進
- デジタル化・ネットワーク化・モバイル化
への対応(例:スマホアプリ)
- 教職員・学生の学習支援スキルの育成

活動成果 - 学習メニューの枠組み

- 各授業科目
 - 学修目標・内容
 - 授業時間外の学習内容(事前・事後)
- 三つの学習資源
 - 情報資源(知識・情報)
 - 空間(物的)資源
 - 人的資源(学生を含む)
- コーディネーションの立場・組織

課題・展望 - 次年度に向けて

- “学習支援から学修支援・教育支援へ”
- 学内各部署（アカデミックライティングセンターなど）における学習資源の把握
- 学生に即したメニューの開発（例：アプリ）
- 授業担当教員との協力
ぜひご協力をお願いいたします

ありがとうございました



Plan de la présentation プレゼンテーションの流れ

- 1- Intérêt du projet, analyse des besoins
プロジェクトの有用性、必要な事柄の分析
- 2- La formation PrepaFrance
プレパフランスという教授法
- 3- Calendrier de travail
作業の年間スケジュール
- 4- Le budget
予算／決算

Intérêt du projet, analyse des besoins プロジェクトの有用性、必要な事柄の分析

- Amélioration du programme PrepaFLE
PrepaFLEの改善
- Meilleure qualité des vidéos
ビデオの映像の高画質と高音質
- Mieux adapter la formation
現在の状況に適応した学習を目指す (通信環境、スマートフォンなど)

La formation PrepaFrance

- 2 programmes : **2つのプログラム**
 - un entièrement en autonomie **1. 完全に自主的な学習**
(activités autocorrectives),
 - un avec des productions écrites et orales nécessitant un tuteur **2. チューター制度のプログラム**
- 6 cours, 48 leçons (**全48課**)
- Chaque leçon se compose de 4 activités ; 2 activités de CO/CE des documents vidéos et autres, 1 activité de préparation de la tâche finale (actes de langage) et la tâche finale sous la forme d'un parcours (ou une production dans le programme tutoré).
- Soit environ 200 activités pour l'ensemble de la formation
(**全200問題**)

Le tutorat : les échanges dans les forums

The screenshot shows a forum interface with a table of posts. The columns are: 'Discussion', 'Avatar', 'Groupe', 'Réponses', and 'Dernier message'. The table lists several posts with their respective authors and dates.

Le tutorat : les échanges dans les forums

The screenshot shows individual forum posts with user avatars and names. The posts contain text in French, such as 'Bonjour Miroslav, j'ai vu le lien de ton site...' and 'Bonjour Miroslav, j'ai vu le lien de ton site...'. The posts are dated '1 novembre 2016'.

Le tutorat : les corrections de production

Activité 4 : comparez les conditions climatiques

Regardez les trois vidéos multilinguistiques ci-dessous. En dix phrases, comparez les conditions climatiques de ces trois villes. Vous utiliserez les structures vues dans l'activité précédente (plus que, moins que, autant que...).

Quelle langue ?

C'est en français. Vous parlerez couramment. Choisissez !

Une comparaison

Exemple : "Le nombre de jours de pluie est plus élevé qu'à Toulouse."

Le nombre de jours de pluie à Paris est plus élevé qu'à Toulouse.
 Le climat est généralement beaucoup plus sec à Toulouse qu'à Paris.
 Le climat est généralement beaucoup plus sec à Paris qu'à Toulouse.
 Le nombre de jours de pluie à Toulouse est moins élevé qu'à Paris.
 Le climat est généralement beaucoup plus sec à Toulouse qu'à Paris.
 Le climat est généralement beaucoup plus sec à Paris qu'à Toulouse.
 Le nombre de jours de pluie à Toulouse est plus élevé qu'à Paris.
 Le climat est généralement beaucoup plus sec à Toulouse qu'à Paris.

Revenez à l'activité 1 et comparez les conditions climatiques de Paris et Toulouse.

Le tutorat : les corrections de production

Activité 4 : comparez les conditions climatiques

Regardez les trois vidéos multilinguistiques ci-dessous. En dix phrases, comparez les conditions climatiques de ces trois villes. Vous utiliserez les structures vues dans l'activité précédente (plus que, moins que, autant que...).

Quelle langue ?

C'est en français. Vous parlerez couramment. Choisissez !

Une comparaison

Exemple : "Le nombre de jours de pluie est plus élevé qu'à Toulouse."

Le nombre de jours de pluie à Paris est plus élevé qu'à Toulouse.
 Le climat est généralement beaucoup plus sec à Toulouse qu'à Paris.
 Le climat est généralement beaucoup plus sec à Paris qu'à Toulouse.
 Le nombre de jours de pluie à Toulouse est moins élevé qu'à Paris.
 Le climat est généralement beaucoup plus sec à Toulouse qu'à Paris.
 Le climat est généralement beaucoup plus sec à Paris qu'à Toulouse.
 Le nombre de jours de pluie à Toulouse est plus élevé qu'à Paris.
 Le climat est généralement beaucoup plus sec à Toulouse qu'à Paris.

Revenez à l'activité 1 et comparez les conditions climatiques de Paris et Toulouse.

6 cours, 48 leçons (全48課)

第1課 « Votre arrivée en France »	第2課 « Votre vie quotidienne »	第3課 « Votre arrivée dans le centre de langue ou à l'université »
1.1 : Thème : localisation 場所を	2.1 : Thème : faire ses courses (marché, boulangerie, supermarché) 買い物する 市場、パン屋、スーパーマーケット	3.1 : Thème : démarches administratives 業務の手続き
1.2 : Thème : se déplacer (métro/RER/bus/train) 移動する	2.2 : Thème : aller dans un café/restaurant/行く	3.2 : Thème : test de placement, épreuves écrites フォーミュラテスト 筆記試験
1.3 : Thème : s'orienter 道を尋ねる	2.3 : Thème : manger dehors 外食する	3.3 : Thème : test de placement, épreuve orale フォーミュラテスト 口頭試験
1.4 : Thème : s'acheter 買い物 買い物	2.4 : Thème : faire des achats dans un magasin, profiter des soldes 店で買い物する、セール/ディスカウント	3.4 : Thème : post d'accueil/week-end d'intégration 歓迎会
1.5 : Thème : téléphone 電話する	2.5 : Thème : échanger/apporter un article 返品する	3.5 : Thème : l'emploi du temps 時間割
1.6 : Thème : téléphone/internet 電話 インターネットでの話	2.6 : Thème : achat sur internet インターネットで購入	3.6 : Thème : annulation, report, changement de salle/seat/heure 変更
1.7 : Thème : banque 銀行に行く	2.7 : Thème : aller chez le coiffeur 美容院に行く	3.7 : Thème : les différents types de cours dans un centre de langue 言語センターの授業
1.8 : Thème : visa ビザを申請する	2.8 : Thème : problème de santé 病気/けがの報告	3.8 : Thème : les différents types de cours à l'université (CM, TD, ...) 大学の授業

6 cours, 48 leçons (全48課)

第4課 « Vos cours »	第5課 « Votre vie étudiante »	第6課 « Vos loisirs culturels »
4.1 : Thème : les consignes de classe 授業での指示	5.1 : Thème : les différences interculturelles 1, les stéréotypes sur la France 文化の差異1-フランス人への第一印象	6.1 : Thème : la culture jeune au Japon 日本の子供のカルチャー
4.2 : Thème : explication du professeur 先生の説明	5.2 : Thème : les différences interculturelles 2, les stéréotypes sur la France 文化の差異2-日本についてのステレオタイプ	6.2 : Thème : cinéma 映画について話す
4.3 : Thème : prendre la parole 発言する	5.3 : Thème : activités culturelles (clubs de danse, musique, théâtre...) 文化関係のイベント	6.3 : Thème : concert/musique コンサート、音楽について話す
4.4 : Thème : prendre des notes ノートを取る	5.4 : Thème : activités sportives スポーツ関係のイベント	6.4 : Thème : soirée entre amis, discussion sur internet (youtube, jeux vidéo...) 友達とのパーティ、インターネットでのディスカッション
4.5 : Thème : mauvaises attitudes en classe 授業での望まない態度	5.5 : Thème : communiquer sur les réseaux sociaux SNSでのコミュニケーション	6.5 : Thème : les vacances/jours fériés (fêtes) ヴァカンス、休日
4.6 : Thème : bonnes attitudes en classe 授業での正しい態度	5.6 : Thème : soirées (étudiants/invitation 学生のパーティ招待する)	6.6 : Thème : voyager 旅行する
4.7 : Thème : participer à un travail collaboratif avec d'autres étudiants 他の学生共同作業に参加する	5.7 : Thème : discuter avec d'autres étudiants 他の学生とのディスカッション	6.7 : Thème : musée/monuments 美術館、観光
4.8 : Thème : manquer les cours après une absence 欠席した場合の補習	5.8 : Thème : participer à un événement culturel 文化のイベントに参加する	6.8 : Thème : les manifestations culturelles 文化のイベント

Calendrier de travail 作業の年間スケジュール

- 2017/05-2017/11 Conception des scénarios (教材のコンセプト)
- 2017/12-2018/01 Tournage et enregistrement (撮影+録音)
- 2018/01-2018/03 Montage vidéo (ビデオのモンタージュ)
- 2018/03-2018/07 Création des activités, mise en ligne (各課の練習問題などの作成, コンテンツを掲載するための作業)
- 2018/08 Harmonisation de la formation (全体的調整)

Budget: 合計予算

演劇教材作成料	千円 (円)	金額 (円)
人件費 *	1,000,000	1,024,002
機材の賃貸料		
コンテンツ/人件費 ウェブ・デザイン	200,000	
印刷費 (交通費) **	400,000	172,000
	1,600,000	1,196,122

Ouverture 開放

- un programme qui peut intéresser au-delà du département de français l'ensemble des étudiants d'Aoyama Gakuin
- チューター付きのプログラムは、フランスとスイスの協定校に派遣する学生にも開く。
- E-learningのみのプログラムは、希望する本学の学生に開く予定。

Les médias en parlent... メディアでも話題になっている

- article de journal ウェブ新聞
- journal TV: テレビ

PrepaFrance



**une préparation linguistique et culturelle des
étudiants japonais à leur séjour en France à
travers un dispositif FOAD**

Adami Sylvain, Dhone France
Aoyama-Gakuin, 27 juin 2018

eラーニングシステムの評価と授業のための デジタル・ツールボックス

Gregory Strong, lead researcher, 2nd lead researcher, Joseph Dias;
members: Mitsue Allen-Tamai (English) Steve Lambacher (Social
Informatics), Charlie Robertson (Science and Engineering),
Akiko Takagi, (Education)



- 1) Share information about 6 principal websites as classroom resources, “a digital toolbox” (Gradebook Keeper, Kahoot, Hyper, Mendeley, Quizlet, Son of Citation).
- 2) Evaluate Xreading, a virtual library of graded readers and a learning management system (LMS) for adoption in the Integrated English courses for freshmen in the English Department, and other departments.
- 3) Develop three “Action Research” projects to serve as pilot studies, and as professional development for fulltime and part-time teachers.
- 4) Through the assistance of 8 part-time teachers (classroom researchers), and 9 other part-time teachers (as control groups), develop expertise among the part-time teachers who will deliver the program.
- 5) Develop 3-4 conference presentations and at least 2 publications (at present, we have done 2 presentations, 2 are forthcoming, and we have 1 publication, 1 pending, and 2-3 ongoing)

The 8 part-time lecturers at Aoyama Gakuin University who served as classroom researchers: Melvin Andrade (Sophia Junior College), James Broadbridge (Obirin University), Sebastian Brooke (Kogakuin University), Jeff Bruce, Juergen Bulach (Jissen University), B.J. Butler, Milton Miltiadous, Gamal Mohamed.

GRADEBOOK KEEPER

Instructions
Once you have the program installed, I

File Edit Gradebook Reports Help

school: [text]
subject (3rd Quarter): [text]
Date: 2017-2-6

Assignment: Communication Program
Category: Communication Program
Points: 120

Student	Grade	1	2
10 AASHI, KAZUKI (SOE)	8.0%	F	0
10 KAWAI, SHUN-ICHI (SOE)	8.0%	F	0

HYPER-Downloads from YouTube.com

Home Apps Games Devices Movies & TV Books More Search

Downloader and Converter for YouTube by Hyper
Music One - ★★★★★ 110
Free*
Get
+ Offers in-app purchases

KAHOOT: A learning game

Kahoot! Blog Explore games Play! Log in Sign up

KAHOOT! FOR BUSINESSES
Join millions of office superheroes to make training and presentations fun and engaging with Kahoot!
Create and play interactive learning games that keep employees and customers on the edge of their seats, while driving a higher return on learning investment.

Start free trial

MENDELEY: Academic Writing

1. **Install Mendeley Reference Manager**
Download the Reference Manager software and Citation Plugin will install automatically.

2. **Import documents to create your library**
Mendeley captures all the document metadata, making citation easy.

3. **Start citing and building bibliographies**
Select from over 1,000 citation styles or create a new style. You can now cite directly as you write!

MENDELEY: Academic Writing – annotations

Annotate as you read

Easily add your thoughts on documents in your own library, even from mobile devices. For ease of collaboration, you can also share documents with groups of colleagues and annotate them together.

Introduction to Quantum Fields in Curved Spacetime and the Hawking Effect

The caption: This picture changes the appearance of the

Quantum gravity remains fundamental physics. The bottom line is we don't even know the nature of the system that should be quantized. The question really may well be just a collective description of some more basic stuff. The fact is that the semi-classical Einstein equation can be derived by demanding that the spacetime metric may well be just a collective description of some more basic stuff. This led me to at first suspect that assuming the proportionality of entropy and area, leads one to suspect that the metric is only meaningful in the thermodynamic limit of something else. This led me to at first suspect that a new way of thinking

–and citations

New document

problem of fundamental physics. The bottom line is we don't even know the nature of the system that should be quantized. The spacetime metric may well be just a collective description of some more basic stuff. The fact is that the semi-classical Einstein equation can be derived by demanding that the spacetime metric may well be just a collective description of some more basic stuff. This led me to at first suspect that assuming the proportionality of entropy and area, leads one to suspect that the metric is only meaningful in the thermodynamic limit of something else. This led me to at first suspect that a new way of thinking

99 Insert or Edit Citation | Undo Edit | Merge Citations

Insert Bibliography | Select from library | Refresh

QUIZLET: Flashcards for in-class and self-study

Quizlet

24 sets 33 members Anyama Gakuin University - Shibuya

2018-AGU-Intercultural Communication

Set Members

CLASS JOIN LINK
<https://quizlet.com/join/6bcWGTuR>

added to 2018-AGU-Intercultural Communication

Try the new Learn!

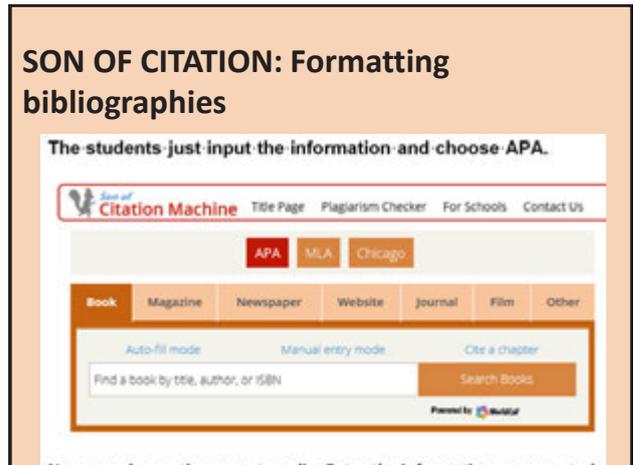
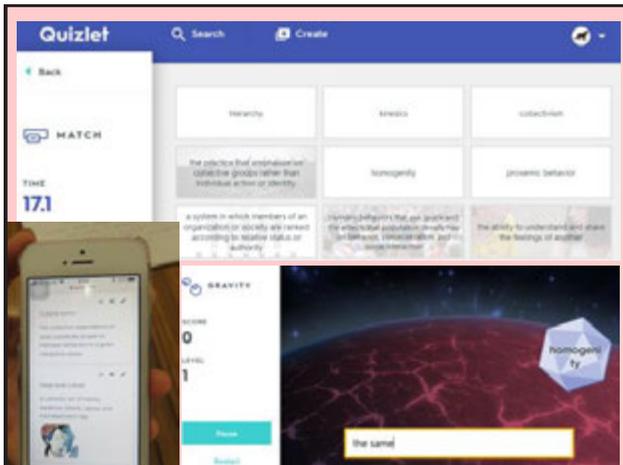
LEARN FLASHCARDS WRITE SPELL TEST

MATCH GRAVITY

the practice that emphasize on collective groups rather than individual action or identity.

CLICK TO FLIP

collectivism



SON OF CITATION: Formatting bibliographies



DISSEMINATING THE INFORMATION

- These websites have all been incorporated into curriculum guides for teachers of Integrated English and for Oral English 1 and 2 in the Education Department.
- They have been shared with members of the FD Project and with part-time teachers at the annual English Department Orientation in April.

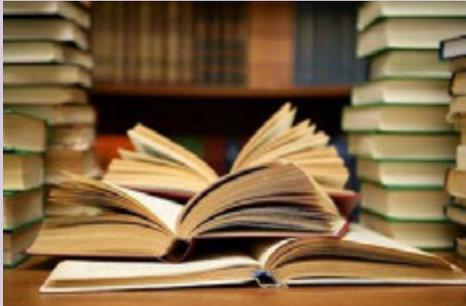
In our 3 experiments, we sought to evaluate a new approach to the classroom use of extensive reading (ER). Its value is well-documented in improving reading comprehension and reading speed (Beglar & Hunt, 2014).



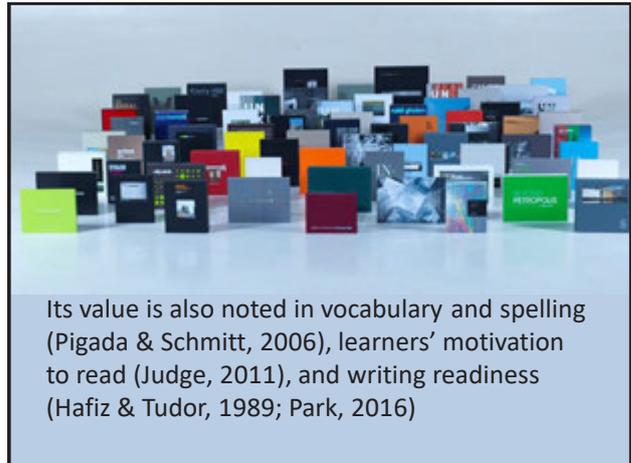
In this case, we sought to evaluate a new approach to the classroom use of extensive reading (ER). Day and Bamford (1998) on ER:

- Students reading as much as possible of material appropriate ability which they choose
- Undertaken to improve reading speed or fluency, their motivation, and comprehension
- Teachers explain the method to students and track their reading

(Beglar & Hunt, 2014) claim increased comprehension and reading speed.



Its value is also noted in vocabulary and spelling (Pigada & Schmitt, 2006), learners' motivation to read (Judge, 2011), and writing readiness (Hafiz & Tudor, 1989; Park, 2016)



However, educators have the challenge of introducing ER into existing university curricula so that students can meet a threshold number of words (ie. Beglar & Hunt, 2012 who estimate this at about 200,000) to realize the gains found in ER studies.

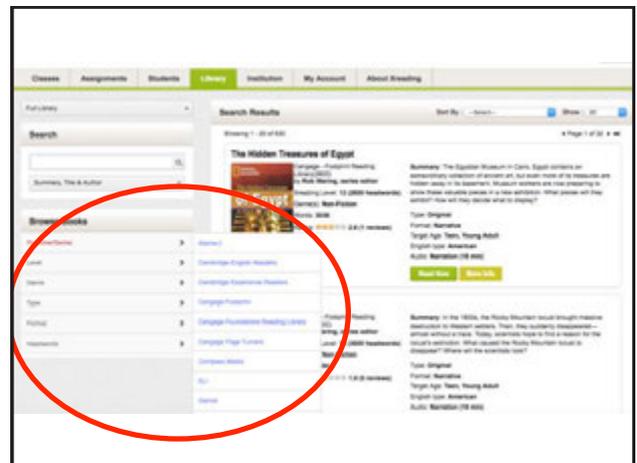
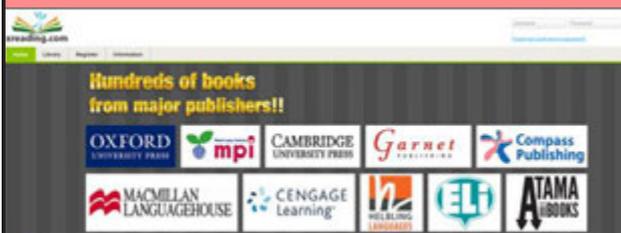
In addition, students can easily find reader responses, reading logs, plot summaries, etc., can on the Internet and copy them. Furthermore, managing an ER program, reading students' homework, and checking for plagiarism can be very time-consuming for teachers.

Using an online library that students can access on their mobile devices and teachers monitor may help meet this challenge.



Xreading.com

- LMS that records student time on task
- reading rates
- cumulative totals
- reading comprehension scores



After reading each book, the students take a short 10-item quiz about the book. In order to get credit for reading the book (words read) instead of the figure (total words).

Num. of Books	Avg. Book Level	Total Words	Words Read	Percent Read	Reading Time (Hours)	Reading Speed (Words/Minute)	Quiz Avg. Out of 10
0							0
25	5.6	162953	158280	97.1%	09:28:35	219.0	59
21	7.2	154779	139562	87.5%	10:14:50	302.9	72
17	6.5	141743	12695	84.6%	05:58:20	1159.1	78
14	6.4	148387	104852	84.0%	07:28:50	387.2	55
26	6.4	112903	85143	100.0%	07:41:55	491.6	77
12	7.2	148637	88550	91.1%	08:05:45	1559.1	68
12	7.5	133283	82518	90.3%	04:16:25	344.2	75
16	5.9	119536	56988	64.7%	05:21:35	171.7	47
15	6.6	151128	111916	96.5%	02:29:35	1299.5	68
3	9.0	49078	22883	68.2%	00:44:45	1295.7	80
16	6.4	142882	125548	93.9%	11:13:45	328.9	80
13	6.8	124824	124824	100.0%	12:39:10	195.0	75
11	7.1	105544	88490	100.0%	03:47:35	1289.6	67
16	5.6	132567	122919	93.3%	13:55:20	135.1	81
19	6.1	127978	104432	100.0%	07:36:00	538.6	68

We developed a series of research questions:

- 1) What benefits can be realized in an ER program at AGU?
- 2) How do students respond to doing assignments on their smartphones?
- 3) What obstacles exist in the classroom or among the students toward the technology?
- 4) What is the operation like of this new technology?

We developed three different experiments:

- a) Spring semester, five experimental classes of Integrated English 3 Core students and six control groups
- b) Spring semester, six experimental classes of Oral Education 2 students and five control classes
- c) Fall semester, six experimental classes of Oral Education 2 students and five control classes (ongoing)

The treatment in each experiment would be similar. Students would spend 15 min of class time silently reading, followed by 15 min of discussion based on their books (ER Foundation, 2011).



The in-class discussion covered a series of reflective answers in which students responded to the plot and reflected on the story and its relevance to their own lives.



Responding to the plot:

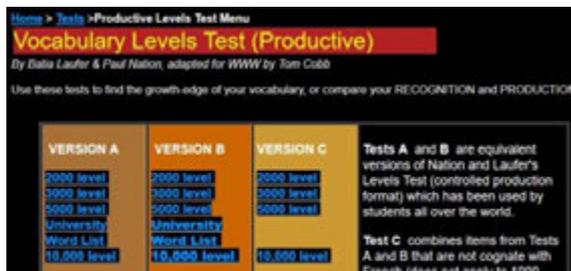
- a) If you were a character in the story what would you have done?
- b) If you were the author what would you change about the book?
- c) Was there a character especially inspiring, depressing, or even frightening? Explain why.
- d) Choose a quotation from a character in the book and describe the situation in which the character makes the remark. Explain why you chose it.
- e) What incidents in the novel did you find inspiring, surprising, comical, or even shocking?
- f) Were there any parts of the plot that you found too predictable or unbelievable? Why?
- g) How did what you expect to happen in the book compare to what actually happened?

With 26 – 35 students in each class, students were also encouraged to read as much as 45 minutes outside of class time through a higher grade offered to students reaching 80,000 words or more.



Test measures

For ease of access, and convenience, (1) the vocabulary measure was an online version of Laufer & Nation's vocabulary levels test accessed through the online site, lextutor



This is an online cloze test of 18 items

If you score below 50% then work on 1000 and 2000 lists.

If you score 50 - 83% then work on the 2000 list.

YOUR SCORE IS 66%.

1. I'm glad we had this opportunity to talk.
 2. There are a dozen eggs in the basket.
 3. Every working person must pay income tax.
 4. The pirates buried the treasure on a desert island.
 5. Her beauty and charm had a powerful effect on men.
 6. Lack of rain led to a shortage of water in the city.
 7. He takes cream and sugar in his coffee.
 8. The rich man died and left all his wealth to his son.
 9. Pupils must hand in their papers by the end of the week.
 10. This sweater is too tight, it needs to be stretched.
 11. Ann introduced her boyfriend to her mother.
 12. Teenagers often admire and worship pop singers.
 13. If you blow up that balloon any more it will burst.
 14. In order to be accepted into the university, he had to improve his grades.
 15. The telegram was delivered two hours after it had been sent.
 16. The differences were so slight that they went unnoticed.
 17. The dress you're wearing is lovely.
 18. He wasn't very popular when he was a teenager, but he has many friends now.
- Test A / 2000 level [Check](#) [Table Menu](#) [Next Level](#)

(2) The second measure, a 550-word passage of reading speed and comprehension was selected from Millet (2005).

(3) Statistics from the test results

(4) An online student survey (Survey Monkey)

(5) Teacher observations

(Burns, 1999) suggests Action Research as an approach where a group of teachers collaborate on an investigation; in this case, through administering pre-tests, posttests, an online survey, and teacher observations in their classrooms.



Teachers were asked to examine a series of reflective questions about their experience in the classroom

- i) What are the chief obstacles to student use of Xreading?
- ii) What overview would you make of Xreading?
- iii) How are you trying to encourage more competition between students to get them to read more?
- iv) What other inducements to engage with Xreading might work?
- v) What comments do you have about Xreading software?

Experiment 1: Five IE Core classes for 84 sophomores in the English department and a control group of seven classes of 105 students taking the same pretests and posttests.

These students took the TOEFL ITP test, level 1, in their freshmen year and part III, their reading comprehension scores (50 questions, scale 31-67), ranged from 34-62).

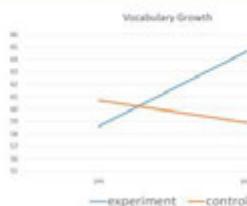
- Statistical results (Allen-Tamai)
- Vocabulary growth, but not in speed, and comprehension



- Survey results (Dias)

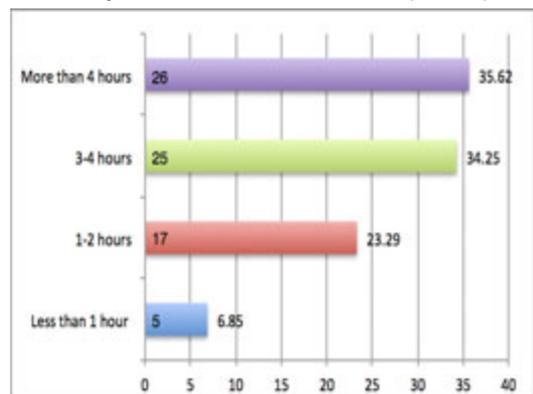
Vocabulary Growth

	Control			Treatment		
	N	M	sd	N	M	sd
Vocabulary(pre)	105	60.70	19.91	82	58.60	16.94
Vocabulary(post)	99	58.89	15.80	83	64.66	16.70



The treatment had a significant effect on vocabulary growth after controlling for the pretest, $F(1, 174) = 11.098, p < .05$ Partial eta square = .06

Daily Smart Phone Use (Dias)



Teacher observations

- A wide range of student performance in terms of books read, time spent on reading, and total words read
- Students sometimes had difficulty in finding books they liked in the virtual library
- They thought the program was helpful in students learning English
- There were technical problems sometimes



The 1st teacher, Sebastian, noted because he had access to the students' reading speeds, and the number of words and books that they had read, he had "a very clear picture of how the class was progressing, who was succeeding and who was being left behind."

His students' discussions following their reading in class were "healthy and lively," and that "they were giving opinions and recommendations" of books to each other.



The 2nd teacher, Juergen, impressed with the virtual library's convenience for students: "they never forgot their phones which meant they could easily access their books." This teacher found that "students were much more engaged in talking about their books than students had been in the past with conventional books."

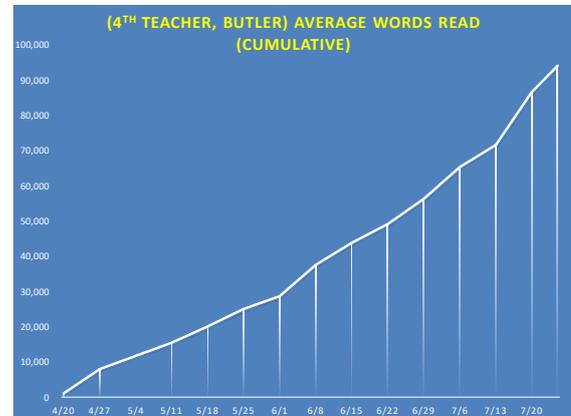


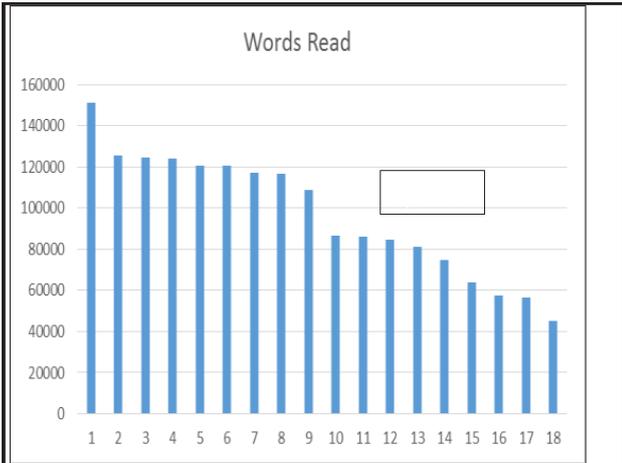
Juergen also used the data about his students to assist him in "one-to-one advice sessions with particular students" and this helped him to better advise and motivate them



The 3rd teacher, Jeff, found that his best, moderate, and weak students all maintained their relative positions while using the virtual library...

A shortcoming of the system was that some books consisted of graded readers based on famous stories such as "Romeo and Juliet." Some students flipped through the text on their smartphone very quickly and by taking a test about a book whose story they knew, gained unearned credit for it.





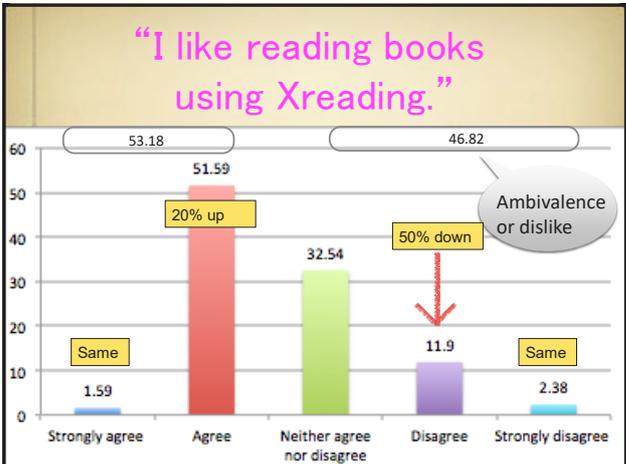
Among the 18 students in B.J. Butler's class:

- 7 received an AA (120,000 words or more read)
- 3 received an A (at least 100,000 words read)
- 2 received a B (at least 80,000 words read)
- 7 received grades below a B.

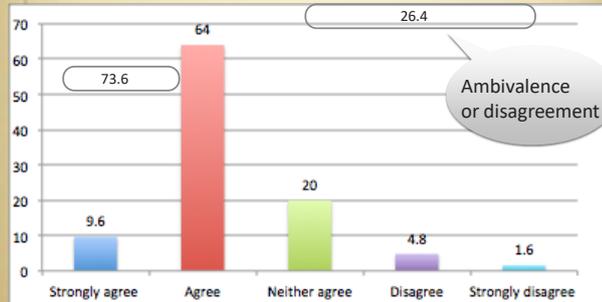
Experiment 2: Six Oral English 2 classes for 143 sophomores in the Education and Psychology departments and a control group of five classes of 126 taking the same tests.

These students took the TOEFL ITP test, level 1, in their freshmen year and part III, their reading comprehension scores (50 questions, scale 31-67), ranged from 37-57).

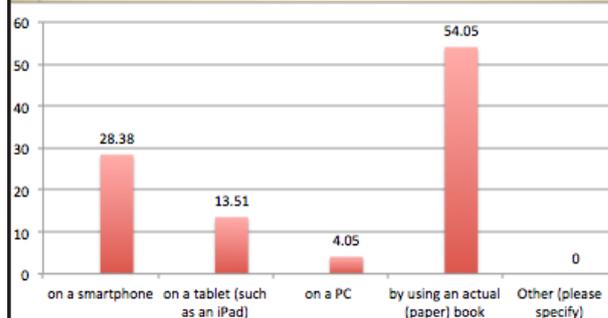
- **Statistical results (Allen-Tamai)**
- **Survey results (Dias)**



“Xreading is helping me improve my English skills.”



How would you prefer to read a book in English? [If book report required.] Core



Daily Smart Phone Use (Dias)



Teacher observations:



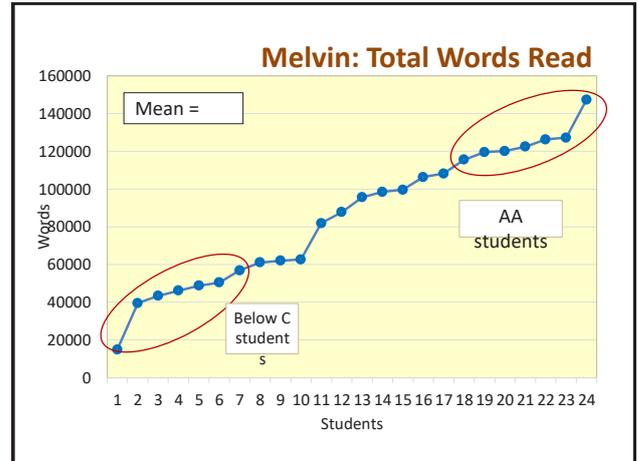
Gamal noted some students “skimming through pages without paying much attention.”



Milton wrote that some students used their books as a springboard for discussion. One pair of students discussed the problem of poverty, a theme in a book.

In contrast, some students appeared to have “faked it” as one student stated, “I don’t really understand what I read. I just read as fast I can.”

The third teacher in this experiment, Melvin, found that student interest in the program was declining. More than 80% of his students were reading more than the weekly goal of 6,000 words but interest flagged



(Melvin) Observations

- After a few weeks, students and the teacher became accustomed to using Xreading as **an integral part of the speaking and listening activities** in this oral English course.
- Despite the fact that amount of reading outside of class began decreasing during the second half of the semester, the **book talks remained as lively** as ever and student classroom engagement was high.
- This Xreading pilot project demonstrated the power of extensive reading with graded readers **to stimulate oral communication**. I would like to do it again.

On the positive side

- 1) The virtual library is very promising as our students read far more than they had ever read previously.
- 2) The LMS of the virtual library enabled teachers to better track their students and to encourage them.
- 3) Students were very engaged in our integrated approach of reading and discussing their readings
- 4) Because of the large number of teachers involved in the study, it shows the potential of AR for curricular assessment and innovation.
- 5) The lead teachers in the study will be able to act as mentors to others in the program.
- 6) With greater latitude in adapting Xreading and the in-class reading and discussions, teachers will develop new strategies to motivate students.

青山学院大学FDフォーラム 2018. 6. 27

学生意識調査の有効活用

恒常的な運用をめざして

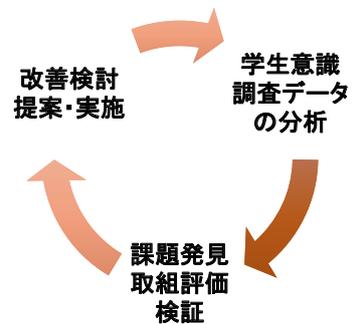
教務データとの連携の試み

退学者の予兆発見

社会情報学部 稲積宏誠 大林真也

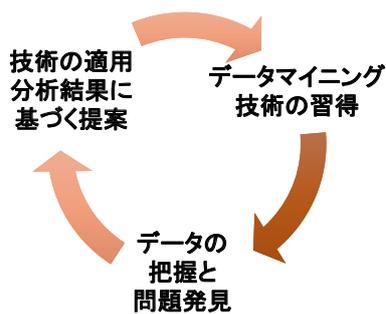
2018/7/31

大学関係者にとって 導入 データ 分析 結論



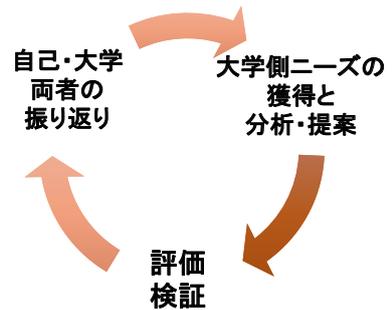
青山学院大学FDフォーラム 2018. 6. 27 2

学生にとって3年次 導入 データ 分析 結論



青山学院大学FDフォーラム 2018. 6. 27 3

学生にとって4年次 導入 データ 分析 結論



青山学院大学FDフォーラム 2018. 6. 27 4

学生の取組例 導入 データ 分析 結論

- 大学のおかげで就活に成功した人と社会的強みにはどのような関係性が見られるのか
- 大学生活を通じてどのような環境・要素が成長に影響を及ぼすか
- 英語学習の取り組みの違いはその他の学生生活とどのような関係にあるのか
- 学生がより長い期間にわたり充実度が高い状態ですごせるようにするためには何が必要か
- 入学時意識と卒業時の身についた感でギャップが生じる要因
- 社会的強みからみる学生の満足感の得かたの違い

青山学院大学FDフォーラム 2018. 6. 27 5

背景と目的 導入 データ概要 分析 まとめ

背景1 学生意識調査が学生の支援に直結しているだろうか

学生意識調査は、各学部がカリキュラムや学生支援のあるべき姿を検討するためのきっかけにするものとされている

背景2 どのような学生にどのような支援をすべきか解明したい

特に退学者に着目した分析

青山学院大学FDフォーラム 2018. 6. 27 6

背景と目的

導入 データ概要 分析 まとめ

目的1 学生意識調査分析による退学者の予兆発見

社会情報学部を退学してしまった学生が、入学時点でどのような特徴を持っていたかを確認する

目的2 支援が必要な学生の早期発見に繋げる

退学の可能性がある学生を発見するには、入学時のどのようなアンケート項目に着目すればよいかを示す

青山学院大学FDフォーラム 2018. 6. 27

7

使用データ

導入 データ概要 分析 まとめ

学生意識調査Ⅰ (2011～2014年・社会情報学部のみ)

- 毎年全学生に対し、株式会社ベネッセキャリアによって実施、集計がされているアンケート調査

2011年度1年生 学生意識調査Ⅰ
2012年度1年生 学生意識調査Ⅰ
2013年度1年生 学生意識調査Ⅰ

傾向の分析や
モデル作成に使用
(学習データ)

2014年度1年生 学生意識調査Ⅰ

モデルの検証に使用
(テストデータ)

単位修得データ (2014～2016年・社会情報学部のみ)

- 社会情報学部の学生の年度ごとの修得単位数が記録されたデータ

青山学院大学FDフォーラム 2018. 6. 27

8

卒業と退学の分類

導入 データ概要 分析 まとめ

卒業

ストレート卒業

3年生終了時点での
修得単位数が122以上でその後卒業

ギリギリ卒業

3年生終了時点での
修得単位数が122未満でその後卒業

退学

単位修得データからIDがなくなった学生

未確定

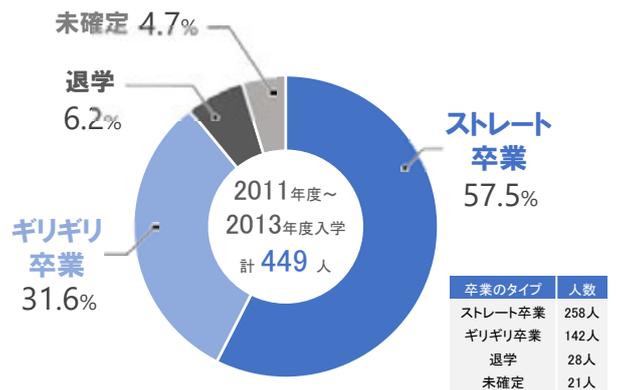
3年生までに90単位を修得できず、進級できなかった学生

青山学院大学FDフォーラム 2018. 6. 27

9

卒業のタイプ

導入 データ概要 分析 まとめ



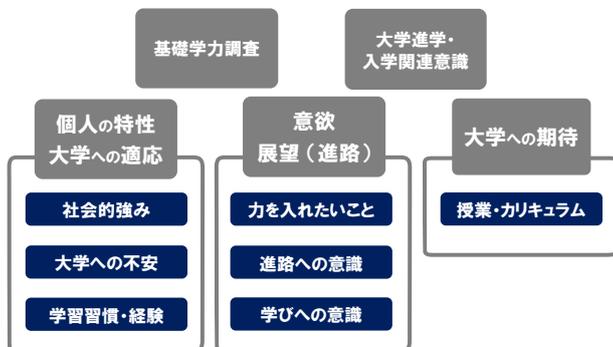
青山学院大学FDフォーラム 2018. 6. 27

10

質問一覧

導入 データ概要 分析 まとめ

学生意識調査Ⅰ 設問概要



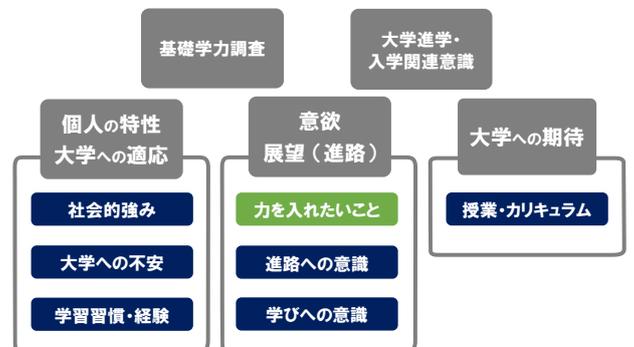
青山学院大学FDフォーラム 2018. 6. 27

11

質問一覧

導入 データ概要 分析 まとめ

学生意識調査Ⅰ 設問概要



青山学院大学FDフォーラム 2018. 6. 27

12

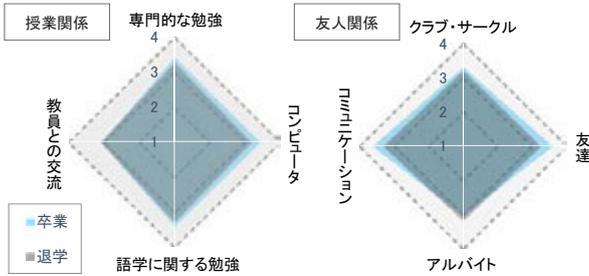
力を入れたいこと 平均

導入 データ概要 分析 まとめ

力を入れたいこと

Q9 次の活動について今後どの程度力を入れていきたいと思いませんか？

4. かなり力を入れたい
3. やや力を入れたい
2. あまり力を入れたくない
1. まったく力を入れたくない

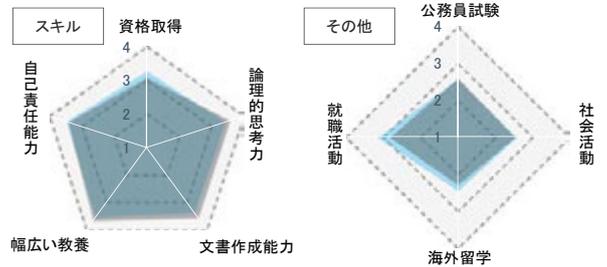


青山学院大学FDフォーラム 2018. 6. 27

13

力を入れたいこと 平均

導入 データ概要 分析 まとめ



力を入れたい項目では明確な違いはない

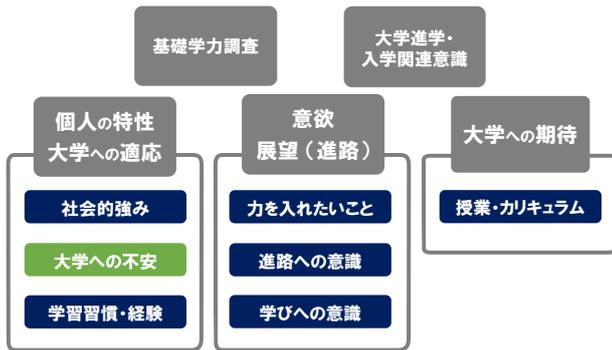
青山学院大学FDフォーラム 2018. 6. 27

14

質問一覧

導入 データ概要 分析 まとめ

学生意識調査 | 設問概要



青山学院大学FDフォーラム 2018. 6. 27

15

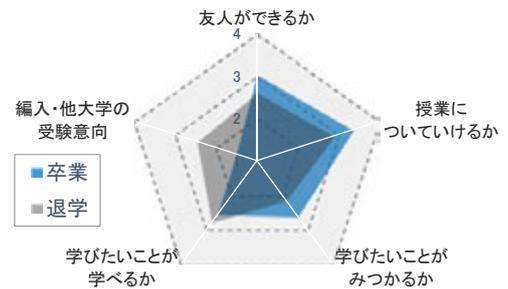
大学への不安 平均

導入 データ概要 分析 まとめ

大学への不安

Q12 大学生活を送るうえで、次の五つについてあなたの気持ちに当てはまるものを選択してください

4. 非常にあてはまる
3. ややあてはまる
2. あまりあてはまらない
1. まったくあてはまらない



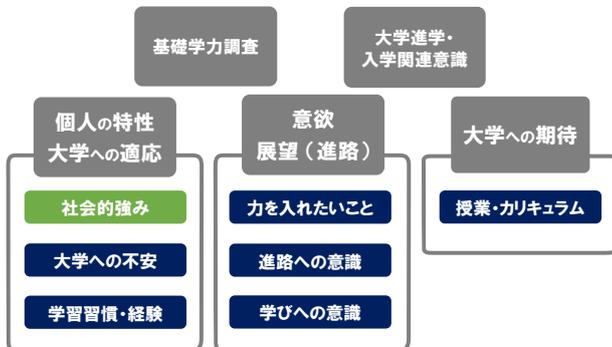
青山学院大学FDフォーラム 2018. 6. 27

16

質問一覧

導入 データ概要 分析 まとめ

学生意識調査 | 設問概要



青山学院大学FDフォーラム 2018. 6. 27

17

社会的強みとは

導入 データ概要 分析 まとめ

社会で求められる能力
偏差値で表されている

自己コントロール力

意欲 自主性 適応力 自己統制力 ストレス耐性 持続力

対人関係力

協調性 共感性 発信力 説得力 指導性

社会的態度(スキル)

創造的態度 現実的態度 情報収集力 論理性 規律性
国際性 IT適応力

青山学院大学FDフォーラム 2018. 6. 27

18

社会的強み 平均

導入 データ概要 分析 まとめ



青山学院大学FDフォーラム 2018. 6. 27

19

グループ分け 結果

導入 データ概要 分析 まとめ



※ A:7人 B:10人 C:11人

青山学院大学FDフォーラム 2018. 6. 27

20

強み・低 グループ

導入 データ概要 分析 まとめ



青山学院大学FDフォーラム 2018. 6. 27

21

強み・高 グループ

導入 データ概要 分析 まとめ



青山学院大学FDフォーラム 2018. 6. 27

22

自己統制力・高 グループ

導入 データ概要 分析 まとめ



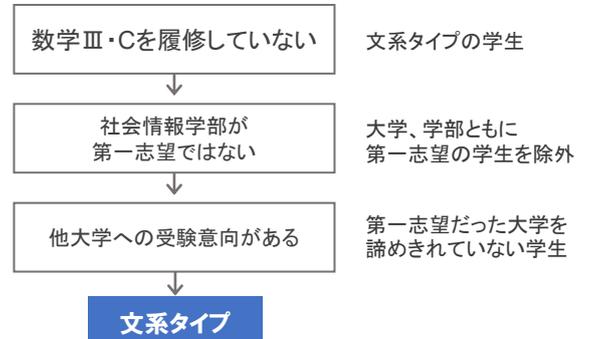
青山学院大学FDフォーラム 2018. 6. 27

23

文系タイプ グループ

導入 データ概要 分析 まとめ

- 退学者のうち、3つのグループに含まれない約40%に適用



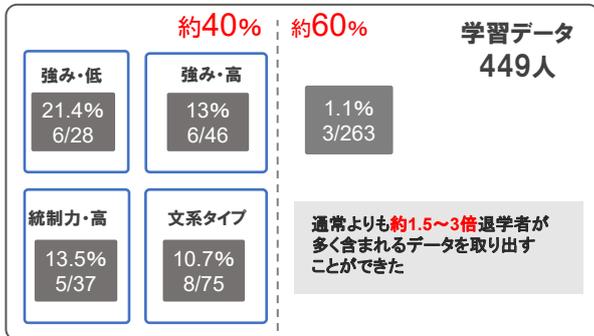
青山学院大学FDフォーラム 2018. 6. 27

24

3+1のタイプで分類

導入 データ概要 分析 まとめ

通常の退学者の割合 6.2%



決定木での分類

導入 データ概要 分析 まとめ

- 1年次のタイプごとに、さらに学生の特徴分類を行う
- 退学と未確定をまとめて **危険学生** とする



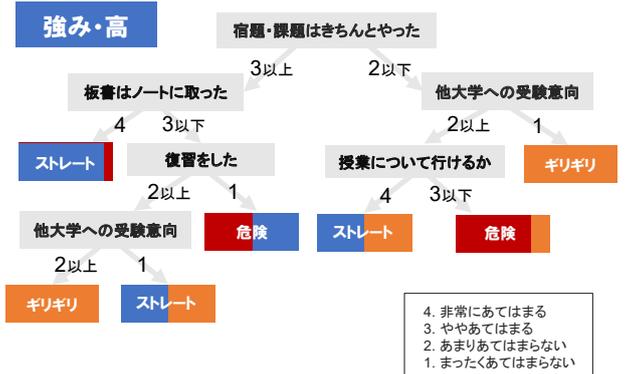
詳細分類 強み・低

導入 データ概要 分析 まとめ



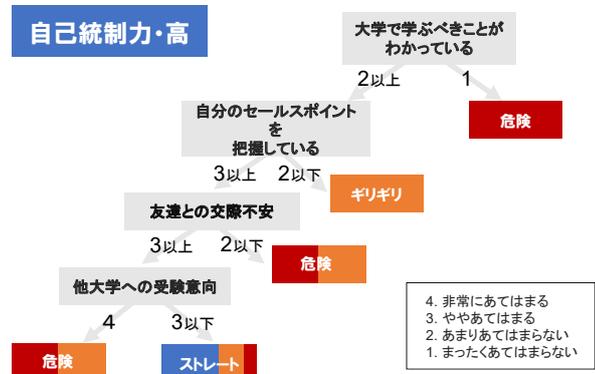
将来分類 強み・高

導入 データ概要 分析 まとめ



詳細分類 自己統制力・高

導入 データ概要 分析 まとめ



詳細分類 文系タイプ

導入 データ概要 分析 まとめ



正解率 確認

導入 データ概要 分析 **まとめ**

決定木での分類結果

	危険学生	ギリギリ学生	ストレート学生
危険予想	30人	2人	5人
ギリギリ予想	0人	27人	0人
ストレート予想	8人	37人	75人
正解率	78.95%	40.91%	93.75%

実際の危険学生のうち約80%が危険予想になっている

青山学院大学FDフォーラム 2018. 6. 27

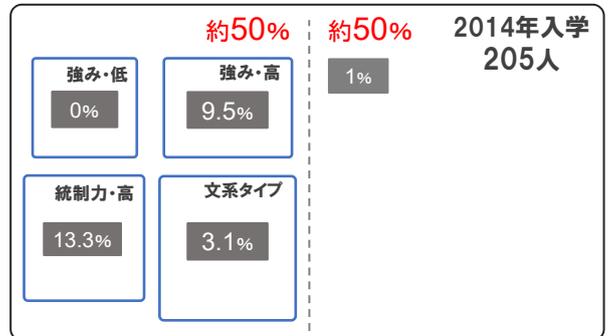
31

2014年入学に適用

導入 データ概要 分析 **まとめ**

1. タイプ分類

通常の退学者の割合 3.9%



青山学院大学FDフォーラム 2018. 6. 27

32

2014年入学に適用

導入 データ概要 分析 **まとめ**

2. 詳細分析による分類結果

	危険学生	ギリギリ学生	ストレート学生
危険予想	12人	10人	5人
ギリギリ予想	3人	8人	6人
ストレート予想	2人	19人	38人
正解率	70.50%	21.62%	77.50%

実際の危険学生のうち約70%が危険予想になっている

青山学院大学FDフォーラム 2018. 6. 27

33

まとめ

導入 データ概要 分析 **まとめ**

- 退学者と卒業した学生は、学生意識調査データの回答傾向、特に「大学への不安」や「社会的強み」などの項目で違いが見られる
- 学部の特性として、文系学生のミスマッチ感が退学につながるケースがある
- 以下の手順により退学の危険性のある学生の推定が可能となる

- 1 自己コントロール、対人関係、社会的態度による分類
- 2 大学入学前・入学後における対応・意識による分類

支援が必要な学生の早期発見が可能となる

青山学院大学FDフォーラム 2018. 6. 27

34

参考文献

導入 データ概要 分析 **まとめ**

- Data Science Platform | RapidMiner
<https://rapidminer.com/>
- 青山学院大学 | 学生意識調査(学部のみ) - 学部・大学院のFD活動 - 大学案内
http://www.aoyama.ac.jp/outline/effort/fd/undergraduate/survey.html#anchor_01
- 青山学院大学 | 学生意識調査(学部のみ) - 学部・大学院のFD活動 - 大学案内
<http://www.aoyama.ac.jp/outline/effort/fd/>

青山学院大学FDフォーラム 2018. 6. 27

35

参考資料

決定木作成に使用した質問項目1

カテゴリ	質問項目
進路に対する意識 自己理解	Q1 自分のセールスポイントを把握している
	Q6 自分の行動上の強みを知っている
	Q11 自分の性格の長所と短所をわかっている
	Q16 自分の得意な能力分野を知っている
	Q21 自分に向けた学習方法を知っている
進路に対する意識 学びへの意識	Q5 大学で学びたい学問がある
	Q10 大学で学ぶべきことがわかっている
	Q15 自分が大学で身につけたい力がわかっている
	Q20 大学での学びと自分の目標との関係を理解している
	Q25 大学での学びを通じて自分が成長するイメージをもっている
大学生生活への不安	1 友人ができるか
	2 授業についていけるか
	3 学びたいことがみつかるか
	4 学びたいことが学べるか
	5 編入・他大学の受験意向

37

決定木作成に使用した質問項目2

カテゴリ	質問項目	カテゴリ	質問項目
高校時代の 学習習慣	1 できるだけ予習した	力を入れた活動	1 専門的勉強
	2 板書はノートにとった		2 コンピューター
	3 板書以外もノートにとった		3 語学
	4 先生に質問・相談に行った		4 資格取得
	5 宿題・課題はきちんとやった		5 公務員試験対策
	6 復習をした		6 教員との交流
	7 計画や目標を立てて勉強した		7 クラブ・サークル
	8 予備校や塾で勉強した		8 社会活動
4. 非常にあてはまる 3. ややあてはまる 2. あまりあてはまらない 1. まったくあてはまらない			9 海外留学
			10 友達との交際
			11 アルバイト
			12 対人コミュニケーション
			13 論理的思考力
		14 文章作成能力	
		15 幅広い教養	
		16 自己責任能力	
		17 兼業・企業研究	

38

社会的強み・自己コントロール力

カテゴリ	質問項目
意欲	Q19 目標が高いほどやる気が出る
	Q37 苦手なことにもまずは取り組んでみる
	Q109 難しいことでもあきらめず、努力してやる
自主性	Q2 手が空いた時には、自分でできることを探して周囲の人に声をかける
	Q38 困っている人に対しては、こちらから声をかける
	Q74 指示されなくてもやるべきことを見つけて動くことができる
適応力	Q39 友人はすぐ作れる方である
	Q75 新しい学校に入学した時に、すぐに慣れる方である
	Q93 いろいろな人と話をして、打ち解けあう
自己統制力	Q4 腹が立つと人前でも怒ってしまう方である(逆)
	Q58 人から感情的だ、と言われたことがある(逆)
	Q112 言っではいけないことをつい言ってしまう(逆)
ストレス耐性	Q5 挫折しても立ち直りは早い方だ
	Q59 自分は精神的に強い方だ
	Q113 試験の時あがらない方である
持続力	Q60 面倒な作業も途中で投げ出さない
	Q96 一度決めたことは、最後までやり遂げる
	Q114 人からねえ強いと言われる

39

社会的強み・対人関係力

カテゴリ	質問項目
協調性	Q61 ひとりで考えるよりも、みんなと一緒に考えるほうが好きだ
	Q79 グループ活動には協力的な方である
	Q97 何かをする時、友人に手伝ってほしいとたのめる
共感力	Q26 場の空気を讀むのが得意
	Q44 他人が求めていることがよくわかり、それに応えようとする
	Q82 人に合わせるのがうまい
発信力	Q9 自分の意見をうまく伝えることができる
	Q45 あなたの話をわかりやすいと言われたことがある
	Q81 考えをまとめるのが得意だ
説得力	Q46 初対面の人でも、自分の言いたいことをきちんと理解してもらいうることができる
	Q82 何かを決める時、自分の意見が通る方である
	Q118 他人に働きかけてものを進めるのは得意である
指導性	Q65 授業や話し合いの場面では、積極的に自分の意見を言う
	Q83 話をまとめる役割を決めたりするのが得意である
	Q101 大勢の前で、あいさつをしたり司会をしたりするのが苦にならない

40

社会的強み・社会的態度

カテゴリ	質問項目
創造的態度	Q66 アイデアは、人よりもたくさん思い浮かぶ方だ
	Q102 いろいろ組み合わせて新しいものをつくり出す方だ
	Q120 すでに確立された方法や既存の考えにとらわれずに考えることができる
現実的態度	Q31 試験勉強をする時は必ず計画を立てる
	Q67 限られた時間やお金をいかにうまく使うことができるか注意している
	Q121 将来の自分に何が必要なのかを考えて、履修科目を選んでいる
情報収集力	Q32 新聞やニュースを見る時、いつも「なぜだろう」と考える
	Q68 ニュースについて自分なりの考えをまとめることができる
	Q122 多くの情報から何が言えるのかを考えることが好きだ
論理性	Q15 人の意見に対して論理的に反論できる
	Q69 議論やディベートが得意である
	Q87 自分の出した結論について、なぜそう考えたのかを筋立てて説明できる
規律性	Q70 厳しい規則があっても苦にならない
	Q106 グループで行動する場合、身勝手な行動をすることはしない
	Q124 何事もフェアでなければ気がすまない
国際性	Q35 機会があれば、外国で勉強や仕事してみたい
	Q71 外国語能力の向上のための勉強を継続的にしている
	Q89 外国の経済・政治・文化など、異文化理解を積極的にしている
IT適応力	Q18 パソコンやソフトの使い方について人に教えることができる
	Q72 パソコンを使い、データの加工・分析や結果をグラフなどで表現できる
	Q126 パソコンのセッティングは自分でできる

41

未使用スライド

卒業と退学の分類

[導入](#)
[データ概要](#)
[分析](#)
[まとめ](#)

単位修得データ

総取得単位	2015	2014	2013	2012	ID
138	6	38	48	46	014755
142	16	40	44	42	014757
142	30	38	41	33	014758
139	10	36	48	45	014759
138	28	44	34	32	014761
138	16	36	42	44	014762

学生意識調査 I

ID	性別	学年	入試区分	出身学校の 属性
014755	2	1	10	10
014757	2	1	20	90
014758	1	1	10	80
014759	2	1	40	20
014760	2	1	20	50
014761	1	1	10	10
014762	1	1	30	60

2014年度の単位修得データには年度別の修得単位数がなく
卒業タイプの判定が行えないため、退学者と一部学生のデータのみを使用

7. 学生意識調査

2010年度より学生の学習に対する期待や姿勢、大学における成長感等に関する調査を全学的に実施している。

○ 実施概要

【実施目的】

- 1 年生（4 月実施）
（学生にとって） 学生生活の目標設定・学びと進路のつながりを意識するきっかけとする。
（大学にとって） 新入生の現状把握。PDCA サイクルの起点のデータとする。
- 2 年生（4 月実施）
（学生にとって） 学生生活の振り返りをもとに、2 年次以降の目標の再設定をするきっかけとする。
（大学にとって） 1 年間の学生生活の満足度・成長感を把握し、教育改善につなげる。
- 3 年生（4 月実施）
（学生にとって） 就職活動のための自己分析のツール。結果を元に自己 PR と志望動機の作成をする。
（大学にとって） 学生の満足度・成長感を把握し、教育改善につなげる。
- 4 年生（3 月実施）
（大学にとって） 4 年間で学生が身につけた力・モチベーションの変化の把握、満足度・成長感を把握し、入学～4 年間の総括データとする。

【実施方法】

- 1～3 年生は 4 月、4 年生は後期（12 月～3 月）に実施する。
マークシート方式のアンケート調査で、「学修成果」の調査と「学業及び学生生活に関するアンケート」、3 年生は「基礎学力調査」と「学業及び学生生活に関するアンケート」を実施している。
所要時間は約 90 分。
4 年生は「学業及び学生生活における満足度調査」に関するアンケートで、所要時間は約 30 分。
4 年生については WEB アンケート調査も実施している。

【調査結果】

アンケート委託業者による回答の集計と分析をおこない、結果報告書として各学生（1～3 年生）へフィードバックする。その際、前年以前に受検している場合は経年の変化も掲載する。

【調査結果の活用】

学生（1～3 年生）については、結果報告書を用いた外部講師によるフォローアップ講座（進路指導）を実施している。
また、調査結果を教授会等の場にて各学部へ報告し、学部運営の参考とする。また、事務職員を対象とした報告会を開催する等、学院関係者で情報を共有している。

○ 実施状況(2017年度)

【1年生】

学部	学生数(2017/5/1)	受検者数	受検率
文学部	723	680	94.1%
教育人間科学部	318	309	97.2%
経済学部	515	477	92.6%
法学部	478	465	97.3%
経営学部	515	488	94.8%
理工学部	638	619	97.0%
国際政治経済学部	302	291	96.4%
総合文化政策学部	257	249	96.9%
社会情報学部	229	212	92.6%
地球社会共生学部	184	175	95.1%
合計	4,159	3,965	95.3%

【2年生】

学部	学生数(2017/5/1)	受検者数	受検率
文学部	829	451	54.4%
教育人間科学部	335	199	59.4%
経済学部	637	181	28.4%
法学部	545	205	37.6%
経営学部	595	147	24.7%
理工学部	642	336	52.3%
国際政治経済学部	324	133	41.0%
総合文化政策学部	276	133	48.2%
社会情報学部	266	96	36.1%
地球社会共生学部	239	155	64.9%
合計	4,688	2,036	43.4%

【3年生】

学部	学生数(2017/5/1)	受検者数	受検率
文学部	807	427	52.9%
教育人間科学部	345	202	58.6%
経済学部	559	202	36.1%
法学部	506	157	31.0%
経営学部	543	207	38.1%
理工学部	766	327	42.7%
国際政治経済学部	303	82	27.1%
総合文化政策学部	267	79	29.6%
社会情報学部	241	86	35.7%
地球社会共生学部	211	88	41.7%
総計	4,548	1,857	40.8%

【4年生】

学部	学生数(2017/12/1)	受検者数	受検率
文学部	818	645	78.9%
教育人間科学部	359	302	84.1%
経済学部	598	435	72.7%
法学部	538	322	59.9%
経営学部	579	408	70.5%
理工学部	626	438	70.0%
国際政治経済学部	330	252	76.4%
総合文化政策学部	296	198	66.9%
社会情報学部	226	138	61.1%
文学部第二部	2	0	0.0%
合計	4,372	3,138	71.8%

8. FD 講演会

例年 FD 講演会については、年間 2 回（前期・後期各 1 回ずつ）開催していたが、2017 年度は前期のみ、1 回の開催となった。

2016 年度「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」（障害者差別解消法）施行に伴い、本学でも「障がい学生支援センター」開設準備を開始したことから、「障がい学生支援」、「障害者差別解消法」について、共通の理解と認識をもつために、「障害者差別解消法の施行と青山学院大学の障がい学生支援」と題して講演を行った。

講師は、本学の嘱託弁護士の坂生雄一先生と、2018 年度より本学の障がい学生支援センター支援コーディネーター就任予定の工藤明人先生にお願いした。坂生先生からは、「障害者差別解消法」の概要から、法律的解釈による「不当な差別的取扱いの禁止」、「障がい学生に対する合理的配慮とは」について、わかりやすく解説をいただき、工藤先生からは、障がい学生支援センター開設準備の観点から、本学の障がい学生支援の現状と、開設にあたっての問題点についてお話をいただいた。

なおこの講演会は、授業を担当する教員は元より、窓口で障がい学生の対応にあたる職員についても非常に重要なテーマであったため、「FD・SD 講演会」として開催し、多くの教職員の参加があった。

○ 青山学院大学 2017年度 第1回FD・SD講演会 次第

日 時 6月14日(水)14:30～16:00
場 所 第13会議室(青山キャンパス 15号館5階)
B218b 会議室(相模原キャンパス B棟 2階)
司会進行 全学FD委員会 委員長 田中 正郎 教授

1. 開会祈祷

大学宗教部長 塩谷 直也 教授

2. 開会挨拶

全学FD委員会委員長
副学長 田中 正郎 教授

3. 講演

「障害者差別解消法」の施行と青山学院大学の障がい学生支援

(テーマ・目的)

「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」(障害者差別解消法)が、2016年4月より施行されたことにより、障害を理由とする不当な差別的取扱いの禁止、合理的配慮の提供が義務化もしくは、努力義務となりました。本学の支援学生の現状を振り返り、「合理的配慮とは」、「施行後の授業で気を付けることとは」等について問題共有をし、授業だけにとどまらず学内における支援要請に大学がどう応じていくか、考える場にできればと思います。

講師 坂生 雄一先生(青山学院嘱託弁護士)
工藤 明人先生((仮)青山学院大学障がい学生支援
センター支援コーディネーター)

4. 質疑応答と意見交換

5. 閉会挨拶

全学FD委員会副委員長
杉谷 祐美子 教授

以上

障がいのある学生についての 学内部署アンケート調査結果報告

青山学院大学

障がい学生支援センター準備室

支援コーディネーター

工藤 明人

期間 2017年5月1日～5月16日

調査部署

○青山キャンパス

教務課(文学部、経済、法学部、経営、国政経、教育人間、青スタ、総文、教務課長)、教職課程課、学生生活部、進路就職センター、国際交流センター、学生相談センター、保健管理センター、宗教センター、安全対策課、IVYCS、外国語ラボ、図書館、施設課、管理部、入試広報部、情報メディア

○相模原キャンパス

地球、社会情報、理工、宗教センター、学術情報、進路就職、保健管理センター、学生相談センター

設問内容

- Q1.これまで障がいのある学生が、相談に来たことがありますか。
- Q2. (上記でYESの場合) どのような相談でしたか。
- Q3 どんな対応をしましたか。
- Q4. 介助の依頼はありましたか。
- Q5. どのような介助をしましたか。
- Q6. バリアフリーの状況について教えてください。
- Q7. 改善したほうが良いところはありますか。

肢体不自由のある学生

- 過去に受け入れ実績あり。
- 現在も在籍学生あり。特に配慮要請は今のところなし。
- 青山から相模原へ転学部しての対応例あり。
- 相模原は車いす使用について基本的にバリアフリー。
- 青山はアクセスが困難な建物や部屋がある。
- 青山での健診時に、X線検査のみ個人負担でお願いしている。
- 受験前相談で、上下肢麻痺で実験ができない者を断ったことあり。
- 現在3名の学生の在籍を確認。

視覚障がいのある学生

- 過去に支援実績あり。
- 点字プリンタ、ブレイルセンス、視覚障がい者用PCソフトあり。
- 現在も在籍学生あり。(視野障がい、弱視)
- 拡大鏡使用、事前資料配布。
- 試験での個別配慮。
- 現在2名の学生(視野障がい、弱視)在籍を確認。

聴覚障害のある学生

- 過去に支援実績あり。
- 現在在籍学生あり。
- FMマイクの授業担当者使用許可。
- ICLレコーダーによる録音許可。(今後也要相談)
- ノートテイク講座開講継続。登録学生あり。
- 手話部あり。
- 現在3名の学生の在籍を確認。

病弱・虚弱のある学生

- 急性肺炎、コリン性蕁麻疹、I型糖尿病等の学生が在籍中。
- 保健管理センター、教務課が、把握し対応している。
- 入試時、急変に対応することが必要な学生は、保健管理センターでの受験許可。
- 全国調査でも、在學生が増加。
- 現在4名の学生の在籍を確認。

精神障がいのある学生 (発達障がいのある学生を含む)

- 近年増加傾向。
- 入試時点から配慮要請あり(別室受験等)。
- 青山キャンパスはグレーゾーンの発達障がいが多い。
- 就職活動で困難をきたす例が多い(主に発達障がい)。
- 発達障がいという自覚のない事例も多い。
- 留学生のうつ状態の発症多い。
- 授業配慮は、出口近くの座席指定、服薬時の水分摂取許可、多人数の前での指名や発表についての配慮など。
- 現在15名(うち他の障がいとの重複2名)の学生の在籍を確認。

性別違和のある学生

- 在学中の性別転換希望学生。希望の性別での通称名の使用許可願あり。現状では困難との判断。
- トイレ使用、健診時の相談あり。
- LGBTの大学公認サークルあり。
- 現在3名の学生の在籍を確認。

課題

- 何を、どこまで、どうやって支援するのか定まっていない。
- 青山キャンパスの物理的なバリアフリー化は今後も必要。
(現状では障がいのある留学生受け入れ困難)
- 本学で行われた合理的配慮の公開必要。
- これまでの合理的配慮実績のノウハウの蓄積必要。
- 学内の連携方法があいまい。
- 有償サポート学生、支援機器購入等の費用問題。
- 支援機器等の情報管理の問題。
- 発達障がいのある学生の就職支援について。
- 全教職員への啓発活動の継続が必要。

9. 科目ナンバリング

本学の学士課程における全ての科目に、教育課程上の学修段階、学修順序、学修内容等を示すコード番号を付す「科目ナンバリング」を実施している。全学 FD 委員会にて作成した全学的なコード体系に基づき、青山スタンダード及び各学部において科目ナンバリングの作成が行われた。

科目ナンバリングによって、青山スタンダード及び各学部の教育課程における科目一つ一つの位置づけが示されることにより、各年度、さらには大学生活全体における修学計画を学生が検討する際等に、その参考となることが期待される。

2017 年度末までに青山スタンダード及び各学部の全ての科目について科目ナンバリングが行われ、その結果を 2018 年度入学生に開示している。

○ 科目ナンバリング

【コード体系】

全ての科目に 7 桁の英数字から構成されるコードを付し、教育課程体系上の位置付けを示している。各桁の意味は次のとおり。

桁数	1	2	-		3	4	5	6	7
コード例	A	A	-		A	A	1	0	1
意味	学部等	学科等	教育課程上の区分		配置年次	科目番号			
			(大区分)	(小区分)					
使用文字	英字	英字	英字	英字 一部数字あり	数字	数字			

1・2 桁目：学部・学科等（どの学部・学科（・コース）等の教育課程であるかを示す）

3・4 桁目：教育課程上の区分（当該学部・学科の教育課程上の区分を示す）

（3 桁目）大区分・・・卒業要件（科目領域、科目区分等）による区分

（4 桁目）小区分・・・学修内容（学問分野等）による区分

5 桁目：配置年次（科目の配置年次（最低履修可能年次））

6・7 桁目：科目番号（科目の位置付けや科目間のつながり等を示す（科目番号の付け方は学部・学科等によって異なる））

○ 2018年度 科目ナンバリング コード一覧表(1～4桁目)

桁数 内容	1		2		3		4	
	学部等		学科等		教育課程上の区分(大)		教育課程上の区分(小)	
コード ・ 意味	G	青山スタンダード	G	青山スタンダード科目	A	キリスト教理解	A	キリスト教概論
							B	キリスト教学
							C	キリスト教実習
					B	人間理解	A	人文科学総合
							B	哲学
							C	言語学
							D	文学
							E	芸術学
							F	文化人類学
							G	教育学
							H	心理学
							I	平和学
					J	コミュニケーション		
					C	社会理解	A	社会科学総合
			B	法学				
			C	国際関係論				
			D	社会学				
			E	経済学				
			F	人文社会情報学				
			D	自然理解	A	自然科学総合		
					B	科学技術史・科学(技術)論		
					C	数理科学		
					D	物理学		
					E	生命科学		
					F	工学		
					G	地球・環境科学		
E	歴史理解	A	史学総合					
		B	自校史					
		C	現代史					
		D	日本史					
		E	アジア史					
		F	ヨーロッパ史					
		G	考古学					
		H	思想史					
F	言葉の技能	A	地域研究					
		B	言語学					
		C	日本学					
G	身体の技能	E	英語					
		A	健康・スポーツ演習					
		B	健康科学					
		C	スポーツ科学					
H	情報の技能	D	運動実習					
		A	情報学総合					
I	キャリアの技能	A	職業観・勤労観の育成					
		B	汎用能力の育成					
		C	実践能力の育成					
		D	職業選択力					
		E	仕事力					
		A	初年次教育					
L	青山スタンダード科目 (第二外国語)	F	言葉の技能(フランス語)					
		F	フランス語					
		G	言語の技能(ドイツ語)					
		G	ドイツ語					
		S	言語の技能(スペイン語)					
		S	スペイン語					
		C	言語の技能(中国語)					
		C	中国語					
		R	言語の技能(ロシア語)					
		R	ロシア語					
K	言語の技能(韓国語)							
K	韓国語							
E	言語の技能(英語・仏文)							
E	英語							
I	言語の技能(英語・外国人留学生)							
E	英語							
J	言語の技能(日本語)							
J	日本語							

桁数	1		2		3		4	
内容	学部等		学科等		教育課程上の区分(大)		教育課程上の区分(小)	
コード ・ 意味	L	文学部	L	英米文学科	A	イギリス文学・文化	A	イギリス文学・文化
					B	アメリカ文学・文化	A	アメリカ文学・文化
					C	グローバル文学・文化	A	グローバル文学・文化
					D	英語学	A	英語学
					E	コミュニケーション	A	コミュニケーション
					F	英語教育学	A	英語教育学
					G	専門科目(英語)	A	英語専門導入
							B	発展英語
							C	翻訳・通訳
					L	英語	E	英語
			J	日本語科目	J	日本語		
			F	フランス文学科	A	フランス語	A	フランス語
					B	フランス文学	A	フランス文学
					C	フランス語学	A	フランス語学
					D	フランス文化	A	フランス文化
					J	日本語科目	J	日本語
			N	日本文学科	A	学科共通	H	日本文学・日本語基礎科目
					B	概論・入門	A	日本文学
					C	演習	B	中国文学
					D	講義	C	日本語学
							D	日本語教育
							E	表象文化論
							F	文学交流
							G	書道
					L	外国語	E	英語
					J		J	日本語
			H	史学科	A	日本史	A	日本史
					B	東洋史	A	東洋史
					C	西洋史	A	西洋史
					D	考古学	A	考古学
					E	共通	A	史学総合
							B	教職・資格
			L	外国語	E	英語		
			J		J	日本語		
			A	比較芸術学科	A	専門基礎	A	芸術学総合
					B	美術	B	美術
					C	音楽	C	音楽
					D	演劇映像	D	演劇映像
					E	共通	A	比較芸術学専門
			B	資格				
			L	外国語	E	英語		
			J		J	日本語		
C	文学部共通	A	文学部共通	A	芸術学			
				B	哲学・倫理学			
				C	心理学			
				D	史学			
				E	文学			
				F	言語学			
				G	社会学			

桁数	1		2		3		4		
内容	学部等		学科等		教育課程上の区分(大)		教育課程上の区分(小)		
コード ・ 意味	P	教育人間科学部	P	教育学科	O	第0群	O	教育学基礎	
					A	第I群	A	教育史・教育哲学	
					B	第II群	B	教育社会学・生涯発達論	
					C	第III群	C	臨床教育学・障害児教育学	
					D	第IV群	D	生涯学習論・社会教育学・高等教育論	
					E	第V群	E	認知科学・メディア論・教育情報学	
	F	第VI群	F	図書館情報学					
	G	第VII群	G	幼児教育学					
	H		H	保育学					
	I		I	児童教育学					
	J		J	教科教育学(初等)					
	K		K	教科教育学(中等)					
	L		L	キリスト教教育論					
	E	経済学部	E	経済学科	A	第I群	A	基礎心理学	
					B	第II群	B	認知心理学	
					C	第III群	C	発達心理学	
					D	第IV群	D	社会心理学	
					E	第V群	E	臨床心理学	
					F	第VI群	F	心理総合	
					G	第VII群	G	哲学	
H					第VIII群				
L			外国語	E	英語	A	英語		
D			現代経済デザイン学科	E	経済学科	A	入門科目	A	経済学総合
						B	基礎科目	B	理論経済学
						C	理論・数量	C	経済史
						D	政策・産業	D	経済統計
						E	歴史・国際・地域	E	経済政策
	F	演習等				F	財政・公共経済		
G	関連科目	G	産業組織論						
D	現代経済デザイン学科	D	現代経済デザイン学科	A	入門科目	A	現代経済デザイン総合		
				B	基礎科目	B	理論経済学		
				C	専攻科目	C	財政・公共経済		
				D	演習	D	経済政策		
				E	実践科目	E	人文地理学		
				F	関連科目	F	経済統計		
						G	経済史		
						H	政治学		
						I	公法学		
						J	民法法学		
						K	社会法学		
						L	経営学		
						M	会計学		
						N	商学		
		O	人文・社会学						
L	外国語	L	外国語	A	第一外国語	E	英語		
				J	日本語				

桁数	1		2		3		4	
内容	学部等		学科等		教育課程上の区分(大)		教育課程上の区分(小)	
コード ・ 意味	J	法学部	J	法学科	A	科目群Ⅰ	A	演習科目
					B	科目群Ⅱ	A	入門科目
					C	科目群Ⅲ	B	基礎法
					D	科目群Ⅳ	C	外国法
			A	公法				
			B	私法				
			C	社会法				
			D	政治学				
	A	ビジネス法						
	B	公共政策						
	C	司法						
	D	ヒューマン・ライツ						
	L	外国語	A	第一外国語	E	英語		
	J	日本語						
	A	会計学						
	B	経営学						
	C	商学						
	D	データ科学						
	E	経済学						
	F	ファイナンス						
	I	産学連携						
	J	法学						
	K	国際文化						
	M	マーケティング						
S	演習							
L	外国語	L	第一外国語	L	英語			
N	日本語							
E	English							
J	Japanese							
A	物理学総合							
B	化学総合							
C	電気工学総合							
D	機械工学総合							
E	情報学総合							
A	力学							
C	代数							
D	解析							
E	数学総合							
F	物理・数理総合							
G	化学総合							
H	情報学基礎理論							
I	哲学・倫理学							
J	インターンシップ							
A	力学							
B	連続体力学							
C	熱力学							
D	電磁気学							
E	地球惑星科学							
F	生物物理							
G	物理科学総合							
H	代数							
I	解析							
J	幾何							
K	確率統計							
L	微分方程式							
N	数学総合							
O	化学総合							
P	電気工学総合							
Q	機械工学総合							
R	経営システム総合							
S	情報学総合							
T	基礎力学							

桁数	1		2		3		4	
内容	学部等		学科等		教育課程上の区分(大)		教育課程上の区分(小)	
コード ・ 意味	S	理工学部	P	物理・数理学科	P	物理科学コース	U	統計力学
					V	素核・宇宙科学		
					W	物性物理学		
					B	数理科学総合		
					A	代数		
					D	微分方程式		
			M	数理科学コース	C	解析		
					S	確率統計		
					G	幾何		
					P	物理		
					A	物理化学		
					B	無機化学		
			C	化学・生命科学	A B C D E F	数学・共通科目 講義科目 実験・演習科目 (基礎実験を除く) 専門実験 輪講・卒業研究 選択必修Ⅰ 選択必修Ⅱ	C	有機化学
							D	生命科学
							E	化学総合
							F	化学・生命科学総合
							G	物理学総合
							H	数学総合
							I	代数
							J	解析
							K	確率統計
							M	情報学総合
							N	機械工学総合
							O	電気工学総合
							P	経営システム総合
							S	インターンシップ
							E	電気電子工学科
B	制御工学							
C	電力工学							
D	通信工学							
E	電気電子工学総合							
F	物理学総合							
G	数学総合							
H	代数							
I	解析							
K	微分方程式							
L	化学総合							
M	機械工学総合							
O	経営システム総合							
P	工業総合							
Q	インターンシップ							
R	モデル化技術							
S	分析技術							
T	情報学基礎							
U	メカトロニクス							
V	人間情報学							
W	情報テクノロジー総合							
X	材料力学							
Y	計測工学							
O	物理科学総合							

桁数	1		2		3		4	
内容	学部等		学科等		教育課程上の区分(大)		教育課程上の区分(小)	
コード ・ 意味	S	理工学部	M	機械創造工 学科	A	学科科目	A	力学
					B	選択科目	B	流体力学
							C	材料力学
							D	設計工学
							E	熱力学
							F	機械加工
							G	機械力学
							H	計測工学
							I	制御工学
							J	生産工学
							K	機械工学総合
							L	情報学総合
							M	物理学総合
							N	数学総合
							O	代数
					P	解析		
					R	微分方程式		
					S	化学総合		
					V	インターンシップ		
					W	分析技術		
					X	メカトロニクス		
					Y	最適化技術		
					Z	情報学基礎		
					0	情報テクノロジー総合		
					1	計算基盤		
					2	モデル化技術		
					3	経営システム工学総合		
					4	電子工学		
					5	電気電子工学総合		
					6	電力工学		
		7	人間情報学					
		8	工業総合					
		S	経営システム 工学科	A	数学・共通科目	A	分析技術	
				B	専門実習	B	モデル化技術	
				C	専門実験	C	最適化技術	
				D	専門実験・実習・ 演習(その他)	D	経営システム工学総合	
				E	輪講・卒業研究	E	情報学総合	
				F	第1科目群◎	F	物理学総合	
				G	第1科目群△	G	数学総合	
				H	第1科目群▲	H	代数	
				I	第2科目群▽	I	解析	
				J	第2科目群▼	J	微分方程式	
				K	選択科目	K	化学総合	
						M	機械工学総合	
						O	インターンシップ	
						P	力学	
						Q	情報学基礎	
				R	材料力学			
				S	熱力学			
				T	機械力学			
				U	流体力学			
				W	情報テクノロジー総合			
				Y	計算基盤			
				Z	メカトロニクス			
				0	人間情報学			
				1	電気電子工学総合			
				2	電子工学			
				3	計測工学			
				4	機械加工			

桁数	1		2		3		4	
内容	学部等		学科等		教育課程上の区分(大)		教育課程上の区分(小)	
コード ・ 意味	S	理工学部	I	情報テクノロジー学科	A	数学・共通科目	A	情報学基礎
							B	計算基盤
						専門実験・実習・演習	C	人間情報学
						輪講・卒業研究	D	図形科学
						第1科目群	E	メカトロニクス
						第2科目群	F	情報テクノロジー総合
						選択科目	H	機械工学総合
							I	経営システム総合
							J	物理学総合
							K	数学総合
							P	化学総合
							Q	インターンシップ
							S	力学
							T	最適化技術
							U	電気電子工学総合
							V	機械力学
							W	材料力学
							X	熱力学
							Y	流体力学
							Z	分析技術
							1	モデル化技術
							2	制御工学
							4	計測工学
							5	電子工学
							6	機械加工
							7	経営システム工学総合
	I	国際政治経済学部	P	国際政治学科 政治外交・安全保障コース	A	A群科目	Z	演習
B							B群科目	
C							C群科目	
							P	政治学
							I	国際関係
							J	国内関係
			R	地域関係				
			X	その他				
			E	国際経済関連				
			C	国際コミュニケーション関連				
			G	Global Studies Program				
			F	外国書講読				
	E	国際経済学科 国際経済政策コース	A	A群科目	Z	演習		
B					B群科目			
C					C群科目			
					T	経済(理論分析)		
					S	経済(データ分析)		
					O	応用経済		
	D	開発経済						
	B	ビジネス・ファイナンス						
	R	地域関係						
	X	その他						
	P	国際政治関連						
	C	国際コミュニケーション関連						
	G	Global Studies Program						
	F	外国書講読						
	B	国際経済学科 国際ビジネスコース	A	A群科目	Z	演習		
B					B群科目			
C					C群科目			
					C	コミュニケーション		
					A	文化		
					L	言語		
	M	方法論						
	R	地域関係						
	X	その他						
	P	国際政治関連						
	E	国際経済関連						
	G	Global Studies Program						
	F	外国書講読						
	C	国際コミュニケーション学科 国際コミュニケーションコース	A	A群科目	Z	演習		
B					B群科目			
C					C群科目			
					C	コミュニケーション		
					A	文化		
					L	言語		
	M	方法論						
	R	地域関係						
	X	その他						
	P	国際政治関連						
	E	国際経済関連						
	G	Global Studies Program						
	F	外国書講読						

桁数	1		2		3		4	
内容	学部等		学科等		教育課程上の区分(大)		教育課程上の区分(小)	
コード ・ 意味	I	国際政治経済学部	L	外国語	A	A群科目	E	Reading/Writing Skills based classes
					B	B群科目	F	フランス語
					C	C群科目	D	ドイツ語
							S	スペイン語
							C	中国語
			R	ロシア語				
			K	韓国語				
			J	日本語				
			E	English for Juniors and Seniors				
		C	総合文化政策学部	C	総合文化政策学科	A	専門基礎科目	A
B	政策・マネジメント科目群					B	メディア文化	
C	文化・思想科目群					C	都市文化	
D	メディア文化分野					D	アートマネジメント	
E	都市・国際文化分野					E	経済学・経済理論	
F	アート・デザイン分野					F	経済政策	
G	演習科目					G	経済史	
						H	社会学	
						I	人文社会総合	
						J	経営学	
		K	会計学					
		L	商学					
		M	法学総合					
		N	政治学					
		O	国際関係論					
		P	地域研究					
		Q	博物館学					
		R	芸術一般					
		S	哲学・倫理学					
		T	思想史					
		U	宗教学					
		V	情報学総合					
		W	文化人類学					
		X	美学・芸術諸学					
		Y	美術史					
		Z	デザイン学					
	L	外国語	A	第一外国語	E	英語		

桁数	1		2		3		4	
内容	学部等		学科等		教育課程上の区分(大)		教育課程上の区分(小)	
コード ・ 意味	R	社会情報学部	R	社会情報学科	A	フルリエゾン科目	A	社会情報総合
					B	基礎科目	B	統計科学
					C	基礎科目(数理系)	C	数学総合
					D	演習科目	D	経済学総合
					E	リエゾンA(社会・情報)科目	E	社会学
					F	リエゾンB(社会・人間)科目	F	政治学
					G	リエゾンC(人間・情報)科目	G	理論経済学
					H	エリア(社会)科目	H	経済政策
					I	エリア(情報)科目	I	財政・公共経済
					J	エリア(人間)科目	J	経済統計
					K	専門自由科目	K	金融・ファイナンス
					L	外国語	E	英語
	W	地球社会共生学部	W	地球社会共生学科	A	英語基礎科目	J	日本語
					B	英語展開科目	A	StudySkill
					A	StudySkill	A	Fundamental
					B	Fundamental	A	メディア／空間情報
					C	Introductory	B	ソシオロジー
					D	Basic	C	コラボレーション
					E	Advanced	D	ビジネス
					F	Capstone	A	Capstone
					G	Japan Studies	A	Geography
							B	History
							C	Culture
							D	Economy, Business, and Policy
L	外国語	A	英語					
		B	タイ語					

年度	学部等	学科等	コード(1・2桁目)
2018	青山スタンダード	青山スタンダード科目	GG

教育課程上の区分		配置年次						
大区分(卒業要件)	小区分(学修内容)	1年		2年		3年		
A	A キリスト教概論	AA101	キリスト教概論 I	AA201	キリスト教概論 II		AA301	キリスト教概論 II
	B キリスト教理解			AB201 旧約聖書と人間 AB211 キリスト教生命倫理 AB221 キリスト教音楽 AB231 メソジスト教会史 AB241 世界の諸宗教 AB251 聖書の中の女性たち(旧約)	AB202 新約聖書と人間 AB212 キリスト教政治倫理 AB222 キリスト教美術	AB213 キリスト教と自然科学	AB214 キリスト教環境倫理	
	C キリスト教実習			AC201 サービス・ラーニング I AC211 海外語学・キリスト教文化理解	AC202 サービス・ラーニング II			
B	A 人文科学総合	BA101	自己理解	BB201 哲学A BB205 哲学の諸問題C BB211 論理学A BB221 論理学A BB231 西洋倫理思想史A	BB202 哲学B BB206 哲学の諸問題D BB212 論理学B BB222 論理学B BB232 西洋倫理思想史B	BB203 哲学の諸問題A	BB204 哲学の諸問題B	
	B 哲学					BB213 論理学の諸問題A BB223 論理学の諸問題A	BB214 論理学の諸問題B BB224 論理学の諸問題B	
	C 言語学			BC201 言語学A	BC202 言語学B	BC203 日本語学A	BC204 日本語学B	
	D 文学			BD201 文学A	BD202 文学B	BD203 文学史A	BD204 文学史B	
	E 芸術学			BE201 美術A BE211 音楽A	BE202 美術B BE212 音楽B	BE203 美術史A BE213 音楽史A	BE204 美術史B BE214 音楽史B	
	F 文化人類学			BF201 文化人類学A BF211 比較文化A	BF202 文化人類学B BF212 比較文化B	BF213 比較文化の諸問題A	BF214 比較文化の諸問題B	
	G 教育学			BG201 教育学A	BG202 教育学B			
	H 心理学			BH201 心理学A	BH202 心理学B			
	I 平和学			BI201 平和を考えるA	BI202 平和を考えるB			
	J コミュニケーション			BJ201 人間関係とコミュニケーション 文化とコミュニケーションA	BJ202 人間関係とコミュニケーション 文化とコミュニケーションB			
C	A 社会科学総合	CA101	現代社会の諸問題	CB201 法学(日本国憲法を含む)A CB211 日本の法と社会A CC201 国際政治経済学A CC211 国際関係概論A	CB202 法学(日本国憲法を含む)B CB212 日本の法と社会B CC202 国際政治経済学B CC212 国際関係概論B			
	B 法学							
	C 国際関係論							
	D 社会学			CD201 社会学A CD211 現代社会と教育人間学A CD221 人口問題A CD231 フェミニズムA CD241 民族問題A CD251 マスメディアと社会 CD261 福祉と人間A CD271 日本の農業・農村とビジネス	CD202 社会学B CD212 現代社会と教育人間学B CD222 人口問題B CD232 フェミニズムB CD242 民族問題B CD252 環境問題と社会 CD262 福祉と人間B			
	E 経済学			CE201 経済学A CE211 金融と生活設計	CE202 経済学B			
	F 人文社会情報学			CF201 情報社会論 CF211 情報社会科学A CF221 データサイエンス	CF202 社会と情報 CF212 情報社会科学B			
	A 自然科学総合	DA101	科学・技術の視点	DA201 自然科学概論A DA211 文化としての科学・技術A DB201 技術史A DB211 科学史 DB221 自然史	DA202 自然科学概論B DA212 文化としての科学・技術B DB202 技術史B DB222 自然史の変遷			
	B 科学技術史・科学(技術)論							

年度	学部等	学科等	コード(1・2桁目)
2018	青山スタンダード	青山スタンダード科目	GG

教育課程上の区分		配置年次							
大区分(卒業要件)	小区分(学修内容)	1年		2年		3年			
D	C 数理学			DC201 日常生活の数理 DC205 数理モデル DD201 生活と先端テクノロジー DD211 宇宙科学	DC202 数理学入門 I	DC203 数理学入門 II	DC204 数理学の視点		
	D 物理学			DE201 ライフサイエンス DE205 生命の連続(遺伝) DE211 野鳥の生態	DE202 ゲノム	DE203 バイオテクノロジーと生命倫理	DE204 生命と生態系(環境と生物)		
	E 生命科学			DF201 先端エレクトロニクス DG201 生物と地球環境 DG211 環境科学A DG221 自然地理学A DG231 かたちの科学	DF202 メカの世界 DG202 地球環境保全 DG212 環境科学B DG222 自然地理学B	DG203 生命と地球の歴史			
	F 工学								
	G 地球・環境科学								
	A 史学総合	EA101	歴史と人間	EB201 青山学院大学の歴史 EC201 現代史A ED201 日本社会史A EE201 中国史A EF201 ヨーロッパ史A EG201 考古学A EH201 科学思想史A	EC202 現代史B ED202 日本社会史B EE202 中国史B EF202 ヨーロッパ史B EG202 考古学B	EC203 現代史C ED203 日本社会史C EF203 ヨーロッパ史C	EC204 現代史D		
	B 自校史								
C 現代史									
D 日本史									
E アジア史									
F ヨーロッパ史									
G 考古学									
H 思想史									
F	E 英語	FE101	英語スキル I-1	FE102 英語スキル I-2	FE201 English Studies A FA201 アメリカ合衆国の社会と文化A FA205 英語圏の社会と文化B FA211 フランス語圏の社会と文化A FA221 ドイツ語圏の社会と文化A FA231 スペイン語圏の社会と文化A FA241 中国語圏の社会と文化A FA251 韓国・朝鮮の社会と文化A FA261 ロシア語圏の社会と文化A FA271 イスラム圏の社会と文化A FA281 都市と文化A FA291 民族文化論A FB201 ことばの研究A FC201 日本語A	FE202 English Studies B FA202 アメリカ合衆国の社会と文化B FA212 フランス語圏の社会と文化B FA222 ドイツ語圏の社会と文化B FA232 スペイン語圏の社会と文化B FA242 中国語圏の社会と文化B FA252 韓国・朝鮮の社会と文化B FA262 ロシア語圏の社会と文化B FA272 イスラム圏の社会と文化B FA282 都市と文化B FA292 民族文化論B FB202 ことばの研究B FC202 日本語B	FE203 English Studies C FA203 アメリカ合衆国の社会と文化C FA213 フランス語圏の社会と文化C FA223 ドイツ語圏の社会と文化C FA233 スペイン語圏の社会と文化C FA243 中国語圏の社会と文化C	FE204 English Studies E FA204 英語圏の社会と文化A	
	A 地域研究								
	B 言語学								
	C 日本学								
	A 健康・スポーツ演習	GA101	健康・スポーツ演習	GB201 健康医学 GB211 医療社会学 GC201 スポーツ生理学 GD201 スポーツ運動実習	GC202 スポーツバイオメカニクス GD202 アドバンススポーツ実習	GC203 スポーツ心理学	GC204 動きの人間学		
	B 健康科学								
	C スポーツ科学								
	D 運動実習								
	A 情報学総合	HA101	情報スキル I	HA201 情報スキル II HA211 ウェブプログラミング HA221 コンピュータと社会	HA212 コンピュータプログラミング HA222 データ分析入門				
	I	A 職業観・勤労観の育成	IA201	キャリアデザイン基礎	IB201 海外語学・文化研修 I IB202 国際ビジネス入門A IC211 感性ビジネスA IC221 営業学入門	IB202 国際ビジネス入門B IC212 感性ビジネスB	IB203 世界遺産入門 IC203 感性ビジネスA	IB204 インターンシップ I IC204 感性ビジネスB	IB301 海外語学・文化研修 II IB303 インターンシップ II IC301 現代金融の諸問題 IC311 パートタイムインターンシップ入門
B 汎用能力の育成									
C 実践能力の育成									
D 職業選択力									
E 仕事力									
O	A 初年次教育	OA101	フレッシュマン・セミナー	OA111 ウェルカム・レクチャー OA121 キャリアデザイン・セミナー				ID301 国際ビジネスと海外事情A ID311 感性ビジネスC IE301 キャリアデザイン応用	ID302 国際ビジネスと海外事情B ID312 感性ビジネスD IE302 仕事力基礎論

年度 2018	学部等 青山スタンダード	学科等 青山スタンダード科目(言語の技能 第二外国語)	コード QL
------------	-----------------	--------------------------------	-----------

教育課程上の区分		配置年次																					
大区分(卒業要件)	小区分(学修内容)	1年				2年				3年													
F 言葉の技能(フランス語)	F フランス語	FF101 フランス語 I (A)-1	FF102 フランス語 I (A)-2	FF201 フランス語 II (A)-1	FF202 フランス語 II (A)-2	FF203 フランス語 II (B)-1	FF204 フランス語 II (B)-2	FF301 フランス語 III (A)-1	FF302 フランス語 III (A)-2	FF103 フランス語 I (B)-1	FF104 フランス語 I (B)-2	FF205 フランス語 II (C)-1	FF206 フランス語 II (C)-2	FF211 フランス語 II (C)-1	FF212 フランス語 II (C)-2	FF223 フランス語 II (C)-1	FF224 フランス語 II (C)-2	FF303 フランス語 III (B)-1	FF304 フランス語 III (B)-2	FF311 フランス語 III (B)-1	FF312 フランス語 III (B)-2		
		GG101 ドイツ語 I (A)-1	GG102 ドイツ語 I (A)-2	GG201 ドイツ語 II (A)-1	GG202 ドイツ語 II (A)-2	GG203 ドイツ語 II (B)-1	GG204 ドイツ語 II (B)-2	GG301 ドイツ語 III-1	GG302 ドイツ語 III-2	GG103 ドイツ語 I (B)-1	GG104 ドイツ語 I (B)-2	GG205 ドイツ語 II (C)-1	GG206 ドイツ語 II (C)-2	GG211 ドイツ語 II (C)-1	GG212 ドイツ語 II (C)-2	GG221 ドイツ語 II (C)-1	GG222 ドイツ語 II (C)-2	GG223 ドイツ語 II (C)-1	GG224 ドイツ語 II (C)-2	GG225 ドイツ語 II (C)-1	GG226 ドイツ語 II (C)-2	GG227 ドイツ語 II (C)-1	GG228 ドイツ語 II (C)-2
		SS101 スペイン語 I (A)-1	SS102 スペイン語 I (A)-2	SS201 スペイン語 II (A)-1	SS202 スペイン語 II (A)-2	SS203 スペイン語 II (B)-1	SS204 スペイン語 II (B)-2	SS301 スペイン語 III-1	SS302 スペイン語 III-2	SS103 スペイン語 I (B)-1	SS104 スペイン語 I (B)-2	SS205 スペイン語 II (C)-1	SS206 スペイン語 II (C)-2	SS211 スペイン語 II (C)-1	SS212 スペイン語 II (C)-2	SS221 スペイン語 II (C)-1	SS222 スペイン語 II (C)-2	SS223 スペイン語 II (C)-1	SS224 スペイン語 II (C)-2	SS225 スペイン語 II (C)-1	SS226 スペイン語 II (C)-2	SS227 スペイン語 II (C)-1	SS228 スペイン語 II (C)-2
		CC101 中国語 I (A)-1	CC102 中国語 I (A)-2	CC201 中国語 II (A)-1	CC202 中国語 II (A)-2	CC203 中国語 II (B)-1	CC204 中国語 II (B)-2	CC301 中国語 III-1	CC302 中国語 III-2	CC103 中国語 I (B)-1	CC104 中国語 I (B)-2	CC205 中国語 II (C)-1	CC206 中国語 II (C)-2	CC211 中国語 II (C)-1	CC212 中国語 II (C)-2	CC221 中国語 II (C)-1	CC222 中国語 II (C)-2	CC223 中国語 II (C)-1	CC224 中国語 II (C)-2	CC225 中国語 II (C)-1	CC226 中国語 II (C)-2	CC227 中国語 II (C)-1	CC228 中国語 II (C)-2
R 言葉の技能(ロシア語)	R ロシア語	RR101 ロシア語 I (A)-1	RR102 ロシア語 I (A)-2	RR201 ロシア語 II-1	RR202 ロシア語 II-2	RR203 ロシア語 II (B)-1	RR204 ロシア語 II (B)-2	RR301 ロシア語 III-1	RR302 ロシア語 III-2	RR103 ロシア語 I (B)-1	RR104 ロシア語 I (B)-2	RR205 ロシア語 II (C)-1	RR206 ロシア語 II (C)-2	RR211 ロシア語 II (C)-1	RR212 ロシア語 II (C)-2	RR221 ロシア語 II (C)-1	RR222 ロシア語 II (C)-2	RR223 ロシア語 II (C)-1	RR224 ロシア語 II (C)-2	RR225 ロシア語 II (C)-1	RR226 ロシア語 II (C)-2	RR227 ロシア語 II (C)-1	RR228 ロシア語 II (C)-2
		KK101 韓国語 I (A)-1	KK102 韓国語 I (A)-2	KK201 韓国語 II-1	KK202 韓国語 II-2	KK203 韓国語 II (B)-1	KK204 韓国語 II (B)-2	KK301 韓国語 III-1	KK302 韓国語 III-2	KK103 韓国語 I (B)-1	KK104 韓国語 I (B)-2	KK205 韓国語 II (C)-1	KK206 韓国語 II (C)-2	KK211 韓国語 II (C)-1	KK212 韓国語 II (C)-2	KK221 韓国語 II (C)-1	KK222 韓国語 II (C)-2	KK223 韓国語 II (C)-1	KK224 韓国語 II (C)-2	KK225 韓国語 II (C)-1	KK226 韓国語 II (C)-2	KK227 韓国語 II (C)-1	KK228 韓国語 II (C)-2
		EE101 英語 I-1	EE102 英語 I-2	EE201 英語 II-1	EE202 英語 II-2	EE203 英語 II (B)-1	EE204 英語 II (B)-2	EE301 英語 III-1	EE302 英語 III-2	IE101 英語 I (A)-1	IE102 英語 I (A)-2	IE103 英語 I (B)-1	IE104 英語 I (B)-2	IE201 英語 II (A)-1	IE202 英語 II (A)-2	IE203 英語 II (B)-1	IE204 英語 II (B)-2	IE301 英語 III-1	IE302 英語 III-2	IE303 英語 III-1	IE304 英語 III-2		
		JJ101 日本語 I (A)-1	JJ102 日本語 I (A)-2	JJ201 日本語 II-1	JJ202 日本語 II-2	JJ301 日本語 III-1	JJ302 日本語 III-2	JJ103 日本語 I (B)-1	JJ104 日本語 I (B)-2														

年度 2018	学部等 文学部	学科等 英米文学科	コード LL
------------	------------	--------------	-----------

教育課程上の区分		配置年次																			
大区分(卒業要件)	小区分(学修内容)	1年				2年				3年				4年							
A イギリス文学・文化	A イギリス文学・文化	AA101 イギリス文学史 I	AA102 イギリス文学史 II	AA301 イギリス文学特講 I (1)	AA302 イギリス文学特講 II (1)	AA401 特別演習	AA402 特別演習(卒業論文)	AA103 イギリス文学概論 I	AA104 イギリス文学概論 II	AA303 イギリス文学特講 I (2)	AA304 イギリス文学特講 II (2)			AA111 イギリス文化概論 I	AA112 イギリス文化概論 II	AA305 イギリス文学特講 I (3)	AA306 イギリス文学特講 II (3)				
		BA101 アメリカ文学史 I	BA102 アメリカ文学史 II	BA301 アメリカ文学特講 I (1)	BA302 アメリカ文学特講 II (1)	BA401 特別演習	BA402 特別演習(卒業論文)	BA103 アメリカ文学概論 I	BA104 アメリカ文学概論 II	BA303 アメリカ文学特講 I (2)	BA304 アメリカ文学特講 II (2)			BA111 アメリカ文化概論 I	BA112 アメリカ文化概論 II	BA305 アメリカ文学特講 I (3)	BA306 アメリカ文学特講 II (3)				
		CA101 グローバル文学・文化概論 I	CA102 グローバル文学・文化概論 II	CA301 グローバル文学特講 I (1)	CA302 グローバル文学特講 II (1)	CA401 特別演習	CA402 特別演習(卒業論文)	CA103 グローバル文学論 I	CA104 グローバル文学論 II	CA303 グローバル文学特講 I (2)	CA304 グローバル文学特講 II (2)			CA311 グローバル文化特講 I	CA312 グローバル文化特講 II	CA305 グローバル文学特講 I (3)	CA306 グローバル文学特講 II (3)				
		DA101 英語音声学(講義)	DA102 英語音声学(演習)	DA301 英語学特講 I (1)	DA302 英語学特講 II (1)	DA401 特別演習	DA402 特別演習(卒業論文)	DA103 英語学概論 I	DA104 英語学概論 II	DA303 英語学特講 I (2)	DA304 英語学特講 II (2)			DA105 英語史 I	DA106 英語史 II	DA305 英語学特講 I (3)	DA306 英語学特講 II (3)				
D 英語学	A 英語学	DA107 英文法 I	DA108 英文法 II	DA307 英語学特講 I (4)	DA308 英語学特講 II (4)			DA109 英語学特講 I (5)	DA110 英語学特講 II (5)	DA307 英語学特講 I (4)	DA308 英語学特講 II (4)			DA309 英語学特講 I (5)	DA310 英語学特講 II (5)			DA309 英語学特講 I (5)	DA310 英語学特講 II (5)		
		DA309 英語学特講 I (5)	DA310 英語学特講 II (5)	DA311 英語学特講 I (6)	DA312 英語学特講 II (6)			DA311 英語学特講 I (6)	DA312 英語学特講 II (6)	DA311 英語学特講 I (6)	DA312 英語学特講 II (6)			DA313 英語学特講 I (7)	DA314 英語学特講 II (7)			DA313 英語学特講 I (7)	DA314 英語学特講 II (7)		
		DA311 英語学特講 I (6)	DA312 英語学特講 II (6)	DA313 英語学特講 I (7)	DA314 英語学特講 II (7)			DA313 英語学特講 I (7)	DA314 英語学特講 II (7)	DA313 英語学特講 I (7)	DA314 英語学特講 II (7)			DA315 英語学特講 I (8)	DA316 英語学特講 II (8)			DA315 英語学特講 I (8)	DA316 英語学特講 II (8)		
		DA313 英語学特講 I (7)	DA314 英語学特講 II (7)	DA315 英語学特講 I (8)	DA316 英語学特講 II (8)			DA315 英語学特講 I (8)	DA316 英語学特講 II (8)	DA315 英語学特講 I (8)	DA316 英語学特講 II (8)										

年度 2018	学部等 文学部	学科等 英米文学科	コード LL
------------	------------	--------------	-----------

教育課程上の区分		配置年次							
大区分(卒業要件)	小区分(学修内容)	1年		2年		3年		4年	
E	コミュニケーション	EA101 コミュニケーション概論Ⅰ	EA102 コミュニケーション概論Ⅱ			EA301 コミュニケーション特講Ⅰ(1)	EA302 コミュニケーション特講Ⅰ(2)	EA401 特別演習	EA402 特別演習(卒業論文)
		EA103 英文化圏コミュニケーション概論Ⅰ	EA104 英文化圏コミュニケーション概論Ⅱ			EA303 コミュニケーション特講Ⅰ(3)	EA304 コミュニケーション特講Ⅰ(4)		
						EA305 コミュニケーション特講Ⅰ(5)	EA306 コミュニケーション特講Ⅰ(6)		
						EA307 コミュニケーション特講Ⅰ(7)	EA308 コミュニケーション特講Ⅰ(8)		
						EA309 コミュニケーション特講Ⅰ(9)	EA310 コミュニケーション特講Ⅰ(10)		
						EA311 コミュニケーション演習Ⅰ(1)	EA312 コミュニケーション演習Ⅰ(2)		
						EA313 コミュニケーション演習Ⅰ(3)	EA314 コミュニケーション演習Ⅰ(4)		
						EA315 コミュニケーション演習Ⅰ(5)	EA316 コミュニケーション演習Ⅰ(6)		
						EA317 コミュニケーション演習Ⅰ(7)	EA318 コミュニケーション演習Ⅰ(8)		
						EA319 コミュニケーション演習Ⅰ(9)	EA320 コミュニケーション演習Ⅰ(10)		
						EA321 コミュニケーション演習Ⅱ(1)	EA322 コミュニケーション演習Ⅱ(2)		
						EA323 コミュニケーション演習Ⅱ(3)	EA324 コミュニケーション演習Ⅱ(4)		
						EA325 コミュニケーション演習Ⅱ(5)	EA326 コミュニケーション演習Ⅱ(6)		
						EA327 コミュニケーション演習Ⅱ(7)	EA328 コミュニケーション演習Ⅱ(8)		
						EA329 コミュニケーション演習Ⅱ(9)	EA330 コミュニケーション演習Ⅱ(10)		
F	英語教育学	FA101 英語教育学概論Ⅰ	FA102 英語教育学概論Ⅱ			FA301 英語教育学特講Ⅰ(1)	FA302 英語教育学特講Ⅰ(2)	FA401 特別演習	FA402 特別演習(卒業論文)
						FA303 英語教育学特講Ⅰ(3)	FA304 英語教育学特講Ⅰ(4)		
						FA305 英語教育学特講Ⅰ(5)	FA306 英語教育学特講Ⅰ(6)		
						FA307 英語教育学特講Ⅰ(7)	FA308 英語教育学特講Ⅰ(8)		
						FA309 英語教育学特講Ⅰ(9)	FA310 英語教育学特講Ⅰ(10)		
						FA311 英語教育学演習Ⅰ(1)	FA312 英語教育学演習Ⅰ(2)		
						FA313 英語教育学演習Ⅰ(3)	FA314 英語教育学演習Ⅰ(4)		
						FA315 英語教育学演習Ⅰ(5)	FA316 英語教育学演習Ⅰ(6)		
						FA317 英語教育学演習Ⅰ(7)	FA318 英語教育学演習Ⅰ(8)		
						FA319 英語教育学演習Ⅰ(9)	FA320 英語教育学演習Ⅰ(10)		
						FA321 英語科教育法Ⅰ	FA322 英語科教育法Ⅱ		
						FA323 eラーニングイギリス語			
G	専門科目(英語)			GA201 基礎演習Ⅰ	GA202 基礎演習Ⅱ				
				GB201 スピーチコミュニケーションⅠ(1)	GB202 スピーチコミュニケーションⅠ(2)				
				GB203 スピーチコミュニケーションⅠ(3)	GB204 スピーチコミュニケーションⅠ(4)				
				GB205 スピーチコミュニケーションⅠ(5)	GB206 スピーチコミュニケーションⅠ(6)				
				GB111 専門学校インターナショナルⅠ	GB112 専門学校インターナショナルⅡ				
				GB113 パフォーマンススタディⅠ	GB114 パフォーマンススタディⅡ				
				GB115 パフォーマンススタディⅢ	GB116 パフォーマンススタディⅣ				
				GB221 クリエイティブライティングⅠ	GB222 クリエイティブライティングⅡ	GB321 アフタースクールアクティビティⅠ	GB322 アフタースクールアクティビティⅡ		
				GB223 ジャーナリズムライティングⅠ	GB224 ジャーナリズムライティングⅡ				
				GB241 ビジネスイングリッシュⅠ(1)	GB242 ビジネスイングリッシュⅠ(2)	GB331 リスニングコンプレッヘンション			
				GB243 ビジネスイングリッシュⅠ(3)	GB244 ビジネスイングリッシュⅠ(4)				
				GB245 ビジネスイングリッシュⅠ(5)					
				GB251 メディアイングリッシュⅠ(1)	GB252 メディアイングリッシュⅠ(2)				
				GB253 メディアイングリッシュⅠ(3)	GB254 メディアイングリッシュⅠ(4)				
				GC101 翻訳Ⅰ(1)	GC102 翻訳Ⅰ(2)	GC301 翻訳Ⅱ(1)	GC302 翻訳Ⅱ(2)		
				GC303 翻訳Ⅱ(3)	GC304 翻訳Ⅱ(4)				
				GC305 翻訳Ⅱ(5)	GC306 翻訳Ⅱ(6)				
				GC311 通訳Ⅰ(1)	GC312 通訳Ⅰ(2)				
				GC313 通訳Ⅰ(3)	GC314 通訳Ⅰ(4)				
				GC315 通訳Ⅰ(5)	GC316 通訳Ⅰ(6)				
L	英語	LE101 ReadingⅠ	LE112 Integrated EnglishⅡ	LE201 ReadingⅡ	LE212 Academic Skills				
		LE111 Integrated EnglishⅠ	LE114 IE Seminar A	LE211 Academic Writing					
		LE113 Integrated EnglishⅢ							
		LE115 IE Seminar B							
J	日本語科目	JJ101 日本語Ⅰ(A)ー1	JJ102 日本語Ⅰ(A)ー2	JJ201 日本語Ⅱー1	JJ202 日本語Ⅱー2	JJ301 日本語Ⅲー1	JJ302 日本語Ⅲー2		
		JJ103 日本語Ⅰ(B)ー1	JJ104 日本語Ⅰ(B)ー2						

年度 2018	学部等 文学部	学科等 フランス文学科	コード LF
------------	------------	----------------	-----------

教育課程上の区分		配置年次							
大区分(卒業要件)	小区分(学修内容)	1年		2年		3年		4年	
A	フランス語	AA101 フランス語文法Ⅰ	AA102 フランス語文法Ⅱ	AA201 フランス語精読Ⅰ	AA202 フランス語精読Ⅱ	AA301 講義演習Ⅰ(1)	AA302 講義演習Ⅰ(2)		
		AA103 フランス語文法演習Ⅰ	AA104 フランス語文法演習Ⅱ	AA203 フランス語速読Ⅰ	AA204 フランス語速読Ⅱ	AA303 講義演習Ⅰ(3)	AA304 講義演習Ⅰ(4)		
		AA111 フランス語講義Ⅰ	AA112 フランス語講義Ⅱ	AA211 エクスプレシオン・オラルⅠ	AA212 エクスプレシオン・オラルⅡ	AA305 講義演習Ⅰ(5)	AA306 講義演習Ⅰ(6)		
		AA121 フランス語会話Ⅰ	AA122 フランス語会話Ⅱ	AA213 エクスプレシオン・オラルⅢ	AA214 エクスプレシオン・オラルⅣ	AA307 講義演習Ⅰ(7)	AA308 講義演習Ⅰ(8)		
				AA215 フランス語中級文法Ⅰ	AA222 フランス語中級文法Ⅱ	AA309 講義演習Ⅰ(9)	AA310 講義演習Ⅰ(10)		
				AA223 フランス語作文Ⅰ	AA224 フランス語作文Ⅱ	AA311 講義演習Ⅰ(11)	AA312 講義演習Ⅰ(12)		
						AA321 エクスプレシオンⅠ(A)	AA322 エクスプレシオンⅠ(B)		
						AA323 エクスプレシオンⅡ(A)	AA324 エクスプレシオンⅡ(B)		
						AA331 コミュニケーションⅠ	AA332 コミュニケーションⅡ		
						AA333 コミュニケーションⅢ	AA334 コミュニケーションⅣ		
						AA341 エクスプレシオン・エクリットⅠ	AA342 エクスプレシオン・エクリットⅡ		
						AA343 エクスプレシオン・エクリットⅢ	AA344 エクスプレシオン・エクリットⅣ		
		B	フランス文学			BA201 フランス文学概説Ⅰ	BA202 フランス文学概説Ⅱ	BA301 フランス文学研究Ⅰ	BA302 フランス文学研究Ⅱ
				BA211 フランス文学特講Ⅰ(1)	BA212 フランス文学特講Ⅰ(2)	BA311 フランス文学演習Ⅰ(1)	BA312 フランス文学演習Ⅰ(2)		
				BA213 フランス文学特講Ⅰ(3)	BA214 フランス文学特講Ⅰ(4)	BA313 フランス文学演習Ⅰ(3)	BA314 フランス文学演習Ⅰ(4)		
				BA215 フランス文学特講Ⅰ(5)	BA216 フランス文学特講Ⅰ(6)	BA315 フランス文学演習Ⅰ(5)	BA316 フランス文学演習Ⅰ(6)		
				BA217 フランス文学特講Ⅰ(7)	BA218 フランス文学特講Ⅰ(8)	BA317 フランス文学演習Ⅰ(7)	BA318 フランス文学演習Ⅰ(8)		
				BA219 フランス文学特講Ⅰ(9)	BA220 フランス文学特講Ⅰ(10)	BA319 フランス文学演習Ⅰ(9)	BA320 フランス文学演習Ⅰ(10)		
				BA221 フランス文学特講Ⅱ(1)	BA222 フランス文学特講Ⅱ(2)	BA321 フランス文学演習Ⅱ(1)	BA322 フランス文学演習Ⅱ(2)		
				BA223 フランス文学特講Ⅱ(3)	BA224 フランス文学特講Ⅱ(4)	BA323 フランス文学演習Ⅱ(3)	BA324 フランス文学演習Ⅱ(4)		
				BA231 フランス文学演習Ⅰ(1)	BA232 フランス文学演習Ⅰ(2)	BA325 フランス文学演習Ⅱ(5)	BA326 フランス文学演習Ⅱ(6)		
				BA233 フランス文学演習Ⅰ(3)	BA234 フランス文学演習Ⅰ(4)	BA327 フランス文学演習Ⅱ(7)	BA328 フランス文学演習Ⅱ(8)		
				BA235 フランス文学演習Ⅰ(5)	BA236 フランス文学演習Ⅰ(6)	BA329 フランス文学演習Ⅱ(9)	BA330 フランス文学演習Ⅱ(10)		
				BA237 フランス文学演習Ⅰ(7)	BA238 フランス文学演習Ⅰ(8)				
				BA239 フランス文学演習Ⅰ(9)	BA240 フランス文学演習Ⅰ(10)				
				BA241 フランス文学演習Ⅱ(1)	BA242 フランス文学演習Ⅱ(2)				
C	フランス語学			CA211 フランス語学特講Ⅰ(1)	CA212 フランス語学特講Ⅰ(2)	CA301 フランス語学研究Ⅰ	CA302 フランス語学研究Ⅱ	CA401 特別演習	CA402 特別演習(卒業論文)
				CA213 フランス語学特講Ⅰ(3)	CA214 フランス語学特講Ⅰ(4)	CA311 フランス語学演習Ⅰ(1)	CA312 フランス語学演習Ⅰ(2)		
				CA215 フランス語学特講Ⅰ(5)	CA216 フランス語学特講Ⅰ(6)	CA313 フランス語学演習Ⅰ(3)	CA314 フランス語学演習Ⅰ(4)		
				CA217 フランス語学特講Ⅰ(7)	CA222 フランス語学特講Ⅱ(1)	CA321 フランス語学教授法Ⅰ	CA322 フランス語学教授法Ⅱ		
				CA223 フランス語学特講Ⅱ(2)	CA224 フランス語学特講Ⅱ(3)				
				CA231 フランス語学概論Ⅰ	CA232 フランス語学概論Ⅱ				
D	フランス文化	DA201 フランス文化特講Ⅰ(1)	DA202 フランス文化特講Ⅰ(2)	DA301 フランス文化研究Ⅰ	DA302 フランス文化研究Ⅱ	DA401 特別演習	DA402 特別演習(卒業論文)		
		DA203 フランス文化特講Ⅰ(3)	DA204 フランス文化特講Ⅰ(4)						
		DA211 フランス文化演習Ⅰ(1)	DA212 フランス文化演習Ⅰ(2)	DA311 フランス文化演習Ⅲ(1)	DA312 フランス文化演習Ⅲ(2)				
		DA213 フランス文化演習Ⅰ(3)	DA214 フランス文化演習Ⅰ(4)	DA313 フランス文化演習Ⅲ(3)	DA314 フランス文化演習Ⅲ(4)				
J	日本語科目	JJ101 日本語Ⅰ(A)ー1	JJ102 日本語Ⅰ(A)ー2	JJ201 日本語Ⅱー1	JJ202 日本語Ⅱー2	JJ301 日本語Ⅲー1	JJ302 日本語Ⅲー2		
		JJ103 日本語Ⅰ(B)ー1	JJ104 日本語Ⅰ(B)ー2						

年度 2018	学部等 文学部	学科等 日本文学科	コード LN
------------	------------	--------------	-----------

教育課程上の区分		配置年次							
大区分(卒業要件)	小区分(学修内容)	1年		2年		3年		4年	
A 学科共通	H 日本文学・日本語基礎科目	AH101 文学研究法Ⅰ	AH102 文学研究法Ⅱ						
	A 日本文学	AA101 日本文学史(一)	AA102 日本文学史(二)	AA201 日本文学史(三)	AA202 日本文学史(四)			AA401 特別演習	AA402 特別演習(卒業論文)
	C 日本語学							AC401 特別演習	AC402 特別演習(卒業論文)
B 概論・入門	H 日本文学・日本語基礎科目	BH101 日本語日本文学概論Ⅰ	BH102 日本語日本文学概論Ⅱ						
	A 日本文学	BA101 古典文学概論Ⅰ	BA102 古典文学概論Ⅱ						
		BA111 近代文学概論Ⅰ	BA112 近代文学概論Ⅱ						
	B 中国文学	BB101 漢文学概論Ⅰ	BB102 漢文学概論Ⅱ						
	C 日本語学	BC101 日本語学概論Ⅰ	BC102 日本語学概論Ⅱ						
		BC111 日本語史Ⅰ	BC112 日本語史Ⅱ						
		BC121 文章表現法	BC122 音声表現法						
D 日本語教育	BD101 日本語教育概論Ⅰ	BD102 日本語教育概論Ⅱ	BD201 日本語教授法Ⅰ	BD202 日本語教授法Ⅱ					
E 表象文化論	BE101 表象文化研究概論Ⅰ	BE102 表象文化研究概論Ⅱ							
F 文学交流	BF101 日本文学入門	BF102 文学交流入門							
	BF103 日本文化文学入門A	BF104 日本文化文学入門B							
C 演習	A 日本文学			CA201 日本文学演習Ⅰ[1]	CA202 日本文学演習Ⅱ[1]				
				CA205 日本文学演習Ⅰ[2]	CA206 日本文学演習Ⅱ[2]				
				CA209 日本文学演習Ⅰ[3]	CA210 日本文学演習Ⅱ[3]				
				CA213 日本文学演習Ⅰ[4]	CA214 日本文学演習Ⅱ[4]				
				CA217 日本文学演習Ⅰ[5]	CA218 日本文学演習Ⅱ[5]				
				CA221 日本文学演習Ⅰ[6]	CA222 日本文学演習Ⅱ[6]				
				CA225 日本文学演習Ⅰ[7]	CA226 日本文学演習Ⅱ[7]				
				CA229 日本文学演習Ⅰ[8]	CA230 日本文学演習Ⅱ[8]				
				CA233 日本文学演習Ⅰ[9]	CA234 日本文学演習Ⅱ[9]				
				CA237 日本文学演習Ⅰ[10]	CA238 日本文学演習Ⅱ[10]				
				CA241 日本文学演習Ⅰ[11]	CA242 日本文学演習Ⅱ[11]				
				CA245 日本文学演習Ⅰ[12]	CA246 日本文学演習Ⅱ[12]				
				CA249 日本文学演習Ⅰ[13]	CA250 日本文学演習Ⅱ[13]				
				CA253 日本文学演習Ⅰ[14]	CA254 日本文学演習Ⅱ[14]				
				CA257 日本文学演習Ⅰ[15]	CA258 日本文学演習Ⅱ[15]				
				CA261 日本文学演習Ⅰ[16]	CA262 日本文学演習Ⅱ[16]				
				CA265 日本文学演習Ⅰ[17]	CA266 日本文学演習Ⅱ[17]				
	B 中国文学		CB201 中国古典文学演習Ⅰ[1]	CB202 中国古典文学演習Ⅱ[1]					
			CB205 中国古典文学演習Ⅱ[2]	CB206 中国古典文学演習Ⅲ[2]					
			CB211 中国文学・思想演習Ⅰ	CB212 中国文学・思想演習Ⅱ					
	C 日本語学		CC201 日本語学演習Ⅰ[1]	CC202 日本語学演習Ⅱ[1]					
			CC205 日本語学演習Ⅱ[2]	CC206 日本語学演習Ⅲ[2]					
			CC209 日本語学演習Ⅲ[3]	CC210 日本語学演習Ⅳ[3]					
		CC213 日本語学演習Ⅳ[4]	CC214 日本語学演習Ⅴ[4]						
		CC217 日本語学演習Ⅴ[5]	CC218 日本語学演習Ⅵ[5]						
D 日本語教育					CD301 日本語教育演習AⅠ	CD302 日本語教育演習AⅡ	CD401 日本語教育実習Ⅰ	CD402 日本語教育実習Ⅱ	
					CD305 日本語教育演習BⅠ	CD306 日本語教育演習BⅡ			
F 文学交流			CF201 文学交流演習Ⅰ	CF202 文学交流演習Ⅱ					
			CF203 翻訳演習Ⅰ	CF204 翻訳演習Ⅱ					

年度 2018	学部等 文学部	学科等 日本文学科	コード LN
------------	------------	--------------	-----------

教育課程上の区分		配置年次								
大区分(卒業要件)	小区分(学修内容)	1年		2年		3年		4年		
D 講義	A 日本文学	DA101 日本文学講義Ⅰ[1]	DA102 日本文学講義Ⅱ[1]	DA201 日本文学特講Ⅰ[1]	DA202 日本文学特講Ⅱ[1]					
		DA103 日本文学講義Ⅰ[2]	DA104 日本文学講義Ⅱ[2]	DA203 日本文学特講Ⅰ[2]	DA204 日本文学特講Ⅱ[2]					
		DA105 日本文学講義Ⅰ[3]	DA106 日本文学講義Ⅱ[3]	DA205 日本文学特講Ⅰ[3]	DA206 日本文学特講Ⅱ[3]					
		DA107 日本文学講義Ⅰ[4]	DA108 日本文学講義Ⅱ[4]	DA207 日本文学特講Ⅰ[4]	DA208 日本文学特講Ⅱ[4]					
		DA109 日本文学講義Ⅰ[5]	DA110 日本文学講義Ⅱ[5]	DA209 日本文学特講Ⅰ[5]	DA210 日本文学特講Ⅱ[5]					
		DA111 日本文学特講A	DA112 日本文学特講B	DA211 日本文学特講Ⅰ[6]	DA212 日本文学特講Ⅱ[6]					
				DA213 日本文学特講Ⅰ[7]	DA214 日本文学特講Ⅱ[7]					
				DA215 日本文学特講Ⅰ[8]	DA216 日本文学特講Ⅱ[8]					
				DA217 日本文学特講Ⅰ[9]	DA218 日本文学特講Ⅱ[9]					
				DA219 日本文学特講Ⅰ[10]	DA220 日本文学特講Ⅱ[10]					
				DA221 日本文学特講Ⅰ[11]	DA222 日本文学特講Ⅱ[11]					
	B 中国文学		DB101 中国古典文学講義Ⅰ	DB102 中国古典文学講義Ⅱ	DB201 中国古典文学特講Ⅰ	DB202 中国古典文学特講Ⅱ				
			DB211 中国文学・思想特講Ⅰ	DB212 中国文学・思想特講Ⅱ						
		DC201 日本語学講義Ⅰ[1]	DC202 日本語学講義Ⅱ[1]	DC202 日本語学特講Ⅰ[1]	DC202 日本語学特講Ⅱ[1]	DD301 日本語教育特講Ⅰ	DD302 日本語教育特講Ⅱ			
C 日本語学		DC203 日本語学特講Ⅰ[2]	DC204 日本語学特講Ⅱ[2]							
		DC205 日本語学特講Ⅰ[3]	DC206 日本語学特講Ⅱ[3]							
		DE201 表象文化論Ⅰ[1]	DE202 表象文化論Ⅱ[1]							
E 表象文化論		DE203 表象文化論Ⅰ[2]	DE204 表象文化論Ⅱ[2]							
		DE205 表象文化論Ⅰ[3]	DE206 表象文化論Ⅱ[3]							
		DF101 日本文学研究のための英語A	DF102 日本文学研究のための英語B	DF201 日本文学とアジア	DF202 日本文学とアジア					
F 文学交流		DF203 文学交流特講A	DF204 文学交流特講B							
		DG101 書道の歴史と実技Ⅰ	DG102 書道の歴史と実技Ⅱ	DG301 書理論Ⅰ	DG302 書理論Ⅱ					
		LE101 英語講義Ⅰ	LE102 英語講義Ⅱ							
L 外国語	E 英語	LE111 英作文								
		LE121 オールラウンドイングリッシュⅠ		LE221 オールラウンドイングリッシュⅡ						
	J 日本語	LJ101 日本語初級A-1	LJ102 日本語初級A-2	LJ201 日本語中級A-1	LJ202 日本語中級A-2	LJ301 日本語上級-1	LJ302 日本語上級-2			
		LJ111 日本語初級B-1	LJ112 日本語初級B-2	LJ211 日本語中級B-1	LJ212 日本語中級B-2					
	LJ121 日本語初級C-1	LJ122 日本語初級C-2								

年度 2018	学部等 文学部	学科等 史学科	コード LH
------------	------------	------------	-----------

教育課程上の区分		配属年次									
大区分(卒業要件)	小区分(学修内容)	1年		2年		3年		4年			
A 日本史	A 日本史	AA101 日本史概説		AA201 基礎演習A AA211 日本史料講読 I A AA213 古文書学 I AA221 日本史特講(1) AA223 日本史特講(3) AA225 日本史特講(5) AA227 日本史特講(7) AA229 日本史特講(9) AA231 日本史特講(11) AA233 日本史特講(13)	AA202 基礎演習B AA212 日本史料講読 I B AA214 古文書学 II AA222 日本史特講(2) AA224 日本史特講(4) AA226 日本史特講(6) AA228 日本史特講(8) AA230 日本史特講(10) AA232 日本史特講(12)	AA301 日本史料講読 II A AA311 日本史演習A(1) AA313 日本史演習B(1) AA315 日本史演習C(1) AA317 日本史演習D(1) AA319 日本史演習E(1)	AA302 日本史料講読 II B AA312 日本史演習A(2) AA314 日本史演習B(2) AA316 日本史演習C(2) AA318 日本史演習D(2) AA320 日本史演習E(2)	AA401 特別演習	AA402 特別演習(卒業論文)		
		BA101 東洋史概説		BA201 基礎演習A BA211 史料・文献講読 I BA221 東洋史特講(1) BA223 東洋史特講(3) BA225 東洋史特講(5) BA227 東洋史特講(7) BA229 東洋史特講(9)	BA202 基礎演習B BA212 史料・文献講読 II BA222 東洋史特講(2) BA224 東洋史特講(4) BA226 東洋史特講(6) BA228 東洋史特講(8)	BA301 史料・文献講読 III BA311 東洋史演習A(1) BA313 東洋史演習B(1) BA315 東洋史演習C(1)	BA302 史料・文献講読 IV BA312 東洋史演習A(2) BA314 東洋史演習B(2) BA316 東洋史演習C(2)	BA401 特別演習	BA402 特別演習(卒業論文)		
		CA101 西洋史概説		CA201 基礎演習A CA211 史料・文献講読 I CA221 西洋史特講(1) CA223 西洋史特講(3) CA225 西洋史特講(5) CA227 西洋史特講(7) CA229 西洋史特講(9) CA231 西洋史特講(11)	CA202 基礎演習B CA212 史料・文献講読 II CA222 西洋史特講(2) CA224 西洋史特講(4) CA226 西洋史特講(6) CA228 西洋史特講(8) CA230 西洋史特講(10)	CA301 史料・文献講読 III CA311 西洋史演習A(1) CA313 西洋史演習B(1) CA315 西洋史演習C(1) CA317 西洋史演習D(1) CA319 西洋史演習E(1)	CA302 史料・文献講読 IV CA312 西洋史演習A(2) CA314 西洋史演習B(2) CA316 西洋史演習C(2) CA318 西洋史演習D(2) CA320 西洋史演習E(2)	CA401 特別演習	CA402 特別演習(卒業論文)		
		DA101 考古学概説		DA201 基礎演習A DA203 考古学実習 I A DA211 史料・文献講読 I DA221 考古学特講(1) DA223 考古学特講(3) DA225 考古学特講(5) DA227 考古学特講(7)	DA202 基礎演習B DA204 考古学実習 I B DA212 史料・文献講読 II DA222 考古学特講(2) DA224 考古学特講(4) DA226 考古学特講(6)	DA301 史料・文献講読 III DA303 考古学実習 II A DA311 考古学演習A(1) DA313 考古学演習B(1)	DA302 史料・文献講読 IV DA304 考古学実習 II B DA312 考古学演習A(2) DA314 考古学演習B(2)	DA401 特別演習	DA402 特別演習(卒業論文)		
		E 共通	A 史学総合	EA101 史学入門	EA102 史学概論						
				EA111 史学特講A(1)	EA112 史学特講A(2)						
				EA113 史学特講A(3)	EA114 史学特講A(4)						
				EA115 史学特講A(5)	EA116 史学特講A(6)						
				EA117 史学特講A(7)	EA118 史学特講A(8)						
				EA119 史学特講A(9)	EA120 史学特講A(10)						
				EA121 史学特講A(11)	EA122 史学特講B(1)						
				EA123 史学特講B(2)	EA124 史学特講B(3)						
				EA125 史学特講B(4)	EA126 史学特講B(5)						
EA127 史学特講B(6)	EA128 史学特講B(7)										
EA129 史学特講B(8)	EA130 史学特講B(9)										
EA131 史学特講B(10)	EA132 史学特講B(11)										
EA133 史学特講B(12)	EA134 史学特講B(13)										
EA135 史学特講B(14)	EA136 史学特講B(15)										
B 教職・資格		EB201 自然地理学概論	EB202 地誌学	EB301 人文地理学概論 I	EB302 人文地理学概論 II						
		EB203 法律学	EB204 政治学	EB311 博物館実習 I							
		EB211 博物館概論	EB212 博物館経営論			EB411 博物館実習 II					
		EB213 博物館資料論	EB214 博物館資料保存論								
		EB215 博物館展示論	EB216 博物館情報・メディア論								
		EB217 博物館教育論									

年度 2018	学部等 文学部	学科等 史学科	コード LH
------------	------------	------------	-----------

教育課程上の区分		配属年次							
大区分(卒業要件)	小区分(学修内容)	1年		2年		3年		4年	
L 外国語	E 英語	LE101 英語講読 I	LE121 オール・イングリッシュ I A	LE201 英語講読 II					
		LE111 英作文	LE122 オール・イングリッシュ I B	LE221 オール・イングリッシュ II A					
			LE222 オール・イングリッシュ II B						
	J 日本語	LJ101 日本語初級A-1	LJ102 日本語初級A-2	LJ201 日本語中級A-1	LJ202 日本語中級A-2	LJ301 日本語上級-1	LJ302 日本語上級-2		
		LJ111 日本語初級B-1	LJ112 日本語初級B-2	LJ211 日本語中級B-1	LJ212 日本語中級B-2				
		LJ121 日本語初級C-1	LJ122 日本語初級C-2						

年度 2018	学部等 文学部	学科等 比較芸術学科	コード LA
------------	------------	---------------	-----------

教育課程上の区分		配置年次							
大区分(卒業要件)	小区分(学修内容)	1年		2年		3年		4年	
A 専門基礎	A 芸術学総合	AA101 比較芸術学入門A	AA102 比較芸術学入門B	AA201 芸術と文学	AA202 芸術と法				
	B 美術	AB101 西洋の文芸と美術A	AB102 日本・東洋の文芸と美術A						
	C 音楽	AC101 西洋の文芸と音楽A	AC102 日本・東洋の文芸と音楽A						
	D 演劇映像	AD101 西洋の文芸と演劇映像A	AD102 日本・東洋の文芸と演劇映像A						
B 美術	B 美術			BB201 西洋の文芸と美術B	BB202 日本・東洋の文芸と美術B	BB301 比較芸術学演習ⅠA(1)	BB302 比較芸術学演習ⅠA(2)	BB401 特別演習	BB402 特別演習(卒業論文)
				BB211 基礎演習Ⅰ(1)	BB212 基礎演習Ⅰ(2)	BB303 比較芸術学演習ⅠB(1)	BB304 比較芸術学演習ⅠB(2)		
				BB213 基礎演習Ⅰ(3)					
				BB221 原書講読Ⅰ(1)	BB222 原書講読Ⅰ(2)	BB305 比較芸術学演習ⅠC(1)	BB306 比較芸術学演習ⅠC(2)		
				BB223 原書講読Ⅰ(3)					
				BB231 芸術鑑賞の方法Ⅰ(1)	BB232 芸術鑑賞の方法Ⅰ(2)	BB307 比較芸術学演習ⅠD(1)	BB308 比較芸術学演習ⅠD(2)		
				BB233 芸術鑑賞の方法Ⅰ(3)					
				BB241 比較芸術学特講Ⅰ(1)	BB242 比較芸術学特講Ⅰ(2)				
				BB243 比較芸術学特講Ⅰ(3)	BB244 比較芸術学特講Ⅰ(4)				
				BB245 比較芸術学特講Ⅰ(5)	BB246 比較芸術学特講Ⅰ(6)				
				BB247 比較芸術学特講Ⅰ(7)	BB248 比較芸術学特講Ⅰ(8)				
				BB249 比較芸術学特講Ⅰ(9)					
		C 音楽	C 音楽			CC201 西洋の文芸と音楽B	CC202 日本・東洋の文芸と音楽B	CC301 比較芸術学演習ⅡA(1)	CC302 比較芸術学演習ⅡA(2)
				CC211 基礎演習Ⅱ(1)	CC212 基礎演習Ⅱ(2)	CC303 比較芸術学演習ⅡB(1)	CC304 比較芸術学演習ⅡB(2)		
				CC221 原書講読Ⅱ(1)	CC222 原書講読Ⅱ(2)				
				CC231 芸術鑑賞の方法Ⅱ(1)	CC232 芸術鑑賞の方法Ⅱ(2)				
				CC233 芸術鑑賞の方法Ⅱ(3)					
				CC241 比較芸術学特講Ⅱ(1)	CC242 比較芸術学特講Ⅱ(2)				
				CC243 比較芸術学特講Ⅱ(3)	CC244 比較芸術学特講Ⅱ(4)				
		CC245 比較芸術学特講Ⅱ(5)	CC246 比較芸術学特講Ⅱ(6)						
D 演劇映像	D 演劇映像			DD201 西洋の文芸と演劇映像B	DD202 日本・東洋の文芸と演劇映像B	DD301 比較芸術学演習ⅢA(1)	DD302 比較芸術学演習ⅢA(2)	DD401 特別演習	DD402 特別演習(卒業論文)
				DD211 基礎演習Ⅲ(1)	DD212 基礎演習Ⅲ(2)	DD303 比較芸術学演習ⅢB(1)	DD304 比較芸術学演習ⅢB(2)		
				DD213 基礎演習Ⅲ(3)					
				DD221 原書講読Ⅲ(1)	DD222 原書講読Ⅲ(2)	DD305 比較芸術学演習ⅢC(1)	DD306 比較芸術学演習ⅢC(2)		
				DD223 原書講読Ⅲ(3)					
				DD231 芸術鑑賞の方法Ⅲ(1)	DD232 芸術鑑賞の方法Ⅲ(2)				
				DD233 芸術鑑賞の方法Ⅲ(3)					
				DD241 比較芸術学特講Ⅲ(1)	DD242 比較芸術学特講Ⅲ(2)				
				DD243 比較芸術学特講Ⅲ(3)	DD244 比較芸術学特講Ⅲ(4)				
				DD245 比較芸術学特講Ⅲ(5)	DD246 比較芸術学特講Ⅲ(6)				
				DD247 比較芸術学特講Ⅲ(7)					
				DD248 比較芸術学特講Ⅲ(8)					
				DD249 比較芸術学特講Ⅲ(9)					
E 共通	A 比較芸術学専門			EA201 美学・芸術思想Ⅰ	EA202 美学・芸術思想Ⅱ				
	B 資格			EA203 西洋の宗教と芸術		EB301 博物館実習Ⅰ		EB401 博物館実習Ⅱ	
				EA204 日本・東洋の宗教と芸術					
L 外国語	E 英語	LE101 英語講読Ⅰ		LE201 英語講読Ⅱ					
		LE111 英作文							
		LE121 オール・イン・グリッジアⅠ(A)	LE122 オール・イン・グリッジアⅠ(B)	LE221 オール・イン・グリッジアⅡ(A)	LE222 オール・イン・グリッジアⅡ(B)				
	J 日本語	LJ101 日本語初級A-1	LJ102 日本語初級A-2	LJ201 日本語中級A-1	LJ202 日本語中級A-2	LJ301 日本語上級-1	LJ302 日本語上級-2		
		LJ111 日本語初級B-1	LJ112 日本語初級B-2	LJ211 日本語中級B-1	LJ212 日本語中級B-2				
		LJ121 日本語初級C-1	LJ122 日本語初級C-2						

年度 2018	学部等 文学部	学科等 文学部共通	コード LC
------------	------------	--------------	-----------

教育課程上の区分		配置年次									
大区分(卒業要件)	小区分(学修内容)	1年		2年		3年		4年			
A 文学部共通	A 芸術学			AA201 芸術文化論Ⅰ	AA202 芸術文化論Ⅱ						
				AA203 文化財科学Ⅰ	AA204 文化財科学Ⅱ						
				AA205 日本美術史Ⅰ	AA206 日本美術史Ⅱ						
				AA207 西洋美術史Ⅰ	AA208 西洋美術史Ⅱ						
				AA209 東洋美術史Ⅰ	AA210 東洋美術史Ⅱ						
				AA211 映像文化論Ⅰ	AA212 映像文化論Ⅱ						
	B 哲学・倫理学				AB201 日本の思想Ⅰ	AB202 日本の思想Ⅱ					
					AB203 東洋の思想Ⅰ	AB204 東洋の思想Ⅱ					
					AB205 現代思想Ⅰ	AB206 現代思想Ⅱ					
					AB207 生命倫理学Ⅰ	AB208 生命倫理学Ⅱ					
					AC201 精神分析学入門Ⅰ	AC202 精神分析学入門Ⅱ					
					AD201 東洋文化史Ⅰ	AD202 東洋文化史Ⅱ					
	C 心理学				AD203 日本文化史Ⅰ	AD204 日本文化史Ⅱ					
					AD205 西洋文化史Ⅰ	AD206 西洋文化史Ⅱ					
					AE201 詩論Ⅰ	AE202 詩論Ⅱ					
					AE203 キリシヤ・ローマ文学Ⅰ	AE204 キリシヤ・ローマ文学Ⅱ					
					AE205 テクスト論Ⅰ	AE206 テクスト論Ⅱ					
					AE207 物語文学Ⅰ	AE208 物語文学Ⅱ					
	D 文学				AE209 キリスト教文学Ⅰ	AE210 キリスト教文学Ⅱ					
					AE211 世界各地の文学Ⅰ	AE212 世界各地の文学Ⅱ					
					AE213 世界各地の文学Ⅲ	AE214 世界各地の文学Ⅳ					
				AE215 世界各地の文学Ⅴ	AE216 世界各地の文学Ⅵ						
				AE217 児童文学Ⅰ	AE218 児童文学Ⅱ						
				AE219 比較文学Ⅰ	AE220 比較文学Ⅱ						
E 言語学						AF201 言語学概論Ⅰ	AF202 言語学概論Ⅱ				
						AF203 比較言語学Ⅰ	AF204 比較言語学Ⅱ				
						AF205 心理言語学Ⅰ	AF206 心理言語学Ⅱ				
						AF207 認知言語学Ⅰ	AF208 認知言語学Ⅱ				
						AF209 記号論Ⅰ	AF210 記号論Ⅱ				
						AF211 古典ギリシャ語Ⅰ	AF212 古典ギリシャ語Ⅱ				
				AF213 古典ギリシャ語Ⅲ	AF214 古典ギリシャ語Ⅳ						
				AF215 フラン語Ⅰ	AF216 フラン語Ⅱ						
				AF217 フラン語Ⅲ	AF218 フラン語Ⅳ						
				AF219 イタリアの言語と文化Ⅰ	AF220 イタリアの言語と文化Ⅱ						
F 言語学				AF221 イタリアの言語と文化Ⅲ	AF222 イタリアの言語と文化Ⅳ	AF321 通訳ワークショップⅠ	AF322 通訳ワークショップⅡ				
				AG201 出版ジャーナリズムⅠ	AG202 出版ジャーナリズムⅡ						
				AG203 放送ジャーナリズムⅠ	AG204 放送ジャーナリズムⅡ						
G 社会学											

年度	学部等	学科等	コード
2018	教育人間科学部	教育学科	PP

教育課程上の区分		配属年次							
大区分(卒業要件)	小区分(学修内容)	1年		2年		3年		4年	
O 第0群	O 教育学基礎	OO101 教育学概説 OO103 教育制度概説 OO105 基礎演習 I	OO102 教育心理学概説 OO104 教育思想概説 OO106 基礎演習 II	OO201 教育学研究法 OO203 応用演習 II	OO202 応用演習 I	OO301 専門演習 I	OO302 専門演習 II	OO401 卒業研究 I	OO402 卒業研究 II
A 第I群	A 教育史・教育哲学	AA101 人間形成学総論 AA103 日本教育史 II	AA102 日本教育史 I	AA201 宗教教育学		AA301 西洋教育史 I AA303 西洋教育史 III AA305 発達と文化A AA307 教育哲学A AA309 教育学特論A	AA302 西洋教育史 II AA304 教育史特殊講義 AA306 発達と文化B AA308 教育哲学B AA310 教育学特論B		
	B 教育社会学・生涯発達論	AB101 教育社会学総論 AB103 生涯発達心理学 I	AB102 比較発達社会学 AB104 生涯発達心理学 II	AB201 キャリア教育A AB203 家庭教育B	AB202 家庭教育A	AB301 キャリア教育B AB303 異文化理解教育 AB305 教育学特論C	AB302 比較教育学 AB304 老年学 AB306 教育学特論D		
B 第II群	C 臨床教育学・障害児教育学	BC101 臨床教育学総論		BC201 社会福祉概論 BC203 臨床心理学概論 II BC205 障害児・者の施設実習	BC202 臨床心理学概論 I BC204 障害児・者の心理 I	BC301 小児精神神経学 BC303 相談心理学 II BC305 障害児・者の心理 II BC307 障害児・者の福祉 BC309 教育学特論E	BC302 相談心理学 I BC304 特別支援教育 BC306 障害児・者の教育 BC308 障害児・者の医学 BC310 教育学特論F		
	D 生涯学習論・社会教育学・高等教育論			BD201 生涯学習概論 I BD203 高等教育論A	BD202 生涯学習概論 II	BD301 高等教育論B BD303 社会教育計画 I BD305 社会教育課題研究 II BD307 青年期と教育 BD309 青年文化論 BD311 地域ネットワーク論 BD313 教育学特論G	BD302 社会教育計画 I BD304 社会教育課題研究 I BD306 高齢化社会と教育 BD308 ジェンダーと教育 BD310 ボランティア教育論 BD312 スポーツレクリエーション論 BD314 教育学特論H		
C 第III群	E 認知科学・メディア論・教育情報学	CE101 教育情報学総論	CE102 メディア・コミュニケーション概論	CE201 認知科学概論	CE202 学校経営と学校図書館	CE301 視覚教育メディア論 CE303 知的表現論 CE305 学習指導と学校図書館 CE307 情報メディア利用論 CE309 学習心理学 I CE311 社会心理学 I CE313 教育学特論I	CE302 インターフェース論 CE304 教材開発論 CE306 学校図書館メディア CE308 読書教育論 CE310 学習心理学 II CE312 社会心理学 II CE314 教育学特論J		
	F 図書館情報学			CF201 図書館情報学概論 CF203 図書館情報文化論 CF205 情報技術論	CF202 図書館システムサービス論 CF204 情報メディア論A	CF301 図書館システム経営論 CF303 情報メディア論C CF305 メディア組織法 I CF307 メディア組織法 III CF309 情報サービス論 II CF311 教育学特論K	CF302 情報メディア論B CF304 児童サービス論 CF306 メディア組織法 II CF308 情報サービス論 I CF310 情報サービス論 III CF312 教育学特論L	CF401 図書館情報学実習A	CF402 図書館情報学実習B
D 第IV群	G 幼児教育学	DG101 幼児教育原理A DG103 児童福祉論	DG102 幼児教育原理B	DG201 臨床保育学A	DG202 臨床保育学B	DG301 小児保健論 DG303 教育学特論N	DG302 教育特論M		
	H 保育学			DH201 保育方法研究A	DH202 保育方法研究B	DH301 保育内容総論A DH303 保育内容教育法(健康) DH305 保育内容教育法(環境) DH307 保育内容教育法(表現A) DH309 小児栄養学 DH311 教育学特論P	DH302 保育内容総論B DH304 保育内容教育法(人間関係) DH306 保育内容教育法(こども) DH308 保育内容教育法(表現B) DH310 教育学特論O		

年度	学部等	学科等	コード
2018	教育人間科学部	教育学科	PP

教育課程上の区分		配属年次							
大区分(卒業要件)	小区分(学修内容)	1年		2年		3年		4年	
E 第V群	I 児童教育学	EI101 学校教育学総論 EI103 初等教育原理B	EI102 初等教育原理A	EI201 教職論 EI203 教育課程論(初等)	EI202 教育方法論(初等) EI204 学校心理学	EI301 初等教科教育法(国語科) EI303 初等教科教育法(理科) EI305 初等教科教育法(生活科) EI307 初等教科教育法(図画工作科) EI309 初等教科教育法(家庭科) EI311 教育相談(初等) EI313 道徳教育指導法(初等) EI315 教育学特論R	EI302 初等教科教育法(算数科) EI304 初等教科教育法(社会科) EI306 初等教科教育法(音楽科) EI308 初等教科教育法(体育科) EI310 生徒・進路指導論(初等) EI312 特別活動論(初等) EI314 教育学特論Q		
	J 教科教育学(初等)	EJ101 算数概説A EJ103 理科概説A EJ105 体育概説(理論)	EJ102 算数概説B EJ104 理科概説B EJ106 音楽概説(理論)	EJ201 音楽概説(器楽A) EJ203 図画工作概説(美術)	EJ202 初等国語概説 EJ204 図画工作概説(造形)	EJ301 体育概説(運動) EJ303 音楽概説(声楽) EJ305 生活科概説 EJ307 家庭科概説(被服) EJ309 初等英語概説A EJ311 教育学特論S	EJ302 音楽概説(器楽B) EJ304 社会科概説 EJ306 図画工作概説(理論) EJ308 家庭科概説(食物) EJ310 初等英語概説B EJ312 教育学特論T		
F 第VI群	K 教科教育学(中等)	FK101 国文学A	FK102 国文学B	FK201 グローバル文化論A FK203 中等国語概説 FK205 国文学特論B FK207 国文学特論C FK209 国文学特論D FK211 国文学特論F	FK202 グローバル文化論B FK204 グローバル文化論D FK206 国文学特論A FK208 国文学特論C FK210 国文学特論E	FK301 英語概説A FK303 Advanced Academic WritingA FK305 英文学A FK307 英国文学史A FK309 英語音声学(講義) FK311 初等英語特論A FK313 国文学史A FK315 漢文学A FK317 書道A FK319 日本史A FK321 外国史(東洋史) FK323 人文地理学A FK325 自然地理学A FK327 地理情報分析法A FK329 気象学A FK331 地誌学概説A FK333 法律学概説A FK335 政治学概説A FK337 社会学概説 FK339 経済学総論B FK341 哲学史B FK343 宗教学B	FK302 英語概説B FK304 Advanced Academic WritingB FK306 英文学B FK308 英国文学史B FK310 英語音声学(演習) FK312 初等英語特論B FK314 国文学史B FK316 漢文学B FK318 書道B FK320 日本史B FK322 外国史(西洋史) FK324 人文地理学B FK326 自然地理学B FK328 地理情報分析法B FK330 気象学B FK332 地誌学概説B FK334 法律学概説B FK336 政治学概説B FK338 経済学総論A FK340 哲学史A FK342 宗教学A		
		L キリスト教教育論			GL301 キリスト教学校論 GL303 聖書の世界(新約) GL305 キリスト教と法思想 GL307 礼拝学	GL302 聖書の世界(旧約) GL304 キリスト教の教理 GL306 宗教と社会 GL308 キリスト教メタヘルズ			

年度 2018	学部等 教育人間科学部	学科等 心理学科	コード PY
------------	----------------	-------------	-----------

教育課程上の区分		配置年次							
大区分(卒業要件)	小区分(学修内容)	1年		2年		3年		4年	
A 第I群	A 基礎心理学	AA101 心理学概論	AA102 心理学基礎演習	AA201 心理学研究法	AA202 心理学実験	AA301 心理学統計法Ⅲ			
	G 哲学	AA103 心理統計基礎		AA203 心理学統計法Ⅰ	AA204 心理学統計法Ⅱ	AG301 心の哲学Ⅰ	AG302 心の哲学Ⅱ		
B 第II群	B 認知心理学			AA205 心をめぐる諸問題	AA206 質的研究法演習				
	C 発達心理学			AA207 心理学実験プログラミング					
	D 社会心理学			AG201 哲学的認識論Ⅰ	AG202 哲学的認識論Ⅱ				
	E 臨床心理学			BC201 発達心理学Ⅰ	BC202 発達心理学Ⅱ				
	F 心理総合			BD201 社会心理学A(社会・集団・家族心理学)					
					BE201 家族心理学(社会・集団・家族心理学B)	BE202 障害者・障害児心理学			
C 第III群	B 認知心理学	CB101 認知心理学概論		BF201 人格・感情心理学	BF202 神経・生理心理学				
	C 発達心理学	CC101 発達心理学概論		CB201 学習と教育の心理学	CB202 認知科学概論	CB301 認知心理学特講A	CB302 認知心理学特講B		
	D 社会心理学	CD101 社会心理学概論		CD201 社会心理学B(応用社会心理学)		CC301 発達心理学特講A	CC302 発達心理学特講B		
						CD301 社会心理学特講A	CD302 社会心理学特講B		
						CD303 心理学特別講義A	CD304 心理学特別講義B		
D 第IV群	E 臨床心理学	DE101 臨床心理学概論Ⅰ	DE102 臨床心理学概論Ⅱ	DE201 公認心理師の職業	DE202 心理的アセスメントA				
				DE203 心理的アセスメントB	DE204 心理学の支援法A				
				DE205 心理学の支援法B	DE206 健康・医療心理学				
	F 心理総合			DE207 福祉心理学	DE208 教育・学校心理学				
E 第V群	E 臨床心理学			DE209 精神疾患とその治療	DE210 人間の構造と機能および疾病	DF301 司法・犯罪心理学	DF302 関係行政論		
	F 心理総合			EE201 グループ・アプローチ	EE202 臨床地域援助	EE301 臨床心理学特講A	EE302 臨床心理学特講B		
F 第VI群						EE303 芸術療法	EE304 芸術療法演習		
						EE305 心理面接法A	EE306 心理面接法B		
						EE307 相談心理学A	EE308 相談心理学B		
						EF301 臨床発達特講A	EF302 臨床発達特講B		
						EF303 臨床発達特講C	EF304 精神保健福祉		
						FE301 心理演習A	FE302 心理演習B		
						FE303 心理演習C	FE304 心理演習D		
G 第VII群	F 心理総合			FE201 心理実習事前指導		FE305 心理演習E	FE306 心理演習F		
	G 哲学					FE307 心理演習G	FE308 心理演習H		
						FE309 心理演習I	FE310 心理実習		
H 第VIII群	F 心理総合			GF201 心理学応用演習		GF301 心理学原書講義A	GF302 心理学原書講義B		
				GG201 哲学文獻講義演習Ⅰ	GG202 哲学文獻講義演習Ⅱ	GF303 心理学原書講義C			
						HF301 特別研究演習Ⅰ	HF302 特別研究演習Ⅱ	HF401 卒業論文Ⅰ	HF402 卒業論文Ⅱ

年度 2018	学部等 教育人間科学部	学科等 外国語	コード PL
------------	----------------	------------	-----------

教育課程上の区分		配置年次							
大区分(卒業要件)	小区分(学修内容)	1年		2年		3年		4年	
E 英語	A 英語	EA101 Comprehensive English IA	EA102 Comprehensive English IB	EA201 Comprehensive English IIA	EA202 Comprehensive English IIB				
		EA103 Oral English IA	EA104 Oral English IB	EA203 Oral English IIA	EA204 Oral English IIB				
				EA205 Academic Writing A	EA206 Academic Writing B				

年度 2018	学部等 経済学部	学科等 経済学科	コード EE
------------	-------------	-------------	-----------

教育課程上の区分		配属年次							
大区分(卒業要件)	小区分(学修内容)	1年		2年		3年		4年	
A 入門科目	A 経済学総合	AA101 経済学入門							
	D 経済統計	AA111 経済英語入門 AD101 経済数学入門 I	AD102 経済数学入門 II						
B 基礎科目	B 理論経済学	BB101 ミクロ経済学 I	BB102 ミクロ経済学 II						
	C 経済史	BB111 マクロ経済学 I	BB112 マクロ経済学 II						
	D 経済統計	BC101 経済史概論 I	BC102 経済史概論 II						
		BD101 統計学概論 I	BD102 統計学概論 II						
C 理論・数量	B 理論経済学	CB201 ミクロ経済学 III	CB202 行動経済学	CB301 応用ミクロ経済学 I	CB302 応用ミクロ経済学 II	CB401 理論特論A	CB402 理論特論B		
		CB211 マクロ経済学 III	CB212 経済動学 I	CB311 応用マクロ経済学 I	CB312 応用マクロ経済学 II				
	D 経済統計	CB213 経済動学 II	CB222 ゲーム理論	CB313 オープンマクロ経済学 II	CB322 マーケット・デザイン				
		CB221 初学者のためのゲーム理論	CB241 厚生経済学	CB321 応用ゲーム理論	CB332 法と経済学				
D 政策・産業	E 経済政策	CB242 経済学史 I	CB242 経済学史 II	CB331 契約の経済学	CB332 法と経済学				
	F 財政・公共経済	CD201 経済数学 I	CD202 経済数学 II	CD301 経済統計 I	CD302 経済統計 II	CD401 情報・統計特論			
		CD203 計量経済学 I	CD204 計量経済学 II						
		CD205 数理統計 I	CD206 数理統計 II						
		CD211 情報処理A I	CD212 情報処理A II						
	G 産業組織論	CD213 情報処理B I	CD214 情報処理B II	DE201 経済政策論 I	DE202 経済政策論 II	DE301 農業経済論 I	DE302 農業経済論 II	DE401 政策特論A	DE402 政策特論B
				DF201 財政学基礎	DF202 財政学 I	DE311 環境経済学 I	DE312 環境経済学 II		
				DF203 財政学 II	DF301 地方財政の経済学 I	DF302 地方財政の経済学 II			
				DF211 公共経済学	DF303 租税の経済学 I	DF304 租税の経済学 II			
				DF221 社会政策基礎	DF311 公共政策論 I	DF312 公共政策論 II			
				DF321 社会政策論 I	DF322 社会政策論 II				
H 労働経済論			DF323 社会保障論 I	DF324 社会保障論 II	DF331 NPO論A	DF332 NPO論B			
			DF341 特殊講義(雇用制度と労使関係)	DF342 特殊講義(社会保障と保険 I)	DF343 特殊講義(社会保障と保険 II)	DF342 特殊講義(社会保障と保険 I)			
			DG201 特殊講義(ビジネス経済学 I)	DG202 特殊講義(ビジネス経済学 II)	DG301 産業組織論 I	DG302 産業組織論 II	DG401 産業特論		
			DG203 特殊講義(モノづくりの経済学)		DG311 産業論(総合商社)	DG312 産業論(現代の証券)			
I 金融・ファイナンス			DG313 産業論(航空事業 I)	DG314 産業論(航空事業 II)	DG315 産業論(損害保険業)	DG316 産業論(損害保険業)			
			DG317 産業論(自動車産業)	DG318 産業論(自動車産業)	DG319 産業論(証券ビジネス)	DG320 産業論(証券ビジネス)			
			DG321 産業論(証券ビジネス)	DG322 産業論(証券ビジネス)	DG323 産業論(証券ビジネス)	DG322 産業論(証券ビジネス)			
			DH201 労働経済基礎	DH301 労働経済論 I	DH302 労働経済論 II				
		DI201 金融論 I	DI202 金融論 II	DI301 金融政策論	DI302 国際金融論 I				
		DI211 ファイナンス論基礎	DI212 ファイナンス論	DI303 国際金融論 II	DI302 国際金融論 I				
				DI311 金融リスク管理	DI312 ファイナンス市場分析	DI401 金融特論			
				DI313 金融システム論					

年度 2018	学部等 経済学部	学科等 経済学科	コード EE
------------	-------------	-------------	-----------

教育課程上の区分		配属年次							
大区分(卒業要件)	小区分(学修内容)	1年		2年		3年		4年	
E 歴史・国際・地域	C 経済史	EC201 日本経済史 I	EC202 日本経済史 II	EC301 現代日本経済史 I	EC302 現代日本経済史 II	EC401 経済史特論A	EC402 経済史特論B		
		EC203 欧米経済史 I	EC204 欧米経済史 II	EC303 現代欧米経済史 I	EC304 現代欧米経済史 II				
	E 経済政策	E 経済政策	EC205 東洋経済史 I	EC206 東洋経済史 II	EC311 経済思想 I	EC312 経済思想 II			
EC211 キリスト教社会思想史 I			EC212 キリスト教社会思想史 II	EE201 国際経済学 I	EE202 国際経済学 II	EE301 世界経済論 I	EE302 世界経済論 II		
J 人文地理学		EE203 日本経済論 I	EE204 日本経済論 II	EE303 開発経済学	EE304 政策と評価B				
		EE205 各国経済論A I	EE206 各国経済論A II	EE311 交通経済学 I	EE312 交通経済学 II				
F 演習等	A 経済学総合	EE207 各国経済論B I	EE208 各国経済論B II	EE313 地域経済学 II	EE314 都市経済学	FA401 演習 II A	FA402 演習 II B		
	K 外国書講読			EE315 地域人口論	EE316 住宅と不動産の経済学	FA403 卒業論文			
G 関連科目	E 経済政策	EJ201 経済地理	EJ202 経済地誌	EJ311 GIS入門	EJ312 GIS応用				
	F 財政・公共経済			FA301 演習 I A	FA302 演習 I B				
	L 公法学	GL201 憲法A	GL202 憲法B	FA303 ビジネスコミュニケーション	FA304 Academic Writing				
	M 民法			FK301 外国書講読					
	N 社会法学			GE301 都市再生論	GE302 まちづくりと都市計画				
	O 経営学			GE303 郊外地域論	GF301 公的規制の経済学	GF302 公共政策の経済学			
	P 会計学	GP101 初級簿記 I	GP102 初級簿記 II	GF303 公共選択論	GF304 政策と評価A				
	Q 商学			GM301 民法A	GM302 民法B				
	R 人文・社会学			GM303 民法C	GM304 民法D				
				GM311 商法A(I)	GM312 商法A(II)				
			GM313 商法B	GM314 商法C					
			GN301 経済法A	GN302 経済法B					
			GN311 労働法A	GN312 労働法B					
			GO201 事業戦略論 I	GO202 事業戦略論 II	GO301 リスク・マネジメント論 I	GO302 リスク・マネジメント論 II			
			GP201 財務会計論 I	GP202 財務会計論 II	GO311 経営史 I	GO312 経営史 II			
			GQ201 マーケティング論 I	GQ202 マーケティング論 II	GO321 多国籍企業論 I	GO322 多国籍企業論 II			
					GR301 英語で学ぶ社会・人文講義A	GR302 英語で学ぶ社会・人文講義B			

年度 2018	学部等 経済学部	学科等 現代経済デザイン学科	コード ED
------------	-------------	-------------------	-----------

教育課程上の区分		配置年次								
大区分(卒業要件)	小区分(学修内容)	1年		2年		3年		4年		
A 入門科目	A 現代経済デザイン総合	AA101 現代経済デザイン総合講義								
	A 現代経済デザイン総合	BA101 公共哲学 I		BA211 プレゼンテーション	BA212 ビジネスマナー	BA301 公共哲学 II				
	B 基礎科目	B 理論経済学	BB101 ミクロ経済学講義 BB111 マクロ経済学講義 BB121 ツールとしてのゲーム理論	BB102 ミクロ経済学演習 BB122 情報の経済学	BB231 経済学史 I	BB232 経済学史 II				
		C 財政・公共経済	BC101 公共経済学 I		BC201 公共経済学 II BC211 財政学 I	BC212 財政学 II	BC301 公共経済学 III	BC302 厚生経済学		
		D 経済政策	BD101 地域経済学 I BD111 グローバル経済 A BD113 グローバル経済 C	BD112 グローバル経済 B	BD201 GISによる空間分析 I		BD301 地域経済学 II	BD302 地域政策論		
	E 人文地理学	BE101 経済地理	BE102 経済地誌							
	F 経済統計	BF111 入門経済学 I	BF112 入門統計学 I	BF201 経済情報 BF211 入門経済学 II	BF202 データ解析 BF212 入門統計学 II					
	G 経済史	BG101 経済史概論 I	BG102 経済史概論 II							
	C 専攻科目	A 現代経済デザイン総合			CA201 公共地域政策論(公共) CA203 公共地域政策論(国際) CA211 経済・金融事情(金融機関) CA213 経済・金融事情(EU経済) CA215 経済・金融事情(グローバルファンダメンタルズ)	CA202 公共地域政策論(地域) CA204 経済・金融事情(金融機関経済) CA212 経済・金融事情(総合) CA214 経済・金融事情(総合)			CA401 公共地域政策研究 CA403 地域情報研究	CA402 公共情報研究
		C 財政・公共経済					CC301 租税の経済学 I CC303 公的規制の経済学 CC305 契約の経済学 CC311 租税の経済学 II CC313 公共政策の経済学 CC315 社会保障論 II CC321 公共選択論 CC323 政策と評価 A	CC302 地方財政の経済学 I CC304 NPO論 A CC312 地方財政の経済学 II CC314 社会保障論 I CC322 NPO論 B CC324 法と経済学	CC401 ミクロ経済学特論 CC403 租税特論 CC405 公共政策特論	CC402 マクロ経済学特論 CC404 地方財政特論
D 経済政策						CD301 都市経済学 CD303 交通経済学 I CD305 環境経済学 I CD311 都市再生論 CD313 住宅と不動産の経済学 CD315 地域人口論 CD317 農業経済学 II CD321 各国経済論 A I CD323 各国経済論 B I CD325 世界経済論 I	CD302 開発経済学 CD304 交通経済学 II CD306 環境経済学 II CD312 まちづくりと都市計画 CD314 政策と評価 B CD316 農業経済学 I CD322 各国経済論 A II CD324 各国経済論 B II CD326 世界経済論 II	CD401 産業集積特論	CD421 EU経済特論 CD423 地域人口特論	CD422 アジア経済特論
E 人文地理学						CE301 郊外地域論 CE311 GISによる空間分析 II		CE401 大都市地域特論 CE411 GISによる空間分析 III		
D 演習		A 現代経済デザイン総合		DA201 基礎演習	EA202 フィールドワーク	DA301 専門演習 I	DA302 専門演習 II	DA401 専門演習 III DA403 卒業論文 II	DA402 卒業論文 I	
E 実践科目		A 現代経済デザイン総合			EA201 フィールドスタディ	EA202 フィールドワーク	EA301 Presentation&Estate EA303 ビジネスコミュニケーション	EA302 ビジネスライティング EA304 Academic Writing		

年度 2018	学部等 経済学部	学科等 現代経済デザイン学科	コード ED
------------	-------------	-------------------	-----------

教育課程上の区分		配置年次							
大区分(卒業要件)	小区分(学修内容)	1年		2年		3年		4年	
F 関連科目	H 政治学	FH101 政治学原論A	FH102 政治学原論B			FH301 行政学A	FH302 行政学B		
	I 公法学			FI201 憲法A	FI202 憲法B	FI301 行政法A FI311 税法B	FI312 税法C		
	J 民事法学					FJ301 民法A FJ303 民法C FJ311 商法A(I) FJ313 商法B	FJ302 民法B FJ304 民法D FJ312 商法A(II) FJ314 商法C		
	K 社会法学					FK301 経済法A FK311 労働法A	FK302 経済法B FK312 労働法B		
	L 経営学			FL201 事業戦略論 I	FL202 事業戦略論 II	FL301 リスク・マネジメント論 I FL311 経営史 I	FL302 リスク・マネジメント論 II FL312 経営史 II		
	M 会計学	FM101 初級簿記 I	FM102 初級簿記 II	FM201 財務会計論 I	FM202 財務会計論 II				
	N 商学			FN201 マーケティング論 I	FN202 マーケティング論 II				
	O 人文・社会学					FO301 英語で学ぶ社会・人文学講義A	FO302 英語で学ぶ社会・人文学講義B		

年度 2018	学部等 経済学部	学科等 外国語	コード EL
------------	-------------	------------	-----------

教育課程上の区分		配置年次								
大区分(卒業要件)	小区分(学修内容)	1年		2年		3年		4年		
A	E 英語	AE101	AE102	AE201	AE202					
		AE111	AE112	AE211	AE212					
		AE121	AE122							
		AE131	AE132							
		AE131	AE132							
	J 日本語	AJ101			AJ201		AJ301			
		AJ102			AJ202		AJ302			
		AJ111			AJ211					
		AJ112			AJ212					
		AJ121								
		AJ122								
		AJ122								

年度 2018	学部等 法学部	学科等 法学科	コード JJ
------------	------------	------------	-----------

教育課程上の区分		配置年次								
大区分(卒業要件)	小区分(学修内容)	1年		2年		3年		4年		
A	科目群 I			AA201 入門演習		AA311 法学・政治学演習 I A	AA312 法学・政治学演習 I B	AA413 法学・政治学演習 II A	AA414 法学・政治学演習 II B	
						AA321 教養演習 I A	AA322 教養演習 I B	AA423 教養演習 II A	AA424 教養演習 II B	
								AA415 法学・政治学演習 II C		
								AA425 教養演習 II C		
B	A 入門科目	BA101 法学入門	BA112 法学概論(私法系)							
		BA111 法学概論(公法系)								
		BA121 裁判論								
		BA131 国際社会と法								
		BA141 情報セキュリティ								
	B 基礎法	BB111 法思想史A	BB112 法思想史B	BB211 法史学A	BB212 法史学B					
		BB121 近代日本法史		BB221 法哲学A	BB222 法哲学B					
		BB131 近代西洋法史		BB231 法社会学A	BB232 法社会学B					
				BB341 基礎法特論A	BB342 基礎法特論B					
						BB399 インターンシップII				
C	A 公法	CA111 憲法A	CA112 憲法B	CA213 憲法C	CA214 憲法D	CA311 刑事訴訟法A	CA312 刑事訴訟法B			
				CA221 憲法基礎演習		CA321 刑事政策A	CA322 刑事政策B			
				CA231 行政法A	CA232 行政法B	CA333 行政法C				
				CA241 刑法A	CA242 刑法B	CA343 刑法C	CA344 刑法D			
				CA251 刑事法特論A		CA352 刑事法特論B	CA353 刑事法特論C			
	B 私法	CB101 民法入門		CB212 民法B	CB213 民法C	CB314 民法D	CB315 民法E			
		CB111 民法A		CB221 民法基礎演習	CB232 商法B					
				CB231 商法A		CB333 商法C	CB334 商法D			
						CB335 商法E				
						CB341 民事訴訟法A	CB342 民事訴訟法B			
						CB351 国際私法A	CB352 国際私法B			
						CB353 国際民事訴訟法				
				CB361 破産法	CB372 知的財産法B					
				CB371 知的財産法A	CB373 知的財産法D					
				CB373 知的財産法C	CB374 知的財産法D					
				CB381 民事法特論A	CB382 民事法特論B					
				CB383 民事法特論C						

年度	学部等	学科等	コード
2018	法学部	法学科	JJ

教育課程上の区分		配置年次							
大区分(卒業要件)	小区分(学修内容)	1年		2年		3年		4年	
C 科目群Ⅲ	C 社会法			CC211 労働法A	CC212 労働法B	CC313 労働法C	CC314 労働法D		
				CC221 税法A		CC315 労働法E	CC316 国際労働法		
	D 政治学	CD111 政治学原論A CD121 日本政治史A	CD112 政治学原論B CD122 日本政治史B	CD231 政治思想史A CD241 比較政治学 CD251 国際関係論 CD261 政治学特論A CD363 政治学特論C CD371 NPO論	CD232 政治思想史B		CC322 税法B CC323 税法C CC331 経済法A CC341 社会保障法A	CC332 経済法B CC342 社会保障法B	
D 科目群Ⅳ	A ビジネス法	DA101 ビジネス法入門 DA111 法と経済		DA221 銀行取引法 DA231 商事法特論A DA241 消費者法		DA322 金融商品取引法 DA332 商事法特論B DA334 商事法特論D	DA323 国際金融法 DA333 商事法特論C		
	B 公共政策	DB101 公共政策と法		DB211 立法学 DB231 公共政策特論A	DB232 公共政策特論B	DB321 行政学A DB341 地方自治法 DB351 都市法 DB361 政治過程論A DB399 研修・インターンシップ	DB322 行政学B		
	C 司法	DC101 法曹入門		DC211 現代法実務論 DC221 法学ライティング			DC331 法曹演習A DC333 法曹演習C DC335 法曹演習E DC337 法曹演習G DC399 研修・インターンシップ	DC332 法曹演習B DC334 法曹演習D DC336 法曹演習F	
	D ヒューマン・ライツ	DD101 ヒューマン・ライツの現場A	DD102 ヒューマン・ライツの現場B	DD211 環境法A DD221 人権法特論A DD231 人権調査論	DD212 環境法B DD222 人権法特論B		DD323 人権法特論C DD341 言論法A DD351 国際人権法 DD399 研修・インターンシップ	DD324 人権法特論D DD342 言論法B	

年度	学部等	学科等	コード
2018	法学部	外国語	JL

教育課程上の区分		配置年次							
大区分(卒業要件)	小区分(学修内容)	1年		2年		3年		4年	
A 第一外国語	E 英語	AE101 コミュニケーション・英会話Ⅰ AE111 コミュニケーション・英会話Ⅱ AE121 オーラル・イングリッシュⅠ AE131 英語能力試験対策講座Ⅰ AE133 英語能力試験対策講座Ⅲ	AE132 英語能力試験対策講座Ⅱ AE134 英語能力試験対策講座Ⅳ	AE201 コミュニケーション・英会話Ⅲ AE211 コミュニケーション・英会話Ⅳ AE221 オーラル・イングリッシュⅡ			AE321 オーラル・イングリッシュⅢ AE341 イングリッシュ・ワークショップA AE343 イングリッシュ・ワークショップC	AE342 イングリッシュ・ワークショップB AE344 イングリッシュ・ワークショップD	
	J 日本語	AJ101 日本語初級A-1 AJ103 日本語初級B-1 AJ105 日本語初級C-1	AJ102 日本語初級A-2 AJ104 日本語初級B-2 AJ106 日本語初級C-2	AJ201 日本語中級A-1 AJ203 日本語中級B-1	AJ202 日本語中級A-2 AJ204 日本語中級B-2	AJ301 日本語上級A-1	AJ302 日本語上級A-2		

年度 2018	学部等 経営学部	学科等 経営学科	コード BB
------------	-------------	-------------	-----------

教育課程上の区分		配置年次							
大区分(卒業要件)	小区分(学修内容)	1年		2年		3年		4年	
A 専門基礎科目	B 経営学	AB101 マネジメント基礎A AB103 マネジメント基礎B							
	A 会計学	AA101 アカウンティング基礎 I	AA102 アカウンティング基礎 II						
B 共通専門科目	B 経営学			BB201 経営史A BB203 経営史B BB205 経営管理論 I BB207 経営組織論 I BB209 企業情報戦略 I BB211 比較経営論A BB213 比較経営論B BB215 キャリアデザイン論 I BB217 事業戦略論 I		BB206 経営管理論 II BB208 経営組織論 II BB210 企業情報戦略 II		BB301 企業法務 I BB302 企業法務 II	
	D データ科学	BD101 経営データ分析の基礎Ⅰ BD103 経営データ分析の基礎Ⅱ BD105 情報ネットワークグラフィ	BD102 経営データ分析の基礎Ⅰ BD104 経営データ分析の基礎Ⅱ						
	A 会計学			BA201 ビジネスゲームで学ぶ会計 BA203 企業分析論 BA205 財務会計論 I BA207 管理会計論 I BA209 中級簿記 I BA211 原価計算論		BA206 財務会計論 II BA208 管理会計論 II BA210 中級簿記 II			
	M マーケティング			BM201 マーケティング論 I BM202 マーケティング論 II					
	C 商学	BC101 商学基礎論 I BC103 スポーツマネジメント I	BC102 商学基礎論 II BC104 スポーツマネジメント II	BC201 流通論 I	BC202 流通論 II			BC301 交通論 I BC302 交通論 II	
	E 経済学	BE101 ミクロ経済学基礎 I	BE102 ミクロ経済学基礎 II	BE201 ビジネス・エコノミクス BE203 ビジネス・エコノミクスB					
	F ファイナンス	BF101 ファイナンス入門		BF201 ファイナンス I	BF202 ファイナンス II	BF301 コーポレートファイナンス I BF303 リスク・マネジメント I		BF302 コーポレートファイナンス II BF304 リスク・マネジメント II	
	K 国際文化			BK201 国際文化理解 I BK202 国際文化理解 II					
	I 産学連携			BI201 産学特論(現代の経営戦略と経営) BI203 経営学部インターンシップ BI205 スポーツマネジメント論 BI207 ショッピングセンター概論			BI301 経営学部インターンシップ II		
	S 演習			BS201 経営基礎演習 I	BS202 経営基礎演習 II				
	C グローバルビジネス科目	B 経営学			CB201 Organizational Management A CB203 Organizational Management B			CB301 国際経営論 I CB303 International Management I (英) CB304 Entrepreneurial Management II (英)	CB302 国際経営論 II
M マーケティング				CC201 国際貿易論 I CC203 国際ビジネス環境論A CC205 国際ビジネス環境論B	CC202 国際貿易論 II		CM301 国際マーケティング Market and Business Environment CC301 Effective Negotiation CC305 Written Agreements CC307 Effective Speech CC309 Academic Presentation		
C 商学				CE201 Globalization and Emerging Countries A CE203 Globalization and Emerging Countries B					
E 経済学									
K 国際文化		CK101 企業英語特講 I CK103 コミュニケーション特論 I CK105 Global Communication I CK107 International Business English I CK109 グローバル・ビジネス研修	CK102 企業英語特講 II CK104 コミュニケーション特論 II CK106 Global Communication II CK108 International Business English II			CK301 国際文化演習 I CK303 アメリカ文化論 I CK305 イギリス文化論 I CK307 ユダヤ文化とビジネス I CK309 英米圏社会・文化研究 I CK311 世界の言語文化 I CK313 現代韓国社会事情 I		CK302 国際文化演習 II CK304 アメリカ文化論 II CK306 イギリス文化論 II CK308 ユダヤ文化とビジネス II CK310 英米圏社会・文化研究 II CK312 世界の言語文化 II CK314 現代韓国社会事情 II	
I 産学連携						CI301 キャリア開発(コーチング入門) CI303 Career Development(Behavioral Coaching)			

年度 2018	学部等 経営学部	学科等 経営学科	コード BB
------------	-------------	-------------	-----------

教育課程上の区分		配置年次								
大区分(卒業要件)	小区分(学修内容)	1年		2年		3年		4年		
D 経営学科専門科目	B 経営学			DB201 グローバル製品戦略 I DB203 創業論 DB205 ビジネスアイデア論	DB202 グローバル製品戦略 II	DB301 サプライチェーンマネジメントA DB303 サプライチェーンマネジメントB DB305 経営戦略論 I DB307 事業創造戦略論 DB309 顧客創造戦略論 DB311 人的資源管理論 I DB313 組織心理学 I DB315 マネジメントサイエンス I DB317 人間行動の多面的分析A DB319 人間行動の多面的分析B DB321 戦略・マネジメント特論A DB323 戦略・マネジメント特論B DB325 ビジネスモデル論 DB327 ビジネスプランニング論 DB329 ベンチャー企業経営論 DB331 競争戦略論 I DB333 産業労働衛生論 DB335 ヘルスケア経営論		DB306 経営戦略論 II DB312 人的資源管理論 II DB314 組織心理学 II DB316 マネジメントサイエンス II DB332 競争戦略論 II		
	D データ科学	DD101 経営データ分析基礎 I DD102 経営データ分析基礎 II	DD201 サプライチェーンと意思決定Ⅰ DD203 サプライチェーンと意思決定Ⅱ							
	A 会計学			DA201 意思決定会計論 DA203 国際会計論 I DA205 制度会計論A DA207 制度会計論B DA209 戦略管理会計 I DA211 予算管理論 DA213 コストマネジメント	DA204 国際会計論 II DA210 戦略管理会計 II	DA301 財務コンサルティング論 I DA303 会計情報論 I DA305 会計・ファイナンス特論A DA307 会計・ファイナンス特論B DA309 企業評価論 I DA311 実証会計論 I DA313 財務分析論 I DA315 監査論 I DA317 税務会計論 I		DA302 財務コンサルティング論 II DA304 会計情報論 II DA310 企業評価論 II DA312 実証会計論 II DA314 財務分析論 II DA316 監査論 II DA318 税務会計論 II		
	F ファイナンス			DF201 証券投資論 I	DF202 証券投資論 II					
	I 産学連携									
	S 演習									
	D データ科学			ED201 統計調査論 I ED202 統計調査論 II			DI301 現代の証券 DS301 経営演習 I (1)	DS302 経営演習 I (2)	DS401 経営演習 II (1)	DS402 経営演習 II (2)
	E マーケティング学科専門科目	M マーケティング			EM301 消費者行動論 EM303 ブランド・マネジメント EM305 広告コミュニケーション EM307 マーケティングコミュニケーション EM309 サービスマーケティング EM311 ソーシャルマーケティング EM313 関係性マーケティング EM315 マーケティングリサーチ EM317 マーケティング特論A EM319 マーケティング特論B EM321 マーケティング特論C EM323 マーケティング特論D EM325 マーケティング特論E EM327 マーケティング特論F					
		C 商学			EC301 流通政策A EC303 流通政策B EC305 マクロマーケティングA EC307 Macromarketing B EC309 流通情報システム論A EC311 流通情報システム論B					

年度	学部等	学科等	コード
2018	経営学部	経営学科	BB

教育課程上の区分		配置年次							
大区分(卒業要件)	小区分(学修内容)	1年		2年		3年		4年	
F 経営学関連科目	E 経済学			FE201 経済原論Ⅰ FE203 経済政策論Ⅰ FE205 財政学Ⅰ FE207 金融論Ⅰ FE209 経済史概論Ⅰ FE211 国際経済学Ⅰ FE213 日本経済論Ⅰ	FE202 経済原論Ⅱ FE204 経済政策論Ⅱ FE206 財政学Ⅱ FE208 金融論Ⅱ FE210 経済史概論Ⅱ FE212 国際経済学Ⅱ FE214 日本経済論Ⅱ	FE301 国際開発経済論Ⅰ FE303 地域経済学Ⅰ FE305 産業組織論Ⅰ	FE302 国際開発経済論Ⅱ FE304 地域経済学Ⅱ FE306 産業組織論Ⅱ		
	J 法学					FJ301 民法A FJ303 民法B FJ305 民法C FJ307 民法D FJ309 商法A(Ⅰ) FJ311 商法B FJ313 商法C FJ315 経済法A FJ317 経済法B FJ319 労働法A FJ321 労働法B FJ323 国際法A FJ325 国際法B	FJ310 商法A(Ⅱ)		

年度	学部等	学科等	コード
2018	経営学部	マーケティング学科	BM

教育課程上の区分		配置年次								
大区分(卒業要件)	小区分(学修内容)	1年		2年		3年		4年		
A 専門基礎科目	M マーケティング	AM101 マーケティング・ビジネスⅠ	AM102 マーケティング・ビジネスⅡ	AM201 マーケティング論Ⅰ	AM202 マーケティング論Ⅱ					
B 共通専門科目	B 経営学	BB101 経営学基礎論A BB103 経営学基礎論B		BB201 経営史A BB203 経営史B BB205 経営管理論Ⅰ BB207 経営組織論Ⅰ BB209 企業情報戦略Ⅰ BB211 比較経営論A BB213 比較経営論B BB215 キャリアデザイン論Ⅰ BB217 事業戦略論Ⅰ	BB206 経営管理論Ⅱ BB208 経営組織論Ⅱ BB210 企業情報戦略Ⅱ BB216 キャリアデザイン論Ⅱ BB218 事業戦略論Ⅱ	BB301 企業法務Ⅰ	BB302 企業法務Ⅱ			
	D データ科学	BD101 経営データ分析のための基礎概論Ⅰ BD103 経営データ分析のための基礎概論Ⅱ BD105 情報ネットワークアタラン	BD102 経営データ分析のための基礎概論Ⅰ BD104 経営データ分析のための基礎概論Ⅱ							
	A 会計学	BA101 アカウンティング基礎Ⅰ	BA102 アカウンティング基礎Ⅱ	BA201 ビジネスゲームで学ぶ会計 BA203 企業分析論 BA205 財務会計論Ⅰ BA207 管理会計論Ⅰ BA209 中級簿記Ⅰ BA211 原簿計算論	BA206 財務会計論Ⅱ BA208 管理会計論Ⅱ BA210 中級簿記Ⅱ					
	C 商学	BC101 スポーツマネジメントⅠ	BC102 スポーツマネジメントⅡ	BC201 流通論Ⅰ BE201 ビジネス・エコノミクスA BE203 ビジネス・エコノミクスB	BC202 流通論Ⅱ	BC301 交通論Ⅰ	BC302 交通論Ⅱ			
	E 経済学	BE101 ミクロ経済学基礎Ⅰ	BE102 ミクロ経済学基礎Ⅱ							
	F ファイナンス	BF101 ファイナンス入門		BF201 ファイナンスⅠ	BF202 ファイナンスⅡ	BF301 コーポレートファイナンスⅠ BF303 リスク・マネジメントⅠ	BF302 コーポレートファイナンスⅡ BF304 リスク・マネジメントⅡ			
	K 国際文化			BK201 国際文化理解Ⅰ BI201 産業特論(現代の国際機関と経営) BI203 経営学部・インターンシップ BI205 スポーツ・アドレステレシー論 BI207 ショッピングセンター概論	BK202 国際文化理解Ⅱ			BI301 経営学部・インターンシップⅡ		
	S 演習			BS201 経営基礎演習Ⅰ	BS202 経営基礎演習Ⅱ					
	C グローバルビジネス科目	B 経営学			CB201 Organizational Management A CB203 Organizational Management B		CB301 国際経営論Ⅰ CB303 Entrepreneurial Management Ⅰ(英)	CB302 国際経営論Ⅱ CB304 Entrepreneurial Management Ⅱ(英)		
		M マーケティング					CM301 国際マーケティング CC301 Market and Business Environment CC303 Effective Negotiation CC305 Written Agreements CC307 Effective Speech CC309 Academic Presentation			
C 商学				CC201 国際貿易論Ⅰ CC203 国際ビジネス環境論A CC205 国際ビジネス環境論B	CC202 国際貿易論Ⅱ					
E 経済学				CE201 Globalization and Emerging Countries A CE203 Globalization and Emerging Countries B						
K 国際文化		CK101 企業英語特講Ⅰ CK103 コミュニケーション特論Ⅰ CK105 Global CommunicationⅠ CK107 International Business EnglishⅠ CK109 グローバル化・ビジネス研修	CK102 企業英語特講Ⅱ CK104 コミュニケーション特論Ⅱ CK106 Global CommunicationⅡ CK108 International Business EnglishⅡ			CK301 国際文化演習Ⅰ CK303 アメリカ文化論Ⅰ CK305 イギリス文化論Ⅰ CK307 ユダヤ文化とビジネスⅠ CK309 英語圏社会・文化研究Ⅰ CK311 世界の言語文化Ⅰ CK313 現代韓国社会事情Ⅰ	CK302 国際文化演習Ⅱ CK304 アメリカ文化論Ⅱ CK306 イギリス文化論Ⅱ CK308 ユダヤ文化とビジネスⅡ CK310 英語圏社会・文化研究Ⅱ CK312 世界の言語文化Ⅱ CK314 現代韓国社会事情Ⅱ			
I 産学連携						CI301 キャリア開発(コーチング入門) CI303 Career Development Introduction to Coaching				

年度	学部等	学科等	コード
2018	経営学部	マーケティング学科	BM

教育課程上の区分		配置年次					
大区分(卒業要件)	小区分(学修内容)	1年	2年	3年	4年		
D 経営学科専門科目	B 経営学		DB201 グローバル製品戦略Ⅰ DB202 グローバル製品戦略Ⅱ	DB301 サブスケッチマーケティングⅠA DB303 サブスケッチマーケティングⅠB DB305 経営戦略論Ⅰ DB307 事業創造戦略論 DB309 顧客創造戦略論 DB311 人的資源管理論Ⅰ DB313 組織心理学Ⅰ DB315 マネジメントサイエンスⅠ DB317 人間行動の多面的分析A DB319 人間行動の多面的分析B DB321 戦略・マネジメント特論A DB323 戦略・マネジメント特論B DB325 競争戦略論Ⅰ DB327 産業労働衛生論 DB329 ヘルスケア経営論 DB331 ペンチャー企業経営論	DB306 経営戦略論Ⅱ DB312 人的資源管理論Ⅱ DB314 組織心理学Ⅱ DB316 マネジメントサイエンスⅡ DB326 競争戦略論Ⅱ		
	D データ科学		DD201 サブスケッチ意思決定ⅠA DD203 サブスケッチ意思決定ⅠB	DD301 経営データ分析応用Ⅰ	DD302 経営データ分析応用Ⅱ		
	A 会計学		DA201 意思決定会計論 DA203 国際会計論Ⅰ DA205 制度会計論A DA207 制度会計論B DA209 戦略管理会計Ⅰ DA211 予算管理論 DA213 コストマネジメント	DA204 国際会計論Ⅱ DA210 戦略管理会計Ⅱ	DA301 財務・コンサルティングⅠ DA303 会計情報論Ⅰ DA305 会計・ファイナンス特論A DA307 会計・ファイナンス特論B DA309 企業評価論Ⅰ DA311 実証会計論Ⅰ DA313 財務分析論Ⅰ DA315 監査論Ⅰ DA317 税務会計論Ⅰ	DA302 財務コンサルティングⅡ DA304 会計情報論Ⅱ DA310 企業評価論Ⅱ DA312 実証会計論Ⅱ DA314 財務分析論Ⅱ DA316 監査論Ⅱ DA318 税務会計論Ⅱ	
	F ファイナンス		DF201 証券投資論Ⅰ	DF202 証券投資論Ⅱ			
	I 産学連携		DI301 現代の証券				
E マーケティング学科専門科目	D データ科学	ED101 統計学A ED103 統計学B	ED201 統計調査論Ⅰ	ED202 統計調査論Ⅱ			
	M マーケティング				EM301 消費者行動論 EM303 ブランド・マネジメント EM305 広告コミュニケーション EM307 マーケティング・コミュニケーション EM309 サービスマーケティング EM311 ソーシャルマーケティング EM313 関係性マーケティング EM315 マーケティング・リサーチ EM317 マーケティング特論A EM319 マーケティング特論B EM321 マーケティング特論C EM323 マーケティング特論D EM325 マーケティング特論E EM327 マーケティング特論F EM329 マーケティング・ワークショップA EM331 マーケティング・ワークショップB EM333 マーケティング・ワークショップC EM335 マーケティング・ワークショップD EM337 マーケティング・ワークショップE		

年度	学部等	学科等	コード
2018	経営学部	マーケティング学科	BM

教育課程上の区分		配置年次					
大区分(卒業要件)	小区分(学修内容)	1年	2年	3年	4年		
E マーケティング学科専門科目	C 商学			EC301 流通政策A EC303 流通政策B EC305 マクロマーケティングA EC307 Macromarketing B EC309 流通情報システム論A EC311 流通情報システム論B			
	S 演習			ES301 経営演習Ⅰ(1) ES302 経営演習Ⅰ(2)	ES401 経営演習Ⅱ(1)	ES402 経営演習Ⅱ(2)	
F 経営学関連科目	E 経済学		FE201 経済原論Ⅰ FE203 経済政策論Ⅰ FE205 財政学Ⅰ FE207 金融論Ⅰ FE209 経済史概論Ⅰ FE211 国際経済学Ⅰ FE213 日本経済論Ⅰ	FE202 経済原論Ⅱ FE204 経済政策論Ⅱ FE206 財政学Ⅱ FE208 金融論Ⅱ FE210 経済史概論Ⅱ FE212 国際経済学Ⅱ FE214 日本経済論Ⅱ	FE301 国際開発経済論Ⅰ FE303 地域経済学Ⅰ FE305 産業組織論Ⅰ	FE302 国際開発経済論Ⅱ FE304 地域経済学Ⅱ FE306 産業組織論Ⅱ	
	J 法学			FJ301 民法A FJ303 民法B FJ305 民法C FJ307 民法D FJ309 商法A(Ⅰ) FJ311 商法B FJ313 商法C FJ315 経済法A FJ317 経済法B FJ319 労働法A FJ321 労働法B FJ323 国際法A FJ325 国際法B	FJ310 商法A(Ⅱ)		

年度 2018	学部等 経営学部	学科等 外国語	コード BL
------------	-------------	------------	-----------

教育課程上の区分		配置年次							
大区分(卒業要件)	小区分(学修内容)	1年		2年		3年		4年	
L 第一外国語	L 英語	LL101 英語集中A		LL201 英語集中C					
		LL103 英語集中B		LL203 英語集中D					
		LL105 英語総合A		LL205 英語総合C					
		LL107 英語総合B		LL207 英語総合D					
	N 日本語	LN101 日本語初級A-1	LN102 日本語初級A-2	LN201 日本語中級A-1	LN202 日本語中級A-2	LN301 日本語上級-1	LN302 日本語上級-2		
		LN103 日本語初級B-1	LN104 日本語初級B-2	LN203 日本語中級B-1	LN204 日本語中級B-2				
		LN105 日本語初級C-1	LN106 日本語初級C-2						

年度 2018	学部等 理工学部	学科等 外国語	コード SL
------------	-------------	------------	-----------

教育課程上の区分		配置年次							
大区分(卒業要件)	小区分(学修内容)	1年		2年		3年		4年	
A 第一外国語	E English	AE101 English Core I-a	AE102 English Core I-b	AE205 English Core II-a	AE206 English Core II-b	AE311 English Comprehension A	AE312 English Comprehension B		
		AE103 English Core I-c	AE104 English Core I-d	AE207 English Core II-c	AE208 English Core II-d	AE313 English for Engineers A	AE314 English for Engineers B		
				AE209 Study Abroad A	AE210 Study Abroad B	AE315 Active Speaking Skills A	AE316 Active Speaking Skills B		
	J Japanese	AJ101 日本語初級 A-1	AJ102 日本語初級 A-2	AJ207 日本語中級 A-1	AJ208 日本語中級 A-2	AJ311 日本語上級 A-1	AJ312 日本語上級 A-2		
		AJ103 日本語初級 B-1	AJ104 日本語初級 B-2	AJ209 日本語中級 B-1	AJ210 日本語中級 B-2				
		AJ105 日本語初級 C-1	AJ106 日本語初級 C-2						

年度	学部等	学科等	コード
2018	理工学部	Basic Experiment	SB

教育課程上の区分		配置年次			
大区分(卒業要件)	小区分(学修内容)	1年	2年	3年	4年
A Basic Experiment	A 物理学総合	AA101 物理基礎実験 I	AA102 物理基礎実験 II		
	B 化学総合	AB103 化学基礎実験			
	C 電気工学総合	AC104 電気計測実験			
	D 機械工学総合	AD105 ものづくり実習			
	E 情報学総合	AE106 情報処理実習			

年度	学部等	学科等	コード
2018	理工学部	物理・数理学科 (物理科学コース)	SP

教育課程上の区分		配置年次			
大区分(卒業要件)	小区分(学修内容)	1年	2年	3年	4年
C 物理、数理、共通科目	A 力学	CA101 力学 I	CA102 力学 II		
	C 代数	CC101 線形代数 I A	CC102 線形代数 I B		
	D 解析	CD101 解析学 I A	CD102 解析学 I B		
	E 数学総合	CE106 数学演習 A	CE107 数学演習 B		
	F 物理・数理総合	CF101 基礎物理数学			
	G 化学総合	CG122 化学 I	CG123 化学 II	CG224 化学 III	CG325 物理・数理セミナー
	H 情報学基礎理論			CH201 コンピュータプログラミング演習	CH302 コンピュータアプリケーション演習
	I 哲学・倫理学				
	J インターンシップ				CJ306 インターンシップ
P 物理科学コース	A 力学		PA203 解析力学		
	B 連続体力学		PB201 波動	PB302 流れと変形	PB303 物体と地震の運動
	C 熱力学		PC203 熱物理学		
	D 電磁気学		PD203 物理学演習 II	PD204 電磁気学	PD306 電気・電子回路入門
	E 地球惑星科学		PE201 地学	PE202 地学実験	
	F 生物物理		PF204 生物学実験	PG201 物理計測基礎実験 I	PG202 物理計測基礎実験 II
			PG206 理工学実践演習 I	PG207 理工学実践演習 II	PG306 理工学実践演習 III
	G 物理科学総合				PG308 理工学実践演習 III
					PG309 理工学実践演習 IV
					PG318 物理実験学
					PG319 最新物理講義
					PG320 先端デバイス
					PG321 先端応用光科学
					PG326 理工学実践研究 I
					PG327 理工学実践研究 II
	H 代数		PH204 線形代数 II	PH205 線形代数 III	PH310 代数学 II
	I 解析		PH206 応用初等代数	PH207 応用初等代数演習	PH311 代数学 II 演習
J 幾何		PH208 線形代数 II 演習	PH209 代数学 I 演習	PI303 複素解析 I	
K 確率統計		PI201 解析学 II	PI202 解析学 II 演習	PI304 解析学 IV	
L 微分方程式		PJ201 幾何学 I	PJ202 幾何学 I 演習	PI305 解析学 IV 演習	
		PK201 確率統計	PL201 微分方程式 I	PI306 複素解析 I 演習	
		PL202 微分方程式 I 演習	PL203 微分方程式 II	PJ303 幾何学 II	
N 数学総合		PN201 物理学演習 I	PN202 物理学演習 II	PJ305 幾何学 III 演習	
		PN203 物理学 I	PN204 物理学 II	PK302 数理統計	
		PN208 集合と位相	PN209 計算数学	PK303 ファイナンス数学	
		PN210 集合と位相演習		PL303 微分方程式 II	
O 化学総合		PO203 基礎化学		PL304 微分方程式 III	
P 電気工学総合				PN411 応用数学 I	
				PN412 応用数学 II	
Q 機械工学総合			PQ201 サイバネティクス	PO401 量子化学 I	
R 経営システム総合				PO402 量子化学 II	
S 情報学総合				PO404 生命化学 E	
T 量子力学		PT201 物理学演習 IV	PT202 量子力学 I	PO405 無機化学 D	
				PP402 電子計算機工学 I	
				PP403 電子計算機工学 II	
				PP404 電気物性学 II	
				PP405 高電圧工学	
				PP406 集積回路工学	
				PP407 量子電子デバイス	
				PP408 半導体デバイス	
				PP409 電子物性工学	
				PP410 電磁波	
				PQ403 機器分析	
				PQ404 弾塑性工学	
				PR301 一般経営工学	
				PS401 情報数学 I	

年度	学部等	学科等	コード
2018	理工学部	物理・数理学科 (物理科学コース)	SP

教育課程上の区分		配置年次							
大区分(卒業要件)	小区分(学修内容)	1年		2年		3年		4年	
P 物理科学コース	U 統計力学					PU301 物理学演習Ⅲ PU303 統計力学Ⅱ	PU302 統計力学Ⅰ		
	V 素核・宇宙科学					PV301 相対論 PV303 原子核物理 PV305 宇宙物理Ⅱ	PV302 天体物理概論 PV304 宇宙物理Ⅰ PV306 場と粒子		
	W 物性物理学					PW301 固体物理 PW303 相関と物性	PW302 超伝導		

年度	学部等	学科等	コード
2018	理工学部	物理・数理学科 (数理サイエンスコース)	SP

教育課程上の区分		配置年次							
大区分(卒業要件)	小区分(学修内容)	1年		2年		3年		4年	
C 物理、数理、共通科目	A 力学	CA101 力学Ⅰ CA106 物理学演習Ⅰ	CA102 力学Ⅱ						
	C 代数	CC101 線形代数Ⅰ A CD101 解析学Ⅰ A	CC102 線形代数Ⅰ B CD102 解析学Ⅰ B						
	D 解析	CE101 数学演習A CE102 数学演習B							
	E 数学総合	CF101 基礎物理数学							
	F 物理・数理総合	CG107 化学Ⅰ	CG108 化学Ⅱ	CG209 化学Ⅲ		CG310 物理・数理セミナー			
	G 化学総合			CH201 コンピュータプログラミング演習		CH302 コンピュータアプリケーション演習	CH303 計算機基礎実習		
	H 情報学基礎理論								
	I 哲学・倫理学								CI401 科学哲学
	J インターンシップ					CJ301 インターンシップ			
	M 数理科学コース	B 数理科学総合			MB214 理工学実践演習Ⅰ	MB215 理工学実践演習Ⅱ	MB301 数理専門実験Ⅰ MB303 数理専門実験A MB305 理工学実践演習Ⅳ MB316 理工学実践研究Ⅰ	MB302 数理専門実験Ⅱ MB304 理工学実践演習Ⅲ MB317 理工学実践研究Ⅱ	MB406 数理論講Ⅰ MB408 数理論講A MB410 卒業研究Ⅱ MB412 理工学高度実践研究Ⅰ
A 代数				MA203 線形代数Ⅱ MA205 線形代数Ⅲ MA208 線形代数Ⅱ演習 MA210 代数学Ⅰ演習	MA204 応用初等代数 MA207 応用初等代数演習 MA209 代数学Ⅰ	MA311 代数学Ⅱ	MA312 代数学Ⅱ演習	MA413 代数学Ⅲ	
D 微分方程式				MD203 微分方程式Ⅰ MC203 解析学Ⅱ MC205 計算数学 MC209 解析学Ⅱ演習 MC211 解析学Ⅲ演習	MD205 微分方程式Ⅰ演習 MC204 集合と位相 MC206 解析学Ⅲ MC210 集合と位相演習	MD304 微分方程式Ⅱ MC307 複素解析Ⅰ MC312 解析学Ⅳ演習 MC314 複素解析Ⅱ	MD306 微分方程式Ⅲ MC308 解析学Ⅳ MC313 複素解析Ⅰ演習	MC415 解析学Ⅴ	
C 解析						MC316 一般機械工学 MC318 一般電気工学 MS302 数理統計	MC317 一般経営工学 MS303 ファイナンス数学		
S 確率統計				MS201 確率統計		MG301 幾何学Ⅱ MG305 幾何学Ⅲ演習	MG304 幾何学Ⅲ		
G 幾何				MG202 幾何学Ⅰ	MG203 幾何学Ⅰ演習			MG406 幾何学Ⅳ	
P 物理				MP201 電磁気学 MP203 波動 MP205 物理数学演習Ⅱ MP207 熱物理学	MP202 解析力学 MP204 物理数学Ⅱ MP206 量子力学Ⅰ	MP308 量子力学Ⅱ MP310 相対論 MP312 統計力学Ⅰ	MP309 量子力学Ⅲ MP311 固体物理		

年度	学部等	学科等	コード
2018	理工学部	化学・生命科学科	SC

教育課程上の区分		配属年次							
大区分(卒業要件)		1年		2年		3年		4年	
A 数学・共通科目 講義科目	小区分(学修内容)								
	E 化学総合	AE101 化学I	AE102 化学II	AE203 化学III					
	G 物理学総合	AG101 物理学I	AG102 物理学II	AG204 物理学II	AG205 現代物理学概論	AG303 物理数学I			
	I 代数	AI101 線形代数IA	AI102 線形代数IB	AI203 線形代数II	AI204 線形代数III	AI305 微分方程式I			
	J 解析	AJ101 解析学IA	AJ102 解析学IB	AJ203 解析学II		AJ304 複素解析I			
	M 情報学総合			AM201 サイバネティクス					
	N 機械工学総合			AN201 一般機械工学					
O 電気工学総合						AO301 一般電気工学			
P 経営システム総合						AP301 一般経営工学			
B 実験・演習科目(基礎実験を除く)	H 数学総合	BH101 数学演習A	BH102 数学演習B	BH203 解析学II演習	BH204 微分方程式I演習	BH307 複素解析I演習			
		BH105 物理数学演習I		BH206 物理数学演習II					
C 専門実験	A 物理化学			CA201 物理化学実験					
	B 無機化学			CB201 無機化学実験					
	C 有機化学					CC301 有機化学実験			
	D 生命科学			CD201 物質分析化学実験		CD302 生命科学実験I			
D 輪講・卒業研究	F 化学・生命科学総合					DF301 化学・生命科学輪講I		DF402 化学・生命科学輪講II	DF403 化学・生命科学輪講III
							DF404 化学・生命科学輪講A	DF405 卒業研究I	DF407 卒業研究A
E 選択必修 I	A 物理化学			EA202 物理化学A	EA203 物理化学B	EA305 量子化学I	EA306 量子化学II		
	B 無機化学	EB102 分析化学	EB103 無機化学A	EB204 無機化学B	EB205 無機化学C	EB306 無機化学D	EB307 電気化学		
	C 有機化学	EC102 有機化学A		EC203 有機化学B	EC204 有機化学C	EC305 有機化学D	EC306 生体有機化学		
	D 生命科学	ED104 生命科学A		ED203 生体分析化学	ED205 生命科学B	ED307 生命科学D	ED308 生命科学E		
F 選択必修 II	A 物理化学			FA208 数理化	FA210 溶液化学	FA309 立体化学			
	B 無機化学			FB208 無機材料化学		FB309 錯体化学			
	C 有機化学					FC308 高分子化学			
	D 生命科学			FD210 生命情報と生体分子	FD211 生体膜	FD309 生命科学の最前線	FD312 遺伝学		
						FD313 バイオインフォマティクス	FD314 代謝と調節		
						FD315 生物物理	FD316 バイオテクノロジー		
						FD317 ケミカルバイオロジー	FD318 生命科学実験II		
	E 化学総合			FE206 基礎化学		FE304 分子構造解析法	FE305 現代化学の最前線		
	F 化学・生命科学総合			FF210 化学情報処理実習		FF308 化学工学論		FF409 医薬品科学	
	G 物理学総合			FG206 基礎物理学					
	K 確率統計						FK301 応用確率統計		
S インターンシップ						FS301 インターンシップ			

年度	学部等	学科等	コード
2018	理工学部	電気電子工学科	SE

教育課程上の区分		配属年次								
大区分(卒業要件)		1年		2年		3年		4年		
A 数学・共通科目	小区分(学修内容)									
	F 物理学総合	AF101 物理学I	AF102 物理学II							
	G 数学総合	AG104 数学演習A	AG105 数学演習B	AG201 物理数学I	AG202 物理数学II	AG303 複素解析I	AG308 複素解析I演習			
	H 代数	AH101 線形代数IA	AH102 線形代数IB	AG207 物理数学演習II						
	I 解析	AI101 解析学IA	AI102 解析学IB	AI203 解析学II	AI204 解析学II演習	AH303 線形代数II	AH304 線形代数III			
	K 微分方程式			AK201 微分方程式I	AK202 微分方程式I演習					
	L 化学総合	AL101 化学I	AL102 化学II	AL203 化学III						
B 専門実験・実習・演習	E 電気電子工学総合			BE210 電気電子工学基礎実験I	BE211 電気電子工学基礎実験II	BE312 電気工学実験I	BE313 電気工学実験II			
	Q インターンシップ			BE214 理工学実践演習I	BE215 理工学実践演習II	BE316 理工学実践演習III	BE317 理工学実践演習IV			
C 輪講・卒業研究						BE318 理工学実践研究I	BE319 理工学実践研究II			
	E 電気電子工学総合							CE420 電気電子工学輪講A	CE421 電気電子工学輪講B	
D 専門科目	A 電子工学			DA201 基本電子回路I	DA202 基本電子回路II	DA303 アナログ電子回路	DA304 デジタル電子回路			
	B 制御工学					DA305 電子物性工学	DA306 半導体デバイス			
	C 電力工学					DA307 量子電子デバイス	DA308 電子計算機工学I			
	D 通信工学					DA309 電子計算機工学II	DB301 システム制御I	DB302 システム制御II		
	E 電気電子工学総合	DE128 電気回路I A及び演習	DE129 電気回路I B及び演習	DE233 電気磁気II及び演習	DE234 電気回路II	DE341 数値計算法	DE343 バイオエレクトロニクス		DD401 通信方式	DD402 通信工学及び法規
		DE130 電気電子工学概論	DE131 基礎電気数学	DE235 基礎電気物性学及び演習	DE236 電気物性学I	DE344 電気物性学II	DE345 電波工学I		DE448 電子応用	DE450 電気施設管理及び法規
		DE132 電気磁気I及び演習		DE237 電気電子計測	DE238 電気回路III	DE346 電波工学II	DE347 信号基礎理論	DE451 電気設計及び製図	DE453 集積回路工学	
				DE239 電磁波	DE240 電気数学	DE349 情報通信理論	DE352 光エレクトロニクス			
				DE242 情報処理	DE254 プログラミング言語					
	M 機械工学総合					DM301 一般機械工学				
	O 経営システム総合					DO301 一般経営工学				
	R 工業総合			DP202 工業概論A		DP301 職業指導				
	S モデル化技術					DR301 モデル化技術入門				
	T 分析技術			DS201 確率統計		DS302 分析技術入門				
	U 情報学基礎					DT301 言語理論とコンパイラ				
	V メカトロニクス			DU201 ロボット工学	DU202 自動制御と制御プログラミング	DU303 メカトロニクス				
	W 人間情報学			DV201 サイバネティクス						
X 情報テクノロジー総合			DW201 計算機概論	DW202 ソフトウェア設計						
Y 材料力学			DX201 材料力学I及び演習							
Z 計測工学			DY201 計測・電子回路							
0 物理学総合			DO201 現代物理学概論							

年度 2018	学部等 理工学部	学科等 機械創造工学科	コード SM
------------	-------------	----------------	-----------

教育課程上の区分		配置年次								
大区分(卒業要件)	小区分(学修内容)	1年		2年		3年		4年		
A 学科科目	A 力学	AA101 工業力学	AA102 工業動力学							
	B 流体力学			AB201 流体力学及び演習		AB302 粘性流体力学 AB304 圧縮性流体力学	AB303 流体機械			
	C 材料力学			AC201 材料力学及び演習	AC202 材料力学II	AC303 弾塑性工学	AC304 材料強度学			
	D 設計工学			AD201 基礎製図	AD202 機械要素設計	AD303 機械設計製図				
	E 熱力学			AE201 熱力学及び演習	AE202 応用熱力学	AE303 エネルギー-熱伝達	AE304 熱・物質移動論			
	F 機械加工					AF301 精密加工学				
	G 機械力学			AG201 機械力学及び演習		AG302 振動工学				
	H 計測工学			AH201 計測・電子回路						
	I 制御工学				AI202 自動制御と制御プログラミング	AI301 状態制御				
	J 生産工学					AJ301 工作機械				
	K 機械工学総合		AK103 機械創造工学実験演習		AK204 機械創造工学演習 AK206 ラボ・ワークAII	AK205 ラボ・ワークAI AK209 理工学実践演習II	AK301 機械創造工学実験I AK307 ラボ・ワークBI AK310 理工学実践演習IV AK312 機械創造工学演習II AK322 機械技術と社会	AK302 機械創造工学実験II AK308 ラボ・ワークBII AK311 機械創造工学演習III AK319 機能材料 AK321 計算力学	AK413 卒業研究I AK415 卒業研究A AK417 理工学高度実践研究II	AK414 卒業研究II AK416 理工学高度実践研究I
		L 情報学総合			AL201 計算機実習I	AL202 計算機実習II	AL303 情報テクノロジー実験I	AL304 情報テクノロジー実験II		
		M 物理学総合	AM105 物理学I	AM106 物理学II	AM201 物理数学I AM203 物理数学演習I AM207 現代物理学概論	AM202 物理数学II AM204 物理数学演習II				
		N 数学総合	AN101 数学演習A AO101 線形代数IA	AN102 数学演習B AO102 線形代数IB	AN203 応用数学I AO203 線形代数II	AN204 応用数学II AO204 線形代数III				
		O 代数								
		P 解析	AP101 解析学IA	AP102 解析学IB	AP203 解析学II	AP205 解析学II演習	AP304 複素解析I	AP306 複素解析II演習		
		R 微分方程式			AR201 微分方程式I	AR202 微分方程式II演習				
		S 化学総合	AS101 化学I	AS102 化学II	AS203 化学III					
		V インターンシップ					AV301 インターンシップ			
		W 分析技術	AW101 分析技術入門		AW202 確率統計		AW303 応用統計解析	AW304 多変量解析I		
	X メカトロニクス			AX202 ロボット工学		AX301 メカトロニクス				
	Y 最適化技術			AY201 組合せ最適化I		AY302 オペレーションズリサーチI	AY303 生産管理技術I			
	Z 情報学基礎	AZ101 情報数学I		AZ202 情報数学II		AZ303 データ構造とアルゴリズム				
	0 情報テクノロジー総合					A0301 計算機概論				
	1 計算基礎					A1301 数値モデル解析法				
	2 モデル化技術			A2101 モデル化技術入門	A2202 IE技術					
	3 経営システム工学総合					A3301 経営システム工学特別演習				
	B 選択科目	K 機械工学総合			BK223 理工学実践演習I		BK324 理工学実践演習III			
		W 分析技術					BW305 品質管理技術 BW307 実験計画法 BW309 企業経済学	BW306 経済性工学 BW308 多変量解析II		
		Y 最適化技術					BY304 生産管理技術II BY306 ゲーム理論	BY305 オペレーションズリサーチII		
		Z 情報学基礎					BZ304 人工知能論			
		0 情報テクノロジー総合			B0202 設計情報工学		B0303 ソフトウェア設計			
2 モデル化技術						B2303 システム工学応用 B3202 一般経営工学	B2304 コーポレートファイナンス	B2405 生産システム設計	B2406 経営管理論	
3 経営システム工学総合						B4301 アナログ電子回路 B5302 電磁波 B5304 ハイオコエレクトロニクス	B4302 デジタル電子回路 B5303 信号基礎理論	B5405 電子応用		
4 電子工学				B5201 一般電気工学		B6301 発電工学				
5 電気電子工学総合						B7302 ハイブリッドコンピュータシステム B7304 高度コミュニケーションシステム	B7303 認知心理学 B7305 生体情報工学	B6402 送配電工学		
6 電力工学						B8201 工業概論B				
7 人間情報学			B7201 サイバネティクス							
8 工業総合										

年度 2018	学部等 理工学部	学科等 経営システム工学科	コード SS
------------	-------------	------------------	-----------

教育課程上の区分		配置年次							
大区分(卒業要件)	小区分(学修内容)	1年		2年		3年		4年	
A 数学・共通科目	F 物理学総合	AF105 物理学 I	AF106 物理学 II	AF201 物理数学 I AF203 物理数学演習 I AF207 現代物理学概論	AF202 物理数学 II AF204 物理数学演習 II				
	G 数学総合	AG101 数学演習A	AG102 数学演習B						
	H 代数	AH101 線形代数 IA	AH102 線形代数 IB	AH203 線形代数 II	AH204 線形代数 III				
	I 解析	AI101 解析学 IA	AI102 解析学 IB	AI203 解析学 II	AI204 解析学 II 演習	AI305 複素解析 I	AI306 複素解析 II 演習		
	J 微分方程式			AJ201 微分方程式 I	AJ202 微分方程式 II 演習				
	K 化学総合	AK101 化学 I	AK102 化学 II	AK203 化学 III					
	B 専門実習	E 情報学総合			BE201 計算機実習 I	BE202 計算機実習 II	BE303 計算機実習 III		
C 専門実験	A 分析技術					CA301 分析技術実験			
	B モデル化技術					CB301 モデル化技術実験			
	C 最適化技術					CC301 最適化技術実験			
D 専門実験・実習・演習(その他)	D 経営システム工学総合					DD301 理工学実践研究 I DD302 理工学実践研究 II	DD303 理工学実践研究 III	DD304 理工学実践研究 IV	
	0 インターンシップ					DO301 インターンシップ	DO302 グローバルISE		
E 輪講・卒業研究	D 経営システム工学総合					ED303 経営システム工学演習 I	ED304 経営システム工学演習 II	ED405 卒業研究 I ED407 卒業研究A ED408 理工学高度実践研究 I	ED406 卒業研究 II ED409 理工学高度実践研究 II
F 第1科目群◎	A 分析技術	FA102 分析技術入門							
	B モデル化技術	FB102 モデル化技術入門							
	C 最適化技術	FC102 最適化技術入門							
G 第1科目群△	A 分析技術			GA203 確率統計 GA205 多変量解析 II	GA204 多変量解析 I				
	B モデル化技術			GB203 シミュレーション工学 GB205 システム工学基礎	GB204 意思決定論				
	C 最適化技術			GC203 アルゴリズム設計 GC205 組合せ最適化 I	GC204 オペレーションズリサーチ I				
				HA296 実験計画法	HA397 応用統計解析	HA398 経済性工学			
				HB206 IE技術	HB297 経営管理論	HB398 プログラミング技術			
H 第1科目群▲	B モデル化技術			HC206 生産管理技術 I	HC207 オペレーションズリサーチ II	HC398 組合せ最適化 II			
	C 最適化技術			HD210 経営システム工学の最先端 HD212 会計学	HD211 経営システム工学特別演習				
	D 経営システム工学総合								
I 第2科目群▽	A 分析技術					IA301 研究開発と製品設計 IA310 企業経済学	IA309 品質管理技術		
	B モデル化技術					IB310 コーポレートファイナンス IB399 生産システム設計	IB311 システム工学応用		
	C 最適化技術					IC309 ゲーム理論 IC391 地理情報処理	IC390 生産管理技術 II		

年度	学部等	学科等	コード
2018	理工学部	経営システム工学科	SS

教育課程上の区分		配置年次							
大区分(卒業要件)	小区分(学修内容)	1年		2年		3年		4年	
J 第2科目群▼	D 経営システム工学総合			JD213 理工学実践演習Ⅰ	JD214 理工学実践演習Ⅱ				
	M 機械工学総合			JM201 一般機械工学	JM202 材料科学概論				
	P 力学			JP201 工業力学					
	Q 情報学基礎	JQ191 情報数学Ⅰ		JQ202 情報数学Ⅱ					
	R 材料力学			JR201 材料力学Ⅰ及び演習					
	S 熱力学			JS201 熱力学及び演習					
	T 機械力学			JT201 機械力学及び演習					
	U 流体力学			JU201 流体力学及び演習					
	W 情報テクノロジー総合			JW201 計算機概論	JW202 ソフトウェア設計				
	Y 計算基礎			JY201 数値モデル解析法					
	Z メカトロニクス			JZ201 ロボット工学					
	0 人間情報学			JO201 <small>ヒューマンコンピュータインタラクション</small>					
	1 電気電子工学総合			JI201 一般電気工学		J1302 数値計算法	J1303 情報通信理論	J1404 電子応用	
	2 電子工学					J2301 電子計算機工学Ⅰ	J2302 電子計算機工学Ⅱ		
					J2303 デジタル電子回路				
K 選択科目	M 機械工学総合					KM303 機械技術と社会			
	P 力学			KP202 工業動力学					
	Q 情報学基礎					KQ303 言語理論とコンパイラ	KQ304 人工知能論		
	R 材料力学					KR302 材料強度学			
	W 情報テクノロジー総合				KW203 情報セキュリティ				
	Z メカトロニクス			KZ202 <small>自動制御と制御プログラミング</small>	KZ203 メカトロニクス				
	0 人間情報学			KO202 サイバネティクス		KO303 認知心理学	KO304 生体情報工学		
	3 計測工学			K3201 計測・電子回路					
	4 機械加工					K4301 精密加工学			

年度	学部等	学科等	コード
2018	理工学部	情報テクノロジー学科	SI

教育課程上の区分		配置年次							
大区分(卒業要件)	小区分(学修内容)	1年		2年		3年		4年	
A 数学・共通科目	A 情報学基礎	AA101 情報数学Ⅰ							
	J 物理学総合	AJ105 物理学Ⅰ	AJ106 物理学Ⅱ	AJ201 物理数学Ⅰ	AJ202 物理数学Ⅱ				
				AJ203 物理数学演習Ⅰ	AJ204 物理数学演習Ⅱ				
	K 数学総合	AK101 線形代数ⅠA	AK102 線形代数ⅠB	AK207 線形代数Ⅱ	AK208 線形代数Ⅲ	AK310 複素解析Ⅰ	AK314 複素解析Ⅰ演習		
		AK103 解析学ⅠA	AK104 解析学ⅠB	AK209 解析学Ⅱ	AK211 微分方程式Ⅰ				
P 化学総合	AP101 化学Ⅰ	AP102 化学Ⅱ	AP203 化学Ⅲ	AK212 解析学Ⅱ演習	AK213 微分方程式Ⅰ演習				
B 専門実験・実習・演習	D 図形科学								
	F 情報テクノロジー総合	BF101 情報テクノロジー体験演習		BF202 計算機実習	BF205 システム構築実習	BF304 情報総合プログラミング実習Ⅱ	BF306 情報テクノロジー実験Ⅰ		
				BF203 情報総合プログラミング実習Ⅰ	BF209 デジタルメディア設計演習	BF307 情報テクノロジー実験Ⅱ	BF308 情報テクノロジー実験Ⅲ		
	H 機械工学総合								
C 輪講・卒業研究	Q インターンシップ					BQ301 インターンシップ			
	F 情報テクノロジー総合					CF310 情報テクノロジー輪講Ⅰ	CF311 情報テクノロジー輪講Ⅱ	CF412 卒業研究Ⅰ	CF413 卒業研究Ⅱ
D 第1科目群	A 情報学基礎			DA203 情報数学Ⅱ	DA204 <small>データ構造とアルゴリズム</small>				
	B 計算基礎			DA202 情報テクノロジー数理解習	DA205 情報確率統計				
	C 人間情報学			DB201 数値モデル解析法					
	D 図形科学			DC201 <small>ヒューマンコンピュータインタラクション</small>					
	E メカトロニクス			DD202 図形情報科学					
	F 情報テクノロジー総合			DE201 ロボット工学	DE202 自動制御と制御プログラミング	DF321 情報ネットワーク	DF323 情報と社会		
	S 力学			DF217 計算機概論	DF219 ソフトウェア設計				
	T 最適化技術			DF220 マルチメディア工学	DF218 デジタルメディア設計				
	U 電気電子工学総合			DF222 情報セキュリティ					
	V 機械力学			DS201 工業力学					
	W 材料力学			DT201 組合せ最適化Ⅰ					
	X 熱力学			DT202 <small>オペレーティングシステムⅠ</small>	DT203 <small>オペレーティングシステムⅡ</small>				
	Y 流体力学					DU301 信号基礎理論			
	Z 分析技術			DX201 熱力学及び演習		DV301 機械力学及び演習			
	1 モデル化技術			DY201 流体力学及び演習		DW301 材料力学Ⅰ及び演習			
					DZ301 多変量解析Ⅰ	DZ302 多変量解析Ⅱ			
					DZ303 応用統計解析				
					D1301 システム工学応用				

年度	学部等	学科等	コード
2018	理工学部	情報テクノロジー学科	SI

教育課程上の区分		配属年次							
大区分(卒業要件)	小区分(学修内容)	1年		2年		3年		4年	
E 第2科目群	A 情報学基礎					EA306 音響理論とコンパイル EA308 知的データベース	EA307 人工知能論		
	C 人間情報学			EC205 サイバネティクス		EC302 認知心理学 EC304 生体情報工学 EE303 メカトロニクス	EC303 高度ヒューマンインタフェース		
	E メカトロニクス								
	F 情報テクノロジー総合								
	I 経営システム総合			EI201 会計学		EI302 経営システム工学の最先端			
	T 最適化技術			ET204 生産管理技術 I		ET305 地理情報処理			
	V 機械力学					EV302 振動工学			
	Z 分析技術					EZ304 経済性工学 EZ306 品質管理技術	EZ305 企業経済学 EZ307 実験計画法		
	1 モデル化技術			E1204 意思決定論		E1301 モデル化技術入門 E1303 システム工学基礎	E1302 コーポレートファイナンス E1304 プログラミング技術		
	2 制御工学					E2301 状態制御			
	4 計測工学			E4201 計測・電子回路					
	5 電子工学					E5301 デジタル電子回路	E5302 電子計算機工学 II		
F 選択科目	F 情報テクノロジー総合			FF224 情報社会及び情報倫理	FF225 情報と職業	FF326 理工学実践演習 III	FF327 理工学実践演習 IV		
	H 機械工学総合			FH202 材料科学概論	FH204 一般機械工学	FH301 機械技術と社会	FH303 計算力学		
	K 数学総合			FK215 応用数学 I	FK216 応用数学 II				
	S 力学			FS202 工業動力学					
	T 最適化技術								
	U 電気電子工学総合			FU202 一般電気工学				FT406 ゲーム理論	
	Z 分析技術			FZ208 分析技術入門		FZ310 研究開発と製品設計			
	1 モデル化技術					F6301 精密加工学	F1403 生産システム設計	F1405 経営管理論	
	6 機械加工								
	7 経営システム工学総合			F7201 経営システム工学特別講義	F7202 一般経営工学				

年度	学部等	学科等	コード
2018	国際政治経済学部	国際政治学科 政治外交・安全保障コース	IP

教育課程上の区分		配属年次								
大区分(卒業要件)	小区分(学修内容)	1年		2年		3年		4年		
A A群科目	Z 演習	AZ101 入門セミナー I	AZ102 入門セミナー II	AZ200 プリゼム						
	P 政治学	AP111 政治学原論 I	AP112 政治学原論 II	AP211 政治過程論 I	AP212 政治過程論 II					
	I 国際関係			AI211 国際政治学 I	AI212 国際政治学 II					
	J 国内関係	AJ111 憲法と政治制度 I AE110 経済学入門(ミクロ) AE120 経済学入門(マクロ) AE130 国際経済学入門	AJ112 憲法と政治制度 II		AI251 国際政治経済学 I AI291 国際法 I A	AI252 国際政治経済学 II AI292 国際法 I B				
	E 国際経済関連	AE141 開発経済学入門 I	AE142 開発経済学入門 II							
	C 国際コミュニケーション関連	AC111 国際コミュニケーション概論 I	AC112 国際コミュニケーション概論 II							
B B群科目	Z 演習			BP221 政治学方法論 I	BP222 政治学方法論 II	BZ301 演習 I A	BZ302 演習 I B	BZ401 演習 II A	BZ402 演習 II B	
	P 政治学					BP330 政治思想史 BP341 比較政治論 I	BP342 比較政治論 II			
	I 国際関係			BI241 国際関係史 I BI251 国際機構論 I	BI242 国際関係史 II BI252 国際機構論 II	BI311 国際政治理論 I BI321 国際安全保障論 I BI331 戦略論 I BI341 外交史 I	BI312 国際政治理論 II BI322 国際安全保障論 II BI332 戦略論 II BI342 外交史 II			
	R 地域関係					BI380 マスメディアと国際政治 BI391 国際法 II A BI393 国際私法 I	BI392 国際法 II B BI394 国際私法 II			
	J 国内関係			BJ211 近現代・日本の政治 I BJ220 日本の外交 BJ230 日本の防衛	BJ212 近現代・日本の政治 II	BR310 アジア政治論 BR320 朝鮮半島政治論 BR331 中国政治論 I BR341 アジア太平洋政治論 I BR350 アメリカ政治論 BR361 ヨーロッパ政治論 I BR369 欧州国際政治論 BR370 ロシア・中央アジア政治論	BR332 中国政治論 II BR342 アジア太平洋政治論 II BR359 アメリカ法概論 BR362 ヨーロッパ政治論 II			
	X その他	BX110 インターンシップ BX120 海外実地研修 BX130 国際交流実務論 BX140 海外ボランティア実習 BX150 国連セミナー BX191 国際政治学特講 I		BX211 International Studies I BX213 International Studies III	BX212 International Studies II BX214 International Studies IV		BX311 日本政治論 I BX321 日本外交論 I	BX312 日本政治論 II BX322 日本外交論 II		
	E 国際経済関連			BE211 金融 I BE220 経済情報分析入門	BE212 金融 II	BX340 日本の環境政策 BX391 民法概論 I	BX392 民法概論 II			
	G Global Studies Program			BG211 Global Studies I BG213 Global Studies III BG215 Global Studies V BG217 Global Studies VII BG291 Global Studies 特別講義 I	BG212 Global Studies II BG214 Global Studies IV BG216 Global Studies VI BG218 Global Studies VIII BG292 Global Studies 特別講義 II		BX392 国際政治学特講 II BX394 国際政治学特講 IV	BX393 国際政治学特講 III		
							BE311 国際金融 I	BE312 国際金融 II		
							BE391 国際経済法 I	BE392 国際経済法 II		

年度 2018	学部等 国際政治経済学部	学科等 国際政治学科 政治外交・安全保障コース	コード IP
------------	-----------------	----------------------------	-----------

教育課程上の区分		配置年次							
大区分(卒業要件)	小区分(学修内容)	1年		2年		3年		4年	
C 群科目	R 地域関係	CR110 アジア圏概論 CR140 環太平洋圏概論 CR150 米州圏概論 CR160 ヨーロッパ圏概論 CR180 中東圏概論 CR190 アフリカ圏概論		CR211 地域研究(アジア経済)Ⅰ CR250 地域研究(アジア経済) CR260 地域研究(EU経済)	CR212 地域研究(アジア経済)Ⅱ				
	F 外国語講読					CF311 フランス語文庫精読Ⅰ CF321 ドイツ語文庫精読Ⅰ CF331 スペイン語文庫精読Ⅰ CF341 中国語文庫精読Ⅰ CF351 ロシア語文庫精読Ⅰ	CF312 フランス語文庫精読Ⅱ CF322 ドイツ語文庫精読Ⅱ CF332 スペイン語文庫精読Ⅱ CF342 中国語文庫精読Ⅱ CF352 ロシア語文庫精読Ⅱ		

年度 2018	学部等 国際政治経済学部	学科等 国際政治学科 グローバル・ガバナンスコース	コード IG
------------	-----------------	------------------------------	-----------

教育課程上の区分		配置年次								
大区分(卒業要件)	小区分(学修内容)	1年		2年		3年		4年		
A 群科目	Z 演習	AZ101 入門セミナーⅠ	AZ102 入門セミナーⅡ	AZ200 プリゼミ						
	P 政治学	AP111 政治学原論Ⅰ	AP112 政治学原論Ⅱ							
	I 国際関係			AI211 国際政治学Ⅰ AI221 国際政治経済学Ⅰ AI251 グローバル・ガバナンス概論Ⅰ AI291 国際法ⅠA	AI212 国際政治学Ⅱ AI222 国際政治経済学Ⅱ AI252 グローバル・ガバナンス概論Ⅱ AI292 国際法ⅠB					
	J 国内関係	AJ111 憲法と政治制度Ⅰ	AJ112 憲法と政治制度Ⅱ							
	E 国際経済関連	AE110 経済学入門(ミクロ) AE120 経済学入門(マクロ) AE130 国際経済学入門 AE141 開発経済学入門Ⅰ	AE142 開発経済学入門Ⅱ							
	C 国際コミュニケーション関連	AC111 国際コミュニケーション概論Ⅰ	AC112 国際コミュニケーション概論Ⅱ							
	P 政治学					BZ301 演習ⅠA BP330 国際正義論	BZ302 演習ⅠB	BZ401 演習ⅡA	BZ402 演習ⅡB	
B 群科目	I 国際関係			BI241 国際関係史Ⅰ BI251 国際機構論Ⅰ	BI242 国際関係史Ⅱ BI252 国際機構論Ⅱ		BI311 国際制度論Ⅰ BI321 国際安全保障論Ⅰ BI331 戦略論Ⅰ BI341 外交史Ⅰ BI351 国際平和協力論Ⅰ BI359 国連研究 BI361 国際行政論Ⅰ BI371 国際環境論Ⅰ	BI312 国際制度論Ⅱ BI322 国際安全保障論Ⅱ BI332 戦略論Ⅱ BI342 外交史Ⅱ BI352 国際平和協力論Ⅱ BI362 国際行政論Ⅱ BI372 国際環境論Ⅱ		
	R 地域関係					BI281 国際NGO論Ⅰ BI282 国際NGO論Ⅱ	BI391 国際法ⅡA BI393 国際私法Ⅰ	BI392 国際法ⅡB BI394 国際私法Ⅱ		
	J 国内関係			BJ211 近現代・日本の政治Ⅰ BJ220 日本の外交 BJ230 日本の防衛	BJ212 近現代・日本の政治Ⅱ		BR310 アジア政治論 BR320 朝鮮半島政治論 BR331 中国政治論Ⅰ BR341 アジア太平洋政治論Ⅰ BR350 アメリカ政治論 BR361 ヨーロッパ政治論Ⅰ BR369 欧州国際政治論 BR370 ロシア・中央アジア政治論	BR332 中国政治論Ⅱ BR342 アジア太平洋政治論Ⅱ BR359 アメリカ法概論 BR362 ヨーロッパ政治論Ⅱ		
	X その他	BX110 インターンシップ BX120 海外実地研修 BX130 国際交流実務論 BX140 海外ボランティア実習 BX150 国連セミナー BX191 国際政治学特講Ⅰ		BX211 International StudiesⅠ BX213 International StudiesⅢ	BX212 International StudiesⅡ BX214 International StudiesⅣ		BJ391 民法概論Ⅰ BJ392 民法概論Ⅱ			
	E 国際経済関連			BE211 金融Ⅰ BE220 経済情報分析入門 BE241 開発経済学Ⅰ	BE212 金融Ⅱ BE242 開発経済学Ⅱ		BX392 国際政治学特講Ⅱ BX394 国際政治学特講Ⅳ	BX393 国際政治学特講Ⅲ		
						BE311 国際金融Ⅰ BE391 国際経済法Ⅰ	BE312 国際金融Ⅱ BE392 国際経済法Ⅱ			

年度 2018	学部等 国際政治経済学部	学科等 国際政治学科 グローバル・ガバナンスコース	コード IG
------------	-----------------	------------------------------	-----------

教育課程上の区分		配置年次							
大区分(卒業要件)	小区分(学修内容)	1年		2年		3年		4年	
B 群科目	G Global Studies Program			BG211 Global Studies I	BG212 Global Studies II				
				BG213 Global Studies III	BG214 Global Studies IV				
				BG215 Global Studies V	BG216 Global Studies VI				
				BG217 Global Studies VII	BG218 Global Studies VIII				
				BG291 Global Studies 特別講義 I	BG292 Global Studies 特別講義 II				
C 群科目	R 地域関係	CR110 アジア圏概論		CR211 地域研究(アジア経済) I	CR212 地域研究(アジア経済) II				
		CR140 環太平洋圏概論							
		CR150 米州圏概論		CR250 地域研究(アフリカ経済)					
		CR160 ヨーロッパ圏概論		CR260 地域研究(EU経済)					
		CR180 中東圏概論							
		CR190 アフリカ圏概論							
	F 外国語講読					CF311 フランス語文獻精読 I	CF312 フランス語文獻精読 II		
						CF321 ドイツ語文獻精読 I	CF322 ドイツ語文獻精読 II		
						CF331 スペイン語文獻精読 I	CF332 スペイン語文獻精読 II		
						CF341 中国語文獻精読 I	CF342 中国語文獻精読 II		
						CF351 ロシア語文獻精読 I	CF352 ロシア語文獻精読 II		

年度 2018	学部等 国際政治経済学部	学科等 国際経済学科 国際経済政策コース	コード IE
------------	-----------------	-------------------------	-----------

教育課程上の区分		配置年次							
大区分(卒業要件)	小区分(学修内容)	1年		2年		3年		4年	
A 群科目	Z 演習	AZ101 入門セミナー I	AZ102 入門セミナー II	AZ200 プリゼミ					
	T 経済(理論分析)	AT110 経済学入門(ミクロ)		AT211 ミクロ経済学 I	AT212 ミクロ経済学 II				
		AT120 経済学入門(マクロ)		AT213 マクロ経済学 I	AT214 マクロ経済学 II				
		AT130 経済発展史							
		AT140 情報と組織の経済学							
	S 経済(データ分析)	AS151 社会科学のための数学入門 I	AS152 社会科学のための数学入門 II						
		AS153 社会科学のための数学入門 I	AS154 社会科学のための数学入門 II						
	O 応用経済	AO110 国際経済学入門		AO211 金融 I	AO212 金融 II				
		AO120 国際経済政策入門							
	D 開発経済	AD141 開発経済学入門 I	AD142 開発経済学入門 II						
B ビジネス・ファイナンス	AB110 国際ビジネス入門								
P 国際政治関連	AP111 政治学原論 I	AP112 政治学原論 II	AP211 国際政治学 I	AP212 国際政治学 II					
	AP113 国際政治学 I	AP213 国際政治学 I	AP214 国際政治学 II						
C 国際コミュニケーション関連	AC111 国際コミュニケーション概論 I	AC112 国際コミュニケーション概論 II							
B 群科目	Z 演習			BT211 ゲーム理論 I	BT212 ゲーム理論 II	BZ301 演習 I A	BZ302 演習 I B	BZ401 演習 II A	BZ402 演習 II B
	T 経済(理論分析)					BT311 ミクロ経済学中級 I	BT312 ミクロ経済学中級 II		
						BT313 マクロ経済学中級 I	BT314 マクロ経済学中級 II		
	S 経済(データ分析)			BS220 経済情報分析入門		BS311 計量経済学 I	BS312 計量経済学 II		
	O 応用経済			BO211 平和経済学 I	BO212 平和経済学 II	BO311 財政論 I	BO312 財政論 II		
				BO213 国際貿易 I	BO214 国際貿易 II	BO313 国際経済 A	BO314 国際経済 B		
				BO215 国際環境経済学 I	BO216 国際環境経済学 II	BO315 国際労働経済学 I	BO316 国際労働経済学 II		
				BO250 日本経済		BO317 国際金融 I	BO318 国際金融 II		
				BO260 中国経済		BO321 国際経済法 I	BO322 国際経済法 II		
						BO350 特選(日本経済と国際ビジネス)			
D 開発経済			BD211 開発経済学 I	BD212 開発経済学 II	BD350 国際開発政策				
					BD360 開発金融				
B ビジネス・ファイナンス	BB111 簿記論 I A	BB112 簿記論 I B	BB211 簿記論 II A	BB212 簿記論 II B	BB311 多国籍企業論 I	BB312 多国籍企業論 II	BB331 国際産業論 I	BB332 国際産業論 II	
			BB231 国際産業論 I		BB350 ビジネス・エコノミクス				
X その他	BX110 インターンシップ		BX211 International Studies I	BX212 International Studies II					
	BX120 海外実地研修		BX213 International Studies III	BX214 International Studies IV					
	BX130 国際交流実務論								
	BX140 海外ボランティア実習								
	BX191 国際経済学特講 I								
P 国際政治関連					BX392 国際経済学特講 II				
					BP311 国際制度論 I	BP312 国際制度論 II			
					BP360 国際行政論				
G Global Studies Program			BG211 Global Studies I	BG212 Global Studies II					
			BG213 Global Studies III	BG214 Global Studies IV					
			BG215 Global Studies V	BG216 Global Studies VI					
			BG217 Global Studies VII	BG218 Global Studies VIII					
			BG291 Global Studies 特別講義 I	BG292 Global Studies 特別講義 II					

年度	学部等	学科等	コード
2018	国際政治経済学部	国際経済学科 国際経済政策コース	IE

教育課程上の区分		配置年次							
大区分(卒業要件)	小区分(学修内容)	1年		2年		3年		4年	
C 群科目	R 地域関係	CR110 アジア圏概論		CR211 地域研究(アジア経済)Ⅰ	CR212 地域研究(アジア経済)Ⅱ				
	F 外国書講読	CR140 環太平洋圏概論		CR250 地域研究(アジア経済)		CF311 フランス語文献精読Ⅰ	CF312 フランス語文献精読Ⅱ		
		CR150 米州圏概論		CR260 地域研究(EU)経済		CF321 ドイツ語文献精読Ⅰ	CF322 ドイツ語文献精読Ⅱ		
		CR160 ヨーロッパ圏概論				CF331 スペイン語文献精読Ⅰ	CF332 スペイン語文献精読Ⅱ		
		CR180 中東圏概論				CF341 中国語文献精読Ⅰ	CF342 中国語文献精読Ⅱ		
		CR190 アフリカ圏概論				CF351 ロシア語文献精読Ⅰ	CF352 ロシア語文献精読Ⅱ		

年度	学部等	学科等	コード
2018	国際政治経済学部	国際経済学科 国際ビジネスコース	IB

教育課程上の区分		配置年次							
大区分(卒業要件)	小区分(学修内容)	1年		2年		3年		4年	
A 群科目	Z 演習	AZ101 入門セミナーⅠ	AZ102 入門セミナーⅡ	AZ200 プリゼム					
	T 経済(理論分析)	AT110 経済学入門(ミクロ)		AT211 ミクロ経済学Ⅰ	AT212 ミクロ経済学Ⅱ				
		AT120 経済学入門(マクロ)		AT213 マクロ経済学Ⅰ	AT214 マクロ経済学Ⅱ				
		AT130 経済発展史							
		AT140 情報と組織の経済学							
	S 経済(データ分析)	AS151 社会科学のための統計学入門Ⅰ	AS152 社会科学のための統計学入門Ⅱ						
		AS153 社会科学のための数学入門Ⅰ	AS154 社会科学のための数学入門Ⅱ						
	O 応用経済	AO110 国際経済学入門		AO211 金融Ⅰ	AO212 金融Ⅱ				
		AO120 国際経済政策入門							
	B ビジネス・ファイナンス	AB110 国際ビジネス入門							
P 国際政治関連	AP111 政治学原論Ⅰ	AP112 政治学原論Ⅱ	AP211 国際政治学Ⅰ	AP212 国際政治学Ⅱ					
	AP213 国際政治経済学Ⅰ	AP214 国際政治経済学Ⅱ							
C 国際コミュニケーション関連	AC111 国際コミュニケーション概論Ⅰ	AC112 国際コミュニケーション概論Ⅱ							
B 群科目	Z 演習					BZ301 演習ⅠA	BZ302 演習ⅠB	BZ401 演習ⅡA	BZ402 演習ⅡB
	T 経済(理論分析)			BT211 ゲーム理論Ⅰ	BT212 ゲーム理論Ⅱ	BT311 ミクロ経済学中級Ⅰ	BT312 ミクロ経済学中級Ⅱ		
					BT313 マクロ経済学中級Ⅰ	BT314 マクロ経済学中級Ⅱ			
	S 経済(データ分析)			BS220 経済情報分析入門		BS311 計量経済学Ⅰ	BS312 計量経済学Ⅱ		
				BO213 国際貿易Ⅰ	BO214 国際貿易Ⅱ	BO313 国際経済A	BO314 国際経済B		
	O 応用経済			BO315 国際労働経済学Ⅰ		BO316 国際労働経済学Ⅱ			
				BO317 国際金融Ⅰ		BO318 国際金融Ⅱ			
				BO319 国際経済法Ⅰ		BO320 国際経済法Ⅱ			
						BO350 特講(日本経済と証券ビジネス)			
	B ビジネス・ファイナンス	BB111 簿記論ⅠA	BB112 簿記論ⅠB	BB231 国際産業論Ⅰ	BB214 ビジネス・マネジメントⅡ	BB311 多国籍企業論Ⅰ	BB332 国際産業論Ⅱ		
			BB213 ビジネス・マネジメントⅠ	BB216 グローバル経営論Ⅱ	BB313 経営情報Ⅰ	BB312 多国籍企業論Ⅱ			
			BB215 グローバル経営論Ⅰ	BB218 国際マーケティング論Ⅱ	BB314 経営情報Ⅱ	BB316 コーポレートファイナンスⅡ			
			BB217 国際マーケティング論Ⅰ	BB220 国際会計Ⅱ	BB315 コーポレートファイナンスⅠ	BB318 マーケットとファイナンスⅡ			
			BB219 国際会計Ⅰ		BB317 マーケットとファイナンスⅠ				
X その他	BX110 インターンシップ		BX211 International StudiesⅠ	BX212 International StudiesⅡ					
	BX120 海外実地研修		BX213 International StudiesⅢ	BX214 International StudiesⅣ					
	BX130 国際交流実務論								
	BX140 海外ボランティア実習								
	BX191 国際経済学特講Ⅰ					BX392 国際経済学特講Ⅱ			
C 国際コミュニケーション関連						BC307 国際ビジネスコミュニケーションⅠ	BC308 国際ビジネスコミュニケーションⅡ		
						BC340 広告コミュニケーション論			
						BC350 パブリック・リレーションズ			
G Global Studies Program			BG211 Global StudiesⅠ	BG212 Global StudiesⅡ					
			BG213 Global StudiesⅢ	BG214 Global StudiesⅣ					
			BG215 Global StudiesⅤ	BG216 Global StudiesⅥ					
			BG217 Global StudiesⅦ	BG218 Global StudiesⅧ					
			BG291 Global Studies 特別講義Ⅰ	BG292 Global Studies 特別講義Ⅱ					

年度	学部等	学科等	コード
2018	国際政治経済学部	国際経済学科 国際ビジネスコース	IB

C 群科目	R 地域関係	CR110 アジア圏概論 CR140 環太平洋圏概論 CR150 米州圏概論 CR160 ヨーロッパ圏概論 CR180 中東圏概論 CR190 アフリカ圏概論	CR211 地域研究(アジア経済) I CR212 地域研究(アジア経済) II CR250 地域研究(アフリカ経済) CR260 地域研究(EU経済)	CF311 フランス語文献精読 I CF321 ドイツ語文献精読 I CF331 スペイン語文献精読 I CF341 中国語文献精読 I CF351 ロシア語文献精読 I	CF312 フランス語文献精読 II CF322 ドイツ語文献精読 II CF332 スペイン語文献精読 II CF342 中国語文献精読 II CF352 ロシア語文献精読 II
	F 外国書講読				

年度	学部等	学科等	コード
2018	国際政治経済学部	国際コミュニケーション学科 国際コミュニケーションコース	IC

教育課程上の区分		配置年次							
大区分(卒業要件)	小区分(学修内容)	1年		2年		3年		4年	
A A群科目	Z 演習	AZ101 入門セミナー I	AZ102 入門セミナー II						
	C コミュニケーション	AC111 国際コミュニケーション概論 I AC121 コミュニケーション論 I	AC112 国際コミュニケーション概論 II	AC210 コミュニケーション研究法の基礎	AC222 コミュニケーション論 II	AC311 Intercultural Literacy I AC320 Intercultural Communication	AC312 Intercultural Literacy II		
	A 文化	AA100 Culture and Society	AA111 比較文化概論 I		AA212 比較文化概論 II				
	L 言語	AL111 言語科学概論 I AL120 社会言語学入門	AL112 言語科学概論 II			AL310 言語の仕組み			
	P 国際政治関連	AP111 政治学原論 I	AP112 政治学原論 II	AP211 国際政治学 I AP213 国際政治経済学 I	AP212 国際政治学 II AP214 国際政治経済学 II				
	E 国際経済関連	AE110 経済学入門(ミクロ) AE120 経済学入門(マクロ) AE130 国際経済学入門							
B B群科目	Z 演習					BZ301 演習 I A	BZ302 演習 I B	BZ401 演習 II A	BZ402 演習 II B
	C コミュニケーション	BC130 現代社会とジャーナリズム		BC211 コミュニケーション論Ⅲ	BC212 コミュニケーション論Ⅳ	BC311 通訳の理論と実践 I BC313 通訳の理論と実践 II BC315 実践・通訳コミュニケーション I BC321 国際ビジネスコミュニケーションⅢ BC323 Business Communication I BC325 Negotiation Communication BC327 Media Communication BC340 広告コミュニケーション論 パブリック・リレーションズ BC350	BC312 通訳の理論と実践 II BC314 通訳の理論と実践 II BC316 実践・通訳コミュニケーション II BC322 国際ビジネスコミュニケーションⅣ BC324 Business Communication II BC326 Conference Communication BC328 Cyber Communication		
	A 文化			BA211 宗教文化論 I BA221 日本文化論 BA223 イギリス文化論 BA225 ドイツ文化論 BA227 イスラム文化論 BA229 イベロ・アフリカ文化論	BA212 宗教文化論 II BA222 韓国文化論 BA224 フランス文化論 BA226 スペイン文化論 BA228 アングロ・アフリカ文化論	BA321 ヨーロッパ文化論 I BA323 中国文化論 BA340 文化と歴史観 BA350 インター・カルチュラル・リレーションズ	BA322 ヨーロッパ文化論 II BA324 ロシア東欧文化論		
	L 言語			BL210 社会言語学特講		BL311 英語発音の理論と演習 I BL321 認知言語学入門 BL323 言語の普遍性 BL325 Structure of Japanese	BL312 英語発音の理論と演習 II BL322 言語形式と意味 BL324 多国籍社会とコミュニケーション		
	M 方法論			BM211 コミュニケーションの量的分析法 I BM230 コミュニケーションによる調査データの解析	BM213 コミュニケーションの量的分析法 II	BM311 コミュニケーションの量的分析法 III BM330 アンケート・社会調査の方法	BM313 コミュニケーションの量的分析法 IV		
	X その他	BX110 インターンシップ BX120 海外実地研修 BX130 国際交流実務論 BX140 海外ボランティア実習		BX211 International Studies I BX213 International Studies III	BX212 International Studies II BX214 International Studies IV	BX310 社会情報学 BX391 異文化コミュニケーション特講 I BX392 異文化コミュニケーション特講 II			
	P 国際政治関連			BP290 紛争解決と法		BP380 マスメディアと国際政治			
	E 国際経済関連	BE110 情報と組織の経済学							
	G Global Studies Program			BG211 Global Studies I BG213 Global Studies III BG215 Global Studies V BG217 Global Studies VII BG291 Global Studies 特別講義 I	BG212 Global Studies II BG214 Global Studies IV BG216 Global Studies VI BG218 Global Studies VIII BG292 Global Studies 特別講義 II				

年度	学部等	学科等	コード
2018	国際政治経済学部	国際コミュニケーション学科 国際コミュニケーションコース	IC

教育課程上の区分		配置年次							
大区分(卒業要件)	小区分(学修内容)	1年		2年		3年		4年	
C 群科目	R 地域関係	CR110 アジア圏概論		CR211 地域研究(アジア経済)Ⅰ	CR212 地域研究(アジア経済)Ⅱ				
	F 外国書講読	CR140 環太平洋圏概論 CR150 米州圏概論 CR160 ヨーロッパ圏概論 CR180 中東圏概論 CR190 アフリカ圏概論		CR250 地域研究(アフリカ経済) CR260 地域研究(EU経済)			CF311 フランス語文献精読Ⅰ CF321 ドイツ語文献精読Ⅰ CF331 スペイン語文献精読Ⅰ CF341 中国語文献精読Ⅰ CF351 ロシア語文献精読Ⅰ	CF312 フランス語文献精読Ⅱ CF322 ドイツ語文献精読Ⅱ CF332 スペイン語文献精読Ⅱ CF342 中国語文献精読Ⅱ CF352 ロシア語文献精読Ⅱ	

年度	学部等	学科等	コード
2018	国際政治経済学部	外国語	1L

教育課程上の区分		配置年次								
大区分(卒業要件)	小区分(学修内容)	1年		2年		3年		4年		
A 群科目	E Reading/Writing Skills based classes	AE101 Reading I AE111 Writing I AE121 Media Literacy AE131 Public Speaking	AE102 Reading II AE112 Writing II AE122 Internet English AE132 Debate & Discussion	AE201 Reading III AE211 Writing III AE221 Academic English	AE202 Reading IV AE212 Writing IV AE222 English Seminar					
B 群科目	F フランス語			BF201 フランス語ⅡA-1	BF202 フランス語ⅡA-2					
	D ドイツ語			BD201 ドイツ語ⅡA-1	BD202 ドイツ語ⅡA-2					
	S スペイン語			BS201 スペイン語ⅡA-1	BS202 スペイン語ⅡA-2					
	C 中国語			BC201 中国語ⅡA-1	BC202 中国語ⅡA-2					
	R ロシア語			BR201 ロシア語ⅡA-1	BR202 ロシア語ⅡA-2					
	K 韓国語			BK201 韓国語ⅡA-1	BK202 韓国語ⅡA-2					
	J 日本語			BJ201 日本語ⅡA-1	BJ202 日本語ⅡA-2					
C 群科目	F フランス語			CF201 フランス語ⅡB-1 CF211 フランス語会話(Ⅰ)-1 CF251 フランス語・フランス語(A)-1 CF253 フランス語・フランス語(B)-1 CF255 フランス語・フランス語(C)-1 CF257 フランス語・フランス語(D)-1	CF202 フランス語ⅡB-2 CF212 フランス語会話(Ⅰ)-2 CF252 フランス語・フランス語(A)-2 CF254 フランス語・フランス語(B)-2 CF256 フランス語・フランス語(C)-2 CF258 フランス語・フランス語(D)-2	CF301 フランス語Ⅲ(A)-1 CF303 フランス語Ⅲ(B)-1 CF311 フランス語会話(Ⅱ)-1	CF302 フランス語Ⅲ(A)-2 CF304 フランス語Ⅲ(B)-2 CF312 フランス語会話(Ⅱ)-2			
	D ドイツ語			CD201 ドイツ語ⅡB-1 CD211 ドイツ語会話(Ⅰ)-1 CD251 ドイツ語・ドイツ語(A)-1 CD253 ドイツ語・ドイツ語(B)-1 CD255 ドイツ語・ドイツ語(C)-1 CD257 ドイツ語・ドイツ語(D)-1	CD202 ドイツ語ⅡB-2 CD212 ドイツ語会話(Ⅰ)-2 CD252 ドイツ語・ドイツ語(A)-2 CD254 ドイツ語・ドイツ語(B)-2 CD256 ドイツ語・ドイツ語(C)-2 CD258 ドイツ語・ドイツ語(D)-2	CD301 ドイツ語Ⅲ-1 CD311 ドイツ語会話(Ⅱ)-1	CD302 ドイツ語Ⅲ-2 CD312 ドイツ語会話(Ⅱ)-2			
	S スペイン語			CS201 スペイン語ⅡB-1 CS211 スペイン語会話(Ⅰ)-1 CS251 スペイン語・スペイン語(A)-1 CS253 スペイン語・スペイン語(B)-1 CS255 スペイン語・スペイン語(C)-1 CS257 スペイン語・スペイン語(D)-1	CS202 スペイン語ⅡB-2 CS212 スペイン語会話(Ⅰ)-2 CS252 スペイン語・スペイン語(A)-2 CS254 スペイン語・スペイン語(B)-2 CS256 スペイン語・スペイン語(C)-2 CS258 スペイン語・スペイン語(D)-2	CS301 スペイン語Ⅲ-1 CS311 スペイン語会話(Ⅱ)-1	CS302 スペイン語Ⅲ-2 CS312 スペイン語会話(Ⅱ)-2			
	C 中国語			CC201 中国語ⅡB-1 CC211 中国語会話(Ⅰ)-1 CC251 フランス語・中国語(A)-1 CC253 フランス語・中国語(B)-1 CC255 フランス語・中国語(C)-1 CC257 フランス語・中国語(D)-1	CC202 中国語ⅡB-2 CC212 中国語会話(Ⅰ)-2 CC252 フランス語・中国語(A)-2 CC254 フランス語・中国語(B)-2 CC256 フランス語・中国語(C)-2 CC258 フランス語・中国語(D)-2	CC301 中国語Ⅲ-1 CC311 中国語会話(Ⅱ)-1	CC302 中国語Ⅲ-2 CC312 中国語会話(Ⅱ)-2			
	R ロシア語			CR201 ロシア語ⅡB-1 CR211 ロシア語会話(Ⅰ)-1 CR251 フランス語・ロシア語(A)-1 CR253 フランス語・ロシア語(B)-1 CR255 フランス語・ロシア語(C)-1 CR257 フランス語・ロシア語(D)-1	CR202 ロシア語ⅡB-2 CR212 ロシア語会話(Ⅰ)-2 CR252 フランス語・ロシア語(A)-2 CR254 フランス語・ロシア語(B)-2 CR256 フランス語・ロシア語(C)-2 CR258 フランス語・ロシア語(D)-2	CR301 ロシア語Ⅲ-1 CR311 ロシア語会話(Ⅱ)-1	CR302 ロシア語Ⅲ-2 CR312 ロシア語会話(Ⅱ)-2			
	K 韓国語			CK201 韓国語ⅡB-1 CK211 韓国語会話(Ⅰ)-1 CK251 フランス語・韓国語(A)-1 CK253 フランス語・韓国語(B)-1 CK255 フランス語・韓国語(C)-1 CK257 フランス語・韓国語(D)-1	CK202 韓国語ⅡB-2 CK212 韓国語会話(Ⅰ)-2 CK252 フランス語・韓国語(A)-2 CK254 フランス語・韓国語(B)-2 CK256 フランス語・韓国語(C)-2 CK258 フランス語・韓国語(D)-2	CK301 韓国語Ⅲ-1 CK311 韓国語会話(Ⅱ)-1	CK302 韓国語Ⅲ-2 CK312 韓国語会話(Ⅱ)-2			
	J 日本語			CJ201 日本語ⅡB-1	CJ202 日本語ⅡB-2					
	E English for Juniors and Seniors					CE351 Academic Writing CE352 Integrated Oral English CE353 Academic Presentation Skills				

年度 2018	学部等 総合文化政策学部	学科等 総合文化政策学科	コード CC
------------	-----------------	-----------------	-----------

教育課程上の区分		配置年次			
大区分(卒業要件)	小区分(学修内容)	1年	2年	3年	4年
A 専門基礎科目	A 総合文化政策学	AA101 総合文化政策学入門	AA102 ACL入門	AA212 キヤリアデザイン特別講座	
	B メディア文化	AB101 メディア文化概論			
	C 都市文化	AC101 都市・国際文化概論			
	D アートマネジメント	AD101 アート・デザイン概論			
	E 経済学・経済理論	AE101 経済入門			
	H 社会学	AH101 コンピュータ統計基礎			
	J 経営学	AJ101 マネジメント入門			
	I 人文社会総合	AI101 経済と文化・社会			
	S 哲学・倫理学	AS101 哲学入門			
	U 宗教学	AU101 キリスト教文化論			
	Q 博物館学		AQ201 ミュージアム概論		
B 政策・マネジメント科目群	E 経済学・経済理論		BE201 経済分析(ミクロ)	BE202 経済分析(マクロ)	
	F 経済政策		BE211 公共経済学概論	BE212 金融概論	
	G 経済史		BF201 経済政策概論	BF202 経済発展論	
			BF203 消費経済論	BF204 文化経済学	
			BF205 日本経済概論	BF206 世界経済概論	
			BG201 経済史(1)	BG202 経済史(2)	
			BG203 現代経済史		
	H 社会学		BH201 公共社会論		BH301 社会調査実習
			BH211 社会調査論 I	BH212 社会調査論 II	
			BH213 社会調査法 I	BH214 社会調査法 II	
			BH215 統計学	BH216 社会統計学	
	J 経営学		BJ201 経営戦略概論	BJ202 経営情報論	
			BJ203 経営分析論		
			BJ211 組織と人材の管理	BJ214 ビジネスプロセスマネジメント論	
			BJ213 プロジェクトマネジメント論	BJ216 プロジェクトプロデュース論	
			BJ217 公共経営論		
	K 会計学		BK201 会計学	BK212 非営利会計論	
L 商学		BL201 マーケティング概論	BL202 マーケティング戦略論		
		BL203 サービスマーケティング概論			
		BL211 ブランド戦略論	BL212 消費文化論		
M 法学総合		BM201 著作権法	BM202 憲法概論		
		BM203 民法概論			
		BM211 文化財保護法			
N 政治学		BN201 行政学概論	BN202 行政法概論		
O 国際関係論		BO201 国際関係	BO202 国際政治学概論		
		BO203 国際平和論			
R 芸術一般		BR201 文化産業概論	BR202 公共政策論		
		BR203 文化行政法			
I 人文社会総合		BI201 観光産業論			
		BI202 トピックス・イン・ジャーナリズム・スタディーズ I	BI203 トピックス・イン・ジャーナリズム・スタディーズ II		
Q 博物館学		BQ201 ミュージアム経営論			
G 経済史		CG201 経済と文明			
H 社会学		CH201 異文化間コミュニケーション論	CH202 社会分析学		
		CH203 ネットワーク社会と文化	CH204 経営文化論		
P 地域研究		CP201 地域文化論(1)	CP202 地域文化論(2)		
		CP203 地域文化論(3)			

年度 2018	学部等 総合文化政策学部	学科等 総合文化政策学科	コード CC
------------	-----------------	-----------------	-----------

教育課程上の区分		配置年次			
大区分(卒業要件)	小区分(学修内容)	1年	2年	3年	4年
C 文化・思想科目群	R 芸術一般		CR201 表象文化概論	CR202 文化と精神分析	
			CR203 象徴記号論	CR204 文化遺産論	
			CR205 日本文化の歴史		
	S 哲学・倫理学		CS201 論理学	CS202 認識論	
			CS203 存在哲学	CS204 近代哲学史	
			CS205 現代哲学	CS206 現代思潮	
			CS207 認知哲学	CS208 芸術哲学	
			CS209 宗教哲学	CS210 公共哲学概論	
				CS212 環境哲学	
	T 思想史		CT201 日本思想史概論	CT202 社会思想史	
U 宗教学		CU201 宗教文化概論	CU202 宗教史		
		CU203 宗教社会学	CU204 比較宗教論		
		CU205 現代の神学	CU206 社会倫理		
V 情報学総合		CV201 情報環境論(1)	CV202 情報環境論(2)		
W 文化人類学		CW201 文化人類学概論	CW202 比較文明論		
Q 博物館学		CQ201 ミュージアム教育論		CW311 英断による日本研究 I	CW312 英断による日本研究 II
D メディア文化分野	B メディア文化		DB201 メディア・コミュニケーション論	DB202 広告文化論	
			DB203 メディア概論	DB204 映像メディア論	
			DB205 モバイル文化論	DB206 翻訳文化論	
				DB208 複製文化論	
	C 都市文化		DB209 メディア文化論一般講義	DB210 メディア文化論特別講義	
			DB211 スポーツ文化論	DB212 メディアリテラシー	
			DB213 メディア史		
	R 芸術一般		DC201 ストリート文化論		
			DR201 日本芸能論	DR202 日本芸能入門	
			DR203 モードとデザイン		
			DR205 映画産業論	DR206 メディア産業論	
			DR207 ファッション産業論	DR208 環境芸術論	
	W 文化人類学		DW201 祭文化論	DW202 祝祭論	
		DW203 現代日本文化論			
X 美学・芸術諸学		DX201 音楽文化論	DX202 音楽と心理		
		DX203 芸術の深層分析			
Q 博物館学		DQ201 ミュージアム情報・メディア論			
E 都市・国際文化分野	C 都市文化		EC201 都市・建築史	EC202 都市学(概論)	
			EC203 都市学(フィールド論)	EC204 創造都市論	
			EC205 文化資源学	EC206 都市政策論	
			EC207 都市認識論	EC208 都市環境論	
			EC209 まちづくり論	EC210 建築文化論	
			EC211 都市建築社会学	EC212 キリスト教と都市文化	
			EC213 都市文化論		
			EC221 エリア文化論一般講義	EC222 エリア文化論特別講義	
	H 社会学		EH201 多文化共生論	EH202 地域再生論	
			EH203 都市共生論	EH204 伝統産業論	
	O 国際関係論		EO201 日本の国際文化政策	EO202 多文化社会論	
		EO203 言語政策論	EO204 国際文化交流概論		
T 思想史		ET201 平和思想の系譜			

年度 2018	学部等 総合文化政策学部	学科等 総合文化政策学科	コード CC
------------	-----------------	-----------------	-----------

教育課程上の区分		配置年次							
大区分(卒業要件)	小区分(学修内容)	1年		2年		3年		4年	
F アート・デザイン分野	D アートマネジメント			FD201 アートマネジメント論	FD202 文化施設経営論				
				FD203 企業メセナ論	FD204 メセナ文化論				
	R 芸術一般			FR201 芸術文化政策論	FR202 舞台芸術論				
				FR203 パブリックアート	FR204 アートセラピー論				
	X 美学・芸術諸学			FR205 芸術文化論一般講義	FR206 芸術文化論特別講義				
	Y 美術史			FX201 現代アート	FX202 ビジュアルアート				
Z デザイン学				FY201 美術史(1)	FY202 美術史(2)				
				FZ201 デザイン史	FZ202 造形美術論				
				FZ203 生活デザイン論	FZ204 環境デザイン論				
				FZ205 色彩と形態	FZ206 身体とデザイン				
				FZ209 建築デザイン論	FZ208 空間デザイン論				
	Q 博物館学			FQ201 ミュージアム資料論	FQ202 ミュージアム展示論				
			FQ203 ミュージアム資料保存論						
G 演習科目	A 総合文化政策学			GA201 文化基礎演習A	GA202 文化基礎演習B	GA311 文化演習 I A	GA312 文化演習 I B	GA421 文化演習 II A	GA422 文化演習 II B
		GA141 インターンシップ		GA231 ラボ・アトリエ実習(1)		GA332 ラボ・アトリエ実習(2)			
	Q 博物館学					GQ301 ミュージアム実習 I		GQ401 ミュージアム実習 II	

年度 2018	学部等 総合文化政策学部	学科等 外国語	コード CL
------------	-----------------	------------	-----------

教育課程上の区分		配置年次							
大区分(卒業要件)	小区分(学修内容)	1年		2年		3年		4年	
A 第一外国語	E 英語	AE101 イングリッシュコミュニケーションⅠ	AE102 イングリッシュコミュニケーションⅡ	AE201 英語による日本理解Ⅰ	AE202 英語による日本理解Ⅱ				
		AE103 イングリッシュプレゼンテーションⅠ	AE104 イングリッシュプレゼンテーションⅡ						

年度 2018	学部等 社会情報学部	学科等 社会情報学科	コード FR
------------	---------------	---------------	-----------

教育課程上の区分		配置年次							
大区分(卒業要件)	小区分(学修内容)	1年		2年		3年		4年	
A フルリゾン科目	A 社会情報総合	AA101 社会情報体験演習	AA102 ソリューション入門	AA201 ソリューション応用					
	D 経済学総合	AD111 経済学概論							
	N 情報学総合	AN121 情報科学概論							
	U 人間科学総合	AU131 人間科学概論							
	U 人間科学総合	BA101 コミュニケーション基礎	BA102 コンピュータ実習	BA201 時事英語					
B 基礎科目	A 社会情報総合	BA101 コミュニケーション基礎	BA102 コンピュータ実習	BA201 時事英語					
	B 統計科学	BB101 統計入門		BB201 データ分析 BB203 社会統計	BB202 データ分析演習 BB204 社会統計演習	BB301 データマイニング	BB302 データマイニング演習		
	E 社会学			BE201 社会調査法 I	BE202 プロジェクトマネジメント	BE301 社会調査実習			
C 基礎科目(数理科系)	C 数学総合	CC101 社会数理解入門 CC111 数理情報 I CC131 社会数理解 I	CC112 数理情報 II CC132 社会数理解 II						
	C 数学総合			CC241 経済数学					
D 演習科目	A 社会情報総合			DA201 プロジェクト演習入門 I	DA202 プロジェクト演習入門 II	DA301 プロジェクト演習 I DA303 ゼミナール I	DA302 プロジェクト演習 II DA304 ゼミナール II	DA401 特定課題演習/研究 I DA403 卒業研究 I	DA402 特定課題演習/研究 II DA404 卒業研究 II
	C 数学総合					DC311 数理解代数特別演習 DC321 構造幾何特別演習			
E リエゾンA(社会・情報)科目	O 情報社会学			EO201 情報社会論 EO203 情報リスク論 EO205 リスクマネジメント論 EO211 システム分析-設計基礎 EO221 情報倫理 EO223 情報政策 EO231 社会・情報特別講義A	EO202 情報産業論 EO204 広報論 EO212 システム分析-設計基礎演習 EO222 情報化社会と法 EO232 社会・情報特別講義B		EO311 システム分析-設計応用		
	B 統計科学			FB201 確率統計					
	D 経済学総合						FD301 観光経済論		
	E 社会学			FE201 社会学 FE203 ジャーナリズム FE211 社会・人間特別講義B	FE202 現代の世界と日本				
	F 政治学			FF201 行政学			FE311 社会・人間特別講義A		
	V 人間情報学総合			FV201 ワークショップデザイン FW202 意思決定理論と実践 FX201 社会心理学 FX211 リーダーシップの理論と実践	FV202 合理的思考と社会行動				
	X 社会心理学				FX202 コミュニケーション心理学				
F リエゾンB(社会・人間)科目	N 情報学総合			GN201 メディアコンテンツ制作 GO201 ネット社会とコミュニティ GV201 マルチメディア学習論 GV203 メディアコミュニケーション	GN202 コンテンツマネジメント GO202 メディア論 GV202 ニューメディアフォーカス GV204 情報デザイン GV212 人間・情報特別講義B				
	O 情報社会学								
	V 人間情報学総合								
G リエゾンC(人間・情報)科目	N 情報学総合			GN201 メディアコンテンツ制作 GO201 ネット社会とコミュニティ GV201 マルチメディア学習論 GV203 メディアコミュニケーション	GN202 コンテンツマネジメント GO202 メディア論 GV202 ニューメディアフォーカス GV204 情報デザイン GV212 人間・情報特別講義B				
	O 情報社会学								
	V 人間情報学総合								

年度 2018	学部等 社会情報学部	学科等 社会情報学科	コード FR
------------	---------------	---------------	-----------

教育課程上の区分		配置年次								
大区分(卒業要件)	小区分(学修内容)	1年		2年		3年		4年		
H エリア(社会)科目	C 数学総合			HC231 現象の数理	HC232 現象の数理演習					
	G 理論経済学			HG201 マクロ経済学 I HG211 ミクロ経済学 I	HG202 マクロ経済学 II HG212 ミクロ経済学 II					
	H 経済政策			HH221 エネルギー経済論 HI201 公共経済学	HH222 国際エネルギー論	HH301 マクロ経済政策 HH311 ミクロ経済政策				
	I 財政・公共経済			HJ201 経済解析		HJ301 計量経済学	HJ302 計量経済学演習			
	J 経済統計			HK201 証券市場 I HK211 金融論 HK221 数理ファイナンス HK231 インベストメント	HK202 証券市場 II HK222 コーポレートファイナンス HK232 デリバティブズ	HK321 国際ファイナンス				
	K 金融・ファイナンス			HL201 経営学 HL211 経営戦略論 HL213 グローバルビジネス	HL202 経営分析	HL311 コーポレートガバナンス				
	L 経営学			HM201 会計学						
	M 会計学									
	I エリア(情報)科目	C 数学総合			IC211 離散数学		IC311 数理解代数 I IN301 人工知能基礎 IN311 情報システム計画 IN313 情報科学総合演習	IC312 数理解代数 I 演習 IN312 情報システム演習		
		N 情報学総合								
P 情報学基礎理論				IP201 プログラミング基礎 IP211 情報科学基礎 IP221 オブジェクト指向プログラミング	IP202 プログラミング基礎演習 IP212 アルゴリズムとデータ構造 IP222 オブジェクト指向プログラミング演習					
Q マルチメディア・データベース				IQ201 データベース基礎 IR201 コンピュータネットワーク基礎		IQ301 データベースシステム IR301 ネットワーク構築演習 IR311 サーバー構築演習				
R 情報ネットワーク				IS201 ウェブコンテンツ作成実習	IS202 ウェブテクノロジー	IS301 ウェブプログラミング演習	IS302 ウェブ論			
S ウェブ情報学										
T 情報セキュリティ						IT301 情報セキュリティ				
U 人間科学総合				JU201 人間科学研究法	JU202 心理学演習	JU311 スポーツと心の科学				
W 認知科学										
X 社会心理学										
J エリア(人間)科目	Y 教育心理学									
	A 社会情報総合	KA101 地方行政と産業振興		KA201 インターンシップ KA203 ワークショップデザイン実践 KA205 チームパフォーマンス演習	KA202 情報と職業 KA204 セルフリーダーシップ演習 KA206 キャリアアクション演習					
	KC101 数学入門 KC111 数理情報 I 演習	KC112 数理情報 II 演習								
	C 数学総合	KC131 社会数理解 I 演習	KC132 社会数理解 II 演習	KC221 構造幾何 I KC231 数理解析基礎 KC233 数の歴史 KE201 社会調査法 II KS201 ウェブサービス構築	KC222 構造幾何 I 演習 KC232 数理解析基礎演習	KC311 数理解代数 II KC321 構造幾何 II KC323 集合と位相 KC331 複素解析	KC322 構造幾何 II 演習 KC324 集合と位相演習 KC332 複素解析演習			
	E 社会学									
	S ウェブ情報学									

年度 2018	学部等 社会情報学部	学科等 外国語	コード RL
------------	---------------	------------	-----------

教育課程上の区分		配置年次							
大区分(卒業要件)	小区分(学修内容)	1年		2年		3年		4年	
A 英語基礎科目	E 英語	AE101 <small>イングリッシュコミュニケーションⅠ</small>	AE102 <small>イングリッシュコミュニケーションⅡ</small>	AJ201 日本語初級C-1	AJ202 日本語初級C-2				
	J 日本語	AJ101 日本初級A-1	AJ102 日本初級A-2	AJ203 日本語中級A-1	AJ204 日本語中級A-2				
		AJ103 日本初級B-1	AJ104 日本初級B-1	AJ205 日本語中級B-1	AJ206 日本語中級B-2				
B 英語展開科目	E 英語			BE201 英語実践演習Ⅰ	BE202 英語実践演習Ⅱ	BE301 <small>イングリッシュコミュニケーション</small>	BE302 ビジネスライティング		
				BE203 英語実践演習Ⅲ	BE204 英語実践演習Ⅳ	BE303 論文構成論			

年度 2018	学部等 地球社会共生学部	学科等 地球社会共学生科	コード WW
------------	-----------------	-----------------	-----------

教育課程上の区分		配置年次							
大区分(卒業要件)	小区分(学修内容)	1年		2年		3年		4年	
A StudySkill	A StudySkill	AA111 レポート作成法演習	AA112 リーダーシップ論演習Ⅰ						
		AA113 リーダーシップ論演習Ⅱ	AA121 コミュニケーション論演習	AA122 ビジネスマナー演習					
B Fundamental	A Fundamental	AA123 留学準備セミナー	AA132 Webコミュニケーション						
		AA131 Web入門と情報リテラシー	AA133 はじめての空間情報システム						
		AA141 アジアの多様な文化圏近代史Ⅰ	AA142 アジアの多様な文化圏近代史Ⅱ						
		AA151 日本語概論	AA152 日本語教授法						
		AA153 文章作成法							
		BA111 地球共生学Ⅰ	BA112 地球共生学Ⅱ						
		BA113 世界の青学	BA114 産業集積とグローバル化と学芸						
		BA115 地球市民論入門	BA121 クリテイカルシンキング入門						
		BA121 クリテイカルシンキング入門	BA122 クリテイカルシンキング入門						
		BA123 レトリック入門	BA132 研究手法論入門	BA233 基礎演習		BA342 フォーワードスタディーⅠ	BA343 フォーワードスタディーⅡ		
BA131 知の技法入門		BA241 フォーワードワーク論							
C Introductory	A メディア/空間情報	CA111 ジャーナリズムの歴史	CA112 情報インパクト論入門						
		CA121 空間情報システム入門Ⅰ	CA122 空間情報システム入門Ⅱ						
	B ソシオロジー	CB111 社会学入門	CB112 社会心理学入門						
		CB113 文化人類学入門							
	C コラボレーション	CC111 国際政治学入門	CC112 国際協力論入門						
		CC113 国際開発学入門							
	D ビジネス	CD111 経済学入門	CD112 統計学入門						
		CD113 アジアの経済入門	CD114 日本経済入門						
D Basic	A メディア/空間情報			DA211 メディアの法律と倫理	DA212 ジャーナリスト論				
				DA213 メディア・コミュニケーション					
				DA221 空間情報学基礎Ⅰ	DA222 空間情報学基礎Ⅱ				
				DA223 空間情報デザイン基礎	DA224 空間的思考				
				DA231 グローバル世論動向論	DA232 文化資源とメディア				
				DA233 グローバル社会メディア論					
				DA241 空間情報の取得技術	DA242 空間情報の表現技術				
				DA243 空間情報の共有技術					
	B ソシオロジー			DB211 社会学概論	DB212 フローリダゼーションの社会学				
				DB221 人口の社会学	DB222 家族の社会学				
				DB223 ジェンダーの社会学					
				DB231 地域社会保健福祉論	DB232 健康社会情報学				
				DB233 環境と健康					
				DB241 社会調査論Ⅰ	DB242 社会調査論Ⅱ				
	C コラボレーション			DC211 貧困と開発	DC212 国際関係論				
				DC213 人間の安全保障論					
				DC221 北東アジア地域社会論	DC222 東南アジア地域社会論				
				DC223 南アジア地域社会論					
				DC231 比較文化論	DC232 アジアの歴史と文化				
				DC233 アジアの政治と文化					
D ビジネス			DD211 国際経済学	DD212 国際金融論					
			DD213 国際投資貿易論						
			DD221 共生の経済学	DD222 社会的企業論					
			DD223 NPO/NGO論						
			DD231 ミクロ経済学	DD232 マクロ経済学					
			DD233 経済統計学						

年度	学部等	学科等	コード
2018	地球社会共生学部	地球社会共生学科	WW

教育課程上の区分		配置年次					
大区分(卒業要件)	小区分(学修内容)	1年	2年	3年	4年		
E Advanced	A メディア/空間情報		EA211 ジーナリスム取材演習 EA213 インタビュー演習 EA221 空間調査・測定法 EA223 空間の利用と立地 EA231 現代日本の論点 EA233 メディアと思想潮流 EA241 応用空間情報学Ⅰ EA243 応用空間情報学Ⅲ EA251 特殊講義M(Ⅰ) EA253 特殊講義SI(Ⅰ)	EA212 ニュースライティング EA222 空間分析 EA232 知的財産と公共性 EA234 スポーツ・エンタメメディア EA242 応用空間情報学Ⅱ EA252 特殊講義M(Ⅱ) EA254 特殊講義SI(Ⅱ)			
	B ソシオロジー		EB211 共生の社会学 EB213 教育の社会学 EB221 環境の社会学 EB223 政治の社会学 EB231 現代社会論 EB233 国際比較論 EB241 社会変動論 EB243 ソーシャル・ネットワーク論 EB251 社会調査法Ⅰ EB253 社会調査実習Ⅰ EB261 特殊講義S(Ⅰ) EB263 特殊講義S(Ⅲ)	EB212 文化の社会学 EB214 宗教の社会学 EB222 地域の社会学 EB224 福祉の社会学 EB232 現代思想論 EB242 社会階層論 EB252 社会調査法Ⅱ EB254 社会調査実習Ⅱ EB262 特殊講義S(Ⅱ)			
	C コラボレーション		EC211 国際機構論 EC213 国際協力実践論 EC221 持続的開発論 EC223 地域開発論 EC231 地球環境と資源 EC233 紛争・難民・平和構築 EC241 国際文化関係論 EC243 エンパワメント論 EC251 文化芸術コミュニティ論 EC253 スポーツとコミュニティ EC261 特殊講義C(Ⅰ) EC263 特殊講義C(Ⅲ)	EC212 国際協力戦略論 EC222 社会・人間開発論 EC232 自然災害とリスク管理 EC242 多文化共生論 EC252 バイオ・ヒューマン・アーツ・エコノミー EC262 特殊講義C(Ⅱ)			
	D ビジネス		ED211 アジア新興国別戦略研究Ⅰ ED213 アフリカ諸国別戦略研究 ED221 現代アジア経済史 ED223 カントリー・リスク論 ED231 アジアの農業 ED233 アジアの都市インフラ ED241 国際経営戦略論 ED251 ホスピタリティ論 ED253 ツーリズムマネジメント ED261 特殊講義B(Ⅰ) ED263 特殊講義B(Ⅲ)	ED212 アジア新興国別戦略研究Ⅱ ED214 中南米諸国別戦略研究 ED222 アジア太平洋経済統合論 ED232 アジアの交通・物流 ED242 アジアビジネス論 ED252 アジアの観光 ED262 特殊講義B(Ⅱ)			
F Capstone	A Capstone		FA206 インタナショナルプロジェクトⅠ FA208 リーダーシップワークショップⅠ	FA207 インタナショナルプロジェクトⅡ FA209 リーダーシップワークショップⅡ	FA301 演習ⅠA FA302 演習ⅠB	FA403 演習ⅡA FA405 演習(卒論)	FA404 演習ⅡB

年度	学部等	学科等	コード
2018	地球社会共生学部	地球社会共生学科	WW

教育課程上の区分		配置年次					
大区分(卒業要件)	小区分(学修内容)	1年	2年	3年	4年		
G Japan Studies	A Geography	GA111 Topics in Japanese Geography I GA113 Topics in Japanese Geography III	GA112 Topics in Japanese Geography II GA114 Topics in Japanese Geography IV				
	B History	GB111 Topics in Japanese History I GB113 Topics in Japanese History III	GB112 Topics in Japanese History II GB114 Topics in Japanese History IV				
	C Culture	GC111 Topics in Japanese Culture I GC113 Topics in Japanese Culture III	GC112 Topics in Japanese Culture II GC114 Topics in Japanese Culture IV				
	D Economy, Business, and Policy	GD111 Topics in Japanese Economy, Business, and Policy I GD113 Topics in Japanese Economy, Business, and Policy III	GD112 Topics in Japanese Economy, Business, and Policy II GD114 Topics in Japanese Economy, Business, and Policy IV				

年度	学部等	学科等	コード
2018	地球社会共生学部	外国語	VL

教育課程上の区分		配置年次							
大区分(卒業要件)	小区分(学修内容)	1年		2年		3年		4年	
A StudySkill	A 英語	AA111 Academic English/Speaking & Listening I	AA112 Academic English/Reading & Writing I	AA215 Academic English/Applied Skills	AA216 Academic English/Advances I				
		AA113 Academic English/Speaking & Listening II	AA114 Academic English/Reading & Writing II						
	B タイ語	AB111 アジアの言語と文化I(タイ語初級)	AB112 アジアの言語と文化II(タイ語中級)						

10. その他の FD 活動

2014 年度より、本学教員を対象とした「教員のための英語研修プログラム」を開催している。2017 年度も 6 月 28 日（相模原キャンパス）、7 月 12 日（青山キャンパス）の計 2 回実施した。

○ 2017 年度 教員のための英語研修プログラム

2017 年度も昨年に引き続き、教員のための英語研修プログラムを年間 2 回実施した。講師は、英国の公的国際文化交流機関であるブリティッシュ・カウンシルから招き、研修はすべて英語で実施した。第 1 回目は、相模原キャンパスで初めて開催した。2 回目は、ブリティッシュ・カウンシルのプログラムでも難易度の高い「アカデミック・ライティング」発展形のプログラムを初めて開催した。参加者は各回とも 3 名で例年と比較し、やや少なめであったが、プログラムの満足度は例年どおり高い評価となった。詳細は下記のとおりである。

【第 1 回目】

日 時：2017 年 6 月 28 日（水）10：00～17：10

参加者：3 名

内 容：「講義とプレゼンテーション（導入）」教員が英語で講義やプレゼンテーションを行うにあたり、明確で論理的、かつ分かりやすいように行う方法を学ぶ。

【第 2 回目】

日 時：2017 年 7 月 12 日（水）10：00～17：10

参加者：3 名

内 容：「アカデミック・ライティング（発展）」事前に提出を課すライティング課題に基づき、レッスンの中で改善点など相互評価し、コース終了後、再提出を行う。その後、講師によりレビューされフィードバックされる。

【参加者アンケート】

- 研修について

Q1. 研修のレベルは適切でしたか。

回答		合計	
		6 月 28 日	7 月 12 日
難しい	難しすぎた	3	0
	やや難しかった	0	2
適切		0	1
簡単	やや易しかった	0	0
	易しすぎた	0	0
無回答		0	0
合計		3	3

Q2. 曜日、時間のご都合はいかがでしたか。

回答	合計	
	6 月 28 日	7 月 12 日
都合が良かった	3	3
予定があわなかった	0	0
無回答	0	0
合計	3	3

Q3. 研修期間は適切でしたか。

回答		合計	
		6月28日	7月12日
長い	長すぎた	0	0
	やや長かった	0	1
適切		3	1
短い	やや短かった	0	0
	短すぎた	0	1
無回答		0	0
合計		3	3

Q4. 研修内容はご自身のニーズに合っていましたか。

回答		合計	
		6月28日	7月12日
肯定	常にあっていた	1	2
	大抵あっていた	2	1
中間	時々あっていた	0	0
否定	あまり合っていない	0	0
	全く合っていない	0	0
無回答		0	0
合計		3	3

Q5. この研修を履修して英語力、英語スキルが上がったと思いますか。

回答	合計	
	6月28日	7月12日
はい	3	3
いいえ	0	0
無回答	0	0
合計	3	3

● Q5の理由

: 実践で使える frase をいくつか学べた。シチュエーションの説明が良かった。(6/28)

: 決まった言い回しを知ることができた。(6/28)

: プレゼンの組み立て方、使えるフレーズを学べてよかった。(6/28)

: Structure, Article が特に有用 (7/12)

: I could talk more than I thought. (7/12)

: 勉強する題材が得られたと思う。(7/12)

11. 諸規則

○ 青山学院大学 FD 規則

(2009年3月26日理事会承認)

- (趣旨)
第1条 この規則は、大学設置基準(昭和31年文部省令第28号)第25条の3に基づき、青山学院大学(以下「本学」という。)全体の授業の内容及び方法の改善を図るための組織的な取り組みであるファカルティ・ディベロップメント活動(以下「FD活動」という。)について必要な事項を定めるものとする。
- (組織)
第2条 本学のFD活動を適切に実施するため、次の委員会を置く。
(1) 全学FD委員会
(2) FD推進委員会
2 全学FD委員会は、FD活動を円滑に運営するために必要な事項等を審議する。
3 FD推進委員会は、FD活動の企画、立案及び実施に必要な事項等を審議する。
4 全学FD委員会及びFD推進委員会について、構成、審議事項等、その運営に必要な事項は、別に定める細則による。
- (所管)
第3条 この規則は、学務部教務課が所管する。
- (改廃手続)
第4条 この規則の改廃は、全学FD委員会、学部長会及び教授会の議を経たのち、常務委員会及び理事会の承認を得て、学長がこれを行う。

附 則
この規則は、2009年3月27日から施行する。

○ 青山学院大学全学 FD 委員会運営細則

(2009年3月16日学部長会承認)

- (趣旨)
第1条 この細則は、青山学院大学FD規則第2条第4項の規定に基づき、全学FD委員会(以下「FD委員会」という。)について、構成、審議事項等、その運営に必要な事項を定めるものとする。
- (構成)
第2条 FD委員会は、次の委員をもって構成する。
(1) 青山学院大学FD推進委員会運営細則第2条第1項に規定するFD推進委員会委員
(2) 青山学院大学全学教務委員会規則(以下「全学教務委員会規則」という。)第2条第1項に規定する全学教務委員会委員
(3) 全学教務委員会規則第9条に規定する全学教務委員会出席者
2 FD委員会が特に必要と認めるときは、委員以外の者に列席を求め、その意見を聴くことができる。
- (委員長)
第3条 FD委員会に、委員長を置き、学務及び学生担当の副学長をこれに充てる。
2 委員長は、委員会を代表し、委員会の業務を統括する。
- (副委員長)
第4条 FD委員会に、副委員長1名を置く。
2 副委員長は、委員長が委員の中から指名する。
3 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故あるときには、委員長の職務を代行する。
4 副委員長の任期は、1年とする。ただし、再任を妨げない。
- (招集、開催及び定足数)
第5条 FD委員会は、必要に応じて委員長が招集し、その議長となる。
2 FD委員会の定足数は、構成員の過半数とする。
- (審議事項)
第6条 FD委員会は、次の事項を審議する。
(1) FD活動全般に関する事項
(2) FD推進委員会の審議結果に関する事項
(3) その他FD活動を円滑に運営するために必要な事項
- (審議結果)
第7条 委員長は、前条の審議結果を学長に報告するものとする。
- (事務の所管)
第8条 FD委員会に関する事務は、学務部教務課が行う。
- (改廃手続)
第9条 この細則の改廃は、FD委員会、学部長会及び教授会の議を経て、学長がこれを行う。

附 則
この細則は、2009年3月27日から施行する。

○ 青山学院大学 FD 推進委員会運営細則

(2008年10月6日学部長会承認)

改正 2009年3月2日 2012年2月27日

- (趣旨)
第1条 この細則は、青山学院大学FD規則第2条第4項の規定に基づき、FD推進委員会(以下「委員会」という。)について、構成、審議事項等、その運営に必要な事項を定めるものとする。
- (構成)
第2条 委員会は、次の委員をもって構成する。
(1) 副学長(学務及び学生担当)
(2) 専任教員の中から学長が指名する者 若干名
(3) 事務職員の中から学長が指名する者 若干名
2 前項第2号及び第3号に規定する委員の任期は、2年とする。ただし、再任を妨げない。
3 委員会が特に必要と認めるときは、委員以外の者に列席を求め、その意見を聴くことができる。
- (委員長)

第3条 委員会に、委員長を置き、前条第1項第1号に規定する副学長をこれに充てる。

2 委員長は、委員会を代表し、委員会の業務を統括する。

(副委員長)

第4条 委員会に、副委員長1名を置く。

2 副委員長は、委員長が委員の中から指名する。

3 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故あるときには、委員長の職務を代行する。

4 副委員長の任期は、2年とする。ただし、再任を妨げない。

(招集、開催及び定足数)

第5条 委員会は、必要に応じて委員長が招集し、その議長となる。

2 委員会の定足数は、構成員の過半数とする。

(審議事項)

第6条 委員会は、次の事項を審議する。

- (1) FD活動の啓発に関する事項
- (2) FD活動の企画、立案及び実施に関する事項
- (3) 学長の諮問する事項
- (4) その他FD活動全般に関する事項

(審議結果)

第7条 委員長は、前条の審議結果を学長に報告するものとする。

(学生FDスタッフ)

第8条 必要な場合には、委員会の下に学生FDスタッフ(以下「スタッフ」という。)を置くことができる。

2 スタッフは、委員会の委員の指示により、FD活動に係る業務に当たる。

3 スタッフは、学部又は大学院研究科に在籍する学生で、FD活動への参加を希望する者の中から、委員会が任命する。

(事務の所管)

第9条 委員会に関する事務は、学務部教務課が行う。

(改廃手続)

第10条 この細則の改廃は、委員会及び学部長会の議を経て、学長がこれを行う。

附 則

この細則は、2008年10月7日から施行する。

附 則(2009年3月2日)

この細則は、2009年3月27日から施行する。

附 則(2012年2月27日)

この細則は、2012年4月1日から施行する。

○ 青山学院大学FDに係るデータ取扱に関する要領

(2009年2月4日制定)

(趣旨)

第1条 この要領は、学校法人青山学院個人情報保護に関する規則に基づき、青山学院大学のファカルティ・ディベロップメント(授業の内容及び方法の改善を図るための組織的な取り組み。以下「FD」という。)活動において必要なデータの収集、集計と取り扱いについて、必要な事項を定める。

(目的)

第2条 データについては、以下の目的に使用される。

- (1) FD活動における企画・立案に資する
- (2) FD活動の報告に資する

2 前項以外の目的で、FD推進委員会(以下委員会)委員長が必要と認めたもの。

(データの範囲)

第3条 本要領が予定するデータとは、以下に掲げる各別から個人を特定できる情報を除いた匿名化データをいう。

- (1) 広報入試センターが業務上収集する入試及び広報関連データ
- (2) 学生部が管理するデータ
- (3) 教務課が管理するデータ
- (4) 進路・就職センターが業務上収集する就職関連データ
- (5) 委員会が実施する調査データ・アンケートデータ
- (6) その他委員会が必要とするデータ

(データの収集)

第4条 FD活動に関わる必要なデータは、委員長が各部署と協議の上、学長名に基づき収集を行う。

(データ管理責任者)

第5条 データ管理責任者は委員会委員長とし、データは、各部署より委員長宛に提出する。

(データ利用者として利用時の注意義務、集計場所及び目的外利用の禁止)

第6条 データは委員会が認められた集計目的にのみ用いられ、その集計は同委員会から委嘱された専任教員(以下データ利用者)が、委員長の任命を受けてこれを行う。

2 データ利用者は集計期間中、原データや中間生成ファイルの保管に遺漏なく努めなければならない。ネットワークを介した当該情報の漏洩や集計場所への第三者の立ち入り、保存メディアの管理に対し、データ利用者は細心の注意を払う義務を負う。

3 データの使用場所は、原則として本学内とするが、データに十分な匿名化処理が施されていて、かつ委員長が特に必要と認めた場合についてはこの限りでない。

(結果の公表と守秘義務)

第7条 データ利用者は、係る集計が終了した後、速やかに委員長に報告する。委員長は集計結果について、委員会の議を経たのち、必要に応じて公表することができる。結果の正規公表がなされない限り、データ利用者及び委員会委員は、集計過程で知りえた情報を一切口外してはならない。

(データの利用期間と破棄)

第8条 委員会が認められた目的に係る集計が終了した後、データ利用者は、速やかに中間生成ファイルを含む全ての利用データを削除し、データ管理責任者は、データの破棄を確認するとともに、これを学長に報告しなければならない。

(事故等への対応)

第9条 前条及び前条以外の項目について、事故等が発生した場合は、「学校法人青山学院個人情報保護に関する規則」を準用するものとする。

(改廃手続)

第10条 この要領の改廃は、委員会が行う。

附 則

この要領は、2009年2月4日から施行する。

12. 全学FD委員会 委員一覧

○ 全学FD委員会委員（※1：FD推進委員会委員、※2：全学教務委員会委員）

氏名		所属等	備考
委員長	田中 正郎	副学長、経営学部マーケティング学科	※1
副委員長	杉谷 祐美子	教育人間科学部教育学科	※1
委員	大道 千穂	経営学部マーケティング学科	※1
委員	大山 和寿	法学部法学科	※1
委員	中野 昌宏	総合文化政策学部総合文化政策学科	※1
委員	米山 淳	理工学部電気電子工学科	※1
委員	宮川 裕之	社会情報学部社会情報学科	※1
委員	山口 直也	会計専門職大学院会計プロフェッション研究科	※1
委員	菅野 治男	事務局長	※1
委員	白濱 哲郎	政策・企画部 部長	※1
委員	馬場 俊和	学務部 部長	※1、2
委員	竹田 治世	学務部 教育支援課 課長	※1
委員	鳥海 貴裕	学務部 教育支援課 主任	※1
委員	土居 美菜子	学務部 教育支援課	※1
委員	萩原 とよ子	相模原事務局 学務課 主任	※1
委員	塩谷 直也	大学宗教部長	※2
委員	西澤 宗英	青山スタンダード教育機構副機構長	※2
委員	ALLEN 玉井 光江	文学部	※2
委員	早坂 方志	教育人間科学部	※2
委員	平出 尚道	経済学部	※2
委員	松田 憲忠	法学部	※2
委員	尹 志煌	経営学部	※2
委員	渡邊 千秋	国際政治経済学部	※2
委員	竹内 孝宏	総合文化政策学部	※2
委員	谷口 健二	理工学部	※2
委員	宮治 裕	社会情報学部	※2
委員	岡本 真佐子	地球社会共生学部	※2
委員	鈴木 あつ子	相模原事務局 学務課 課長	※2、～1017年5月
委員	黒沼 一輝	相模原事務局 学務課 課長	※2、2017年6月～
委員	押村 高	副学長、国際政治経済学部国際政治学科	
列席者	乃美 浩一	学務部 教務課 課長	※2

2017 年度

青山学院大学 FD 活動報告書

発行日 2018 年 10 月 1 日

発行 青山学院大学 全学 FD 委員会
学務部教育支援課

150-8366 東京都渋谷区渋谷 4-4-25 17 号館 2 階 スチューデントセンター
Tel. 03-3409-4165 Fax. 03-3409-9423

発行責任者 田中 正郎

150th
140th

